
高砂市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和7年3月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 調査票の回収状況	1
(4) 留意点	1
2. 調査結果	2
(1) あなたのことについて	2
(2) 男女平等に対する意識について	8
(3) 女性の社会進出について	44
(4) 男性の家事・育児などへの参加について	52
(5) ワーク・ライフ・バランスについて	56
(6) DV、セクシュアル・ハラスメントについて	57
(7) 地域活動について	73
(8) 防災・災害復興対策について	80
(9) さいごに	84
3. 調査結果のまとめ	91
資料編（調査票）	96

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、令和8年度から5年間を計画期間とする「第4次たかさご男女共同参画プラン」の策定に向け、市民の男女共同参画に関する意識を調査し、実情を把握することを目的として実施しました。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査名	高砂市 男女共同参画に関する市民意識調査
対象者	高砂市にお住まいの18歳以上の方の中から無作為抽出した1,000人
実施期間	令和6年9月24日（火）～令和6年10月11日（金）
実施方法	郵送配布、郵送回収・WEB回答

(3) 調査票の回収状況

回収状況は以下のとおりです。

配布数	1,000件
有効回答数	336件
有効回答率	33.6%

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer)、3LA (3 Limited Answer) と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. 比較対象としている各調査の概要は以下のとおりとなっています。
 - ・令和元年度調査…高砂市において令和元年度に実施した「高砂市 男女共同参画に関する市民意識調査」
 - ・兵庫県調査…兵庫県において令和元年度に実施した第2回県民モニターアンケート調査「男女共同参画に関する意識調査」

Q1-4 あなたの職業を教えてください。(〇は1つ)

【全体】

- 職業について、「勤め人（常勤・フルタイム）」が33.6%で最も多く、次いで「無職」が20.5%、「専業主婦・専業主夫」が18.2%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「勤め人（常勤・フルタイム）」が6.1ポイント多く、「専業主婦・専業主夫」が5.3ポイント少なくなっています。

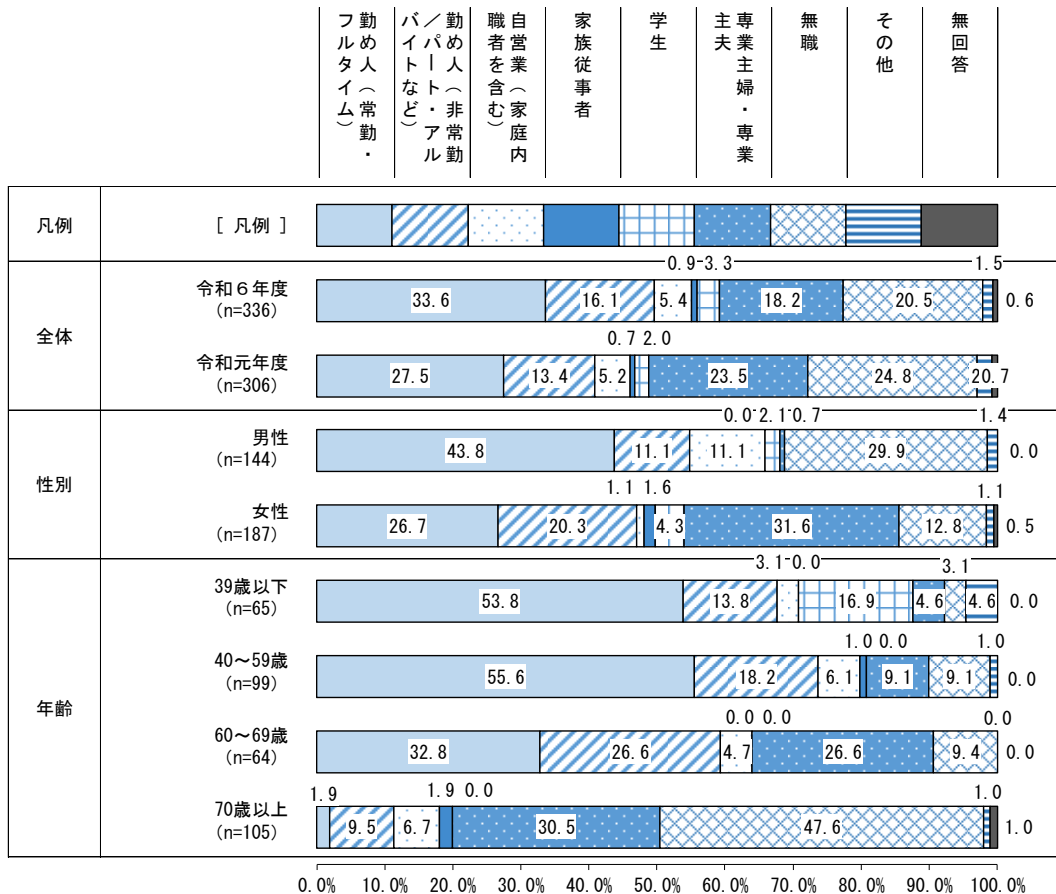
【性別】

- 男性では、「勤め人（常勤・フルタイム）」が43.8%で最も多いのに対し、女性では、「専業主婦・専業主夫」が31.6%で最も多く、次いで「勤め人（常勤・フルタイム）」が26.7%、「勤め人（非常勤／パート・アルバイトなど）」が20.3%となっています。

【年齢】

- 39歳以下、40～59歳では、「勤め人（常勤・フルタイム）」が5割以上で最も多くなっています。
- 60～69歳では、「勤め人（常勤・フルタイム）」が32.8%で最も多く、次いで「勤め人（非常勤／パート・アルバイトなど）」「専業主婦・専業主夫」がともに26.6%となっています。
- 70歳以上では、「無職」が47.6%で最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」が30.5%となっています。

【職業】

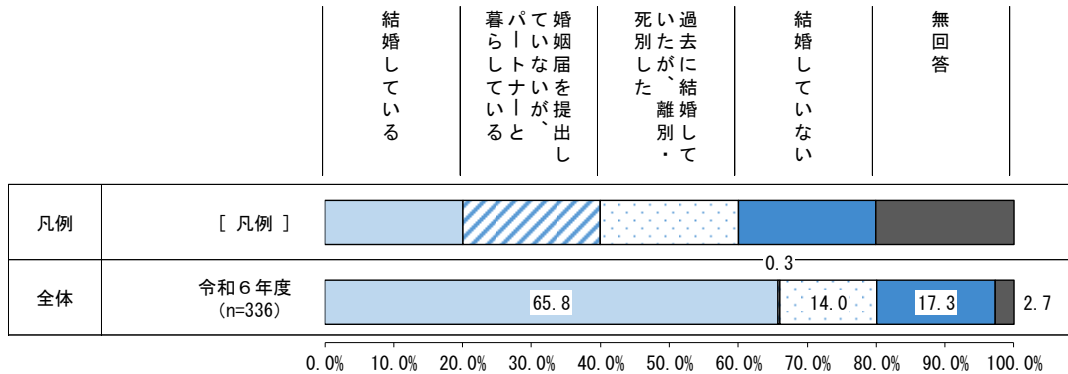


Q1-5 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

【全体】

- 婚姻について、「結婚している」が65.8%で最も多く、次いで「結婚していない」が17.3%、「過去に結婚していたが、離別・死別した」が14.0%となっています。

【婚姻】



Q1-5-1 [1-5で「結婚している」「婚姻届を提出していないが、パートナーと暮らしている」と答えた方のみ] あなたの配偶者等の職業を教えてください。(〇は1つ)

【全体】

- 配偶者等の職業について、「勤め人（常勤・フルタイム）」が31.5%で最も多く、次いで「無職」が27.0%、「専業主婦・専業主夫」が18.0%となっています。

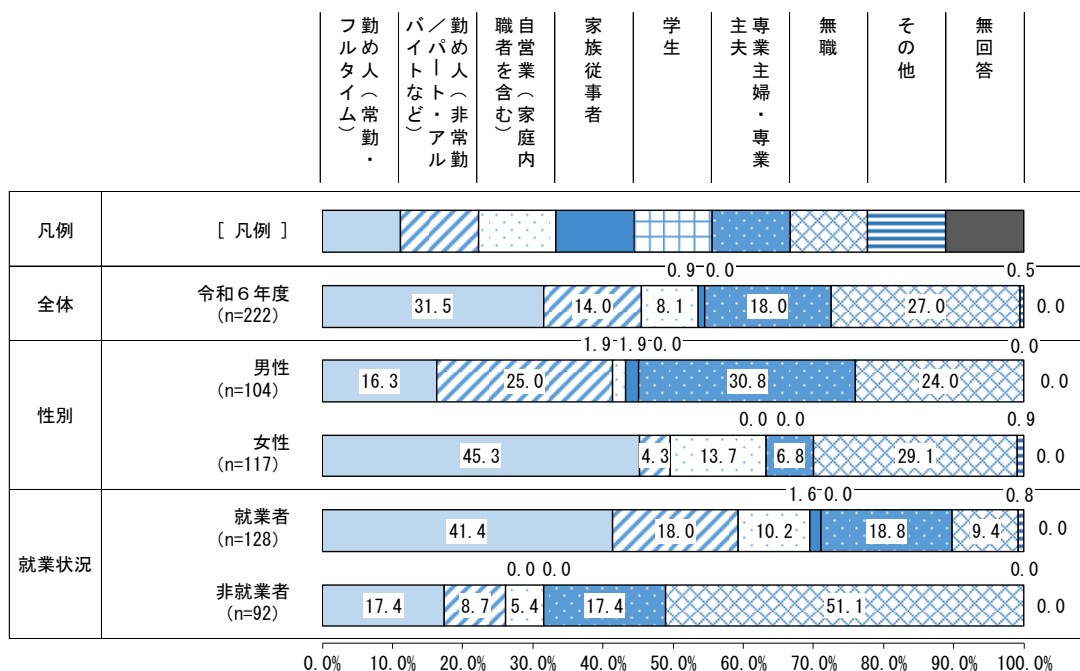
【性別】

- 回答者本人が女性の場合、配偶者（夫）等の職業は、「勤め人（常勤・フルタイム）」が45.3%となっていますが、回答者本人が男性の場合では、配偶者（妻）等の職業は、「専業主婦・専業主夫」が30.8%で最も多く、次いで「勤め人（非常勤/パート・アルバイトなど）」が25.0%、「無職」が24.0%となっています。

【就業状況】

- 回答者本人が就業者かつ、配偶者（夫・妻）等の職業が「勤め人（常勤・フルタイム）」の割合は41.4%となっています。

【配偶者等の職業】

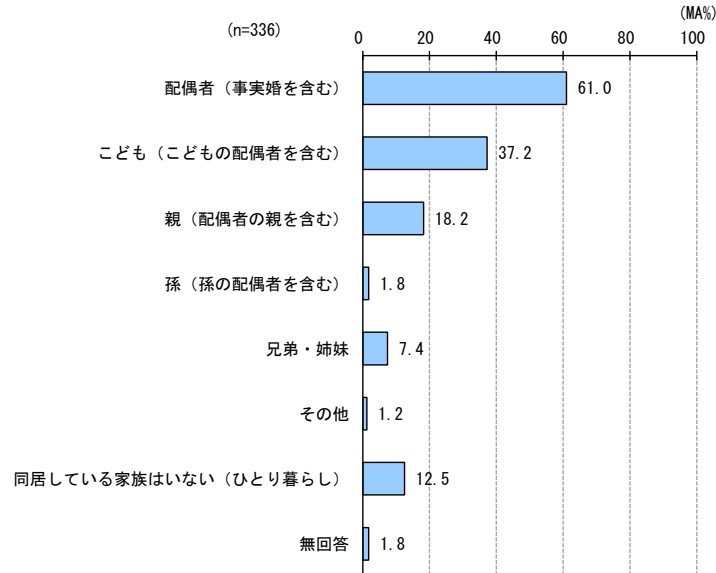


Q1-6 あなたが現在、同居しているご家族をお答えください。(〇はいくつでも)

【全体】

〇 同居家族について、「配偶者（事実婚を含む）」が61.0%で最も多く、次いで「子ども（子どもの配偶者を含む）」が37.2%、「親（配偶者の親を含む）」が18.2%となっています。

【同居家族】

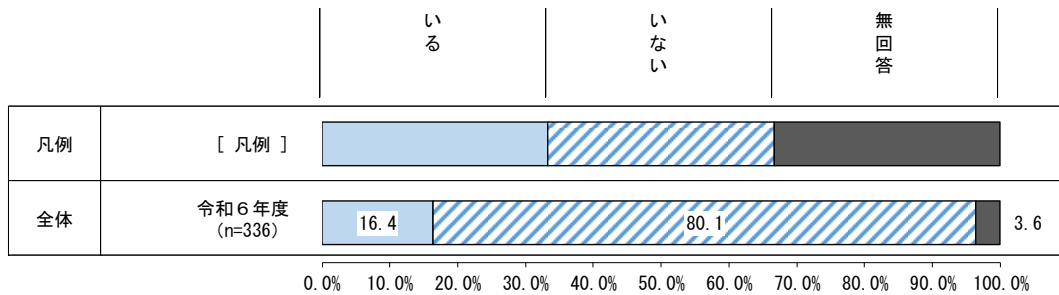


Q1-7 あなたには、18歳以下のお子さんがいますか。(〇は1つ)

【全体】

〇 18歳以下の子どもの有無について、「いる」が16.4%、「いない」が80.1%となっています。

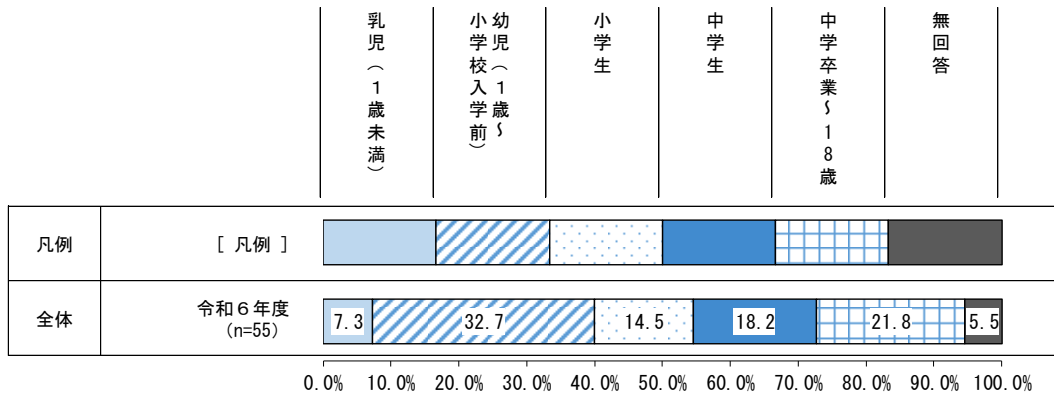
【18歳以下の子どもの有無】



Q1-7-1 [1-7で「いる」と答えた方のみ] 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

【全体】
 ○ 一番下のこどもの年齢について、「幼児（1歳～小学校入学前）」が32.7%で最も多く、次いで「中学卒業～18歳」が21.8%、「中学生」が18.2%となっています。

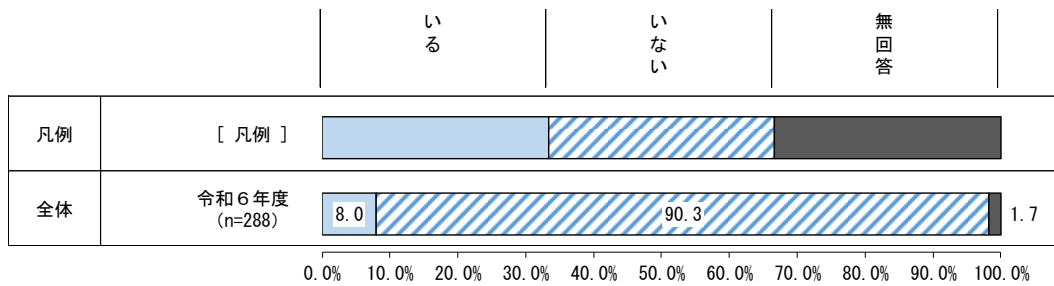
【一番下のこどもの年齢】



Q1-8 あなたの同居している家族の中には、日常的に介護を必要とする人がいますか。(○は1つ)

【全体】
 ○ 要介護者の有無について、「いる」が8.0%、「いない」が90.3%となっています。

【要介護者の有無】



Q1-9 現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。(〇は1つ)

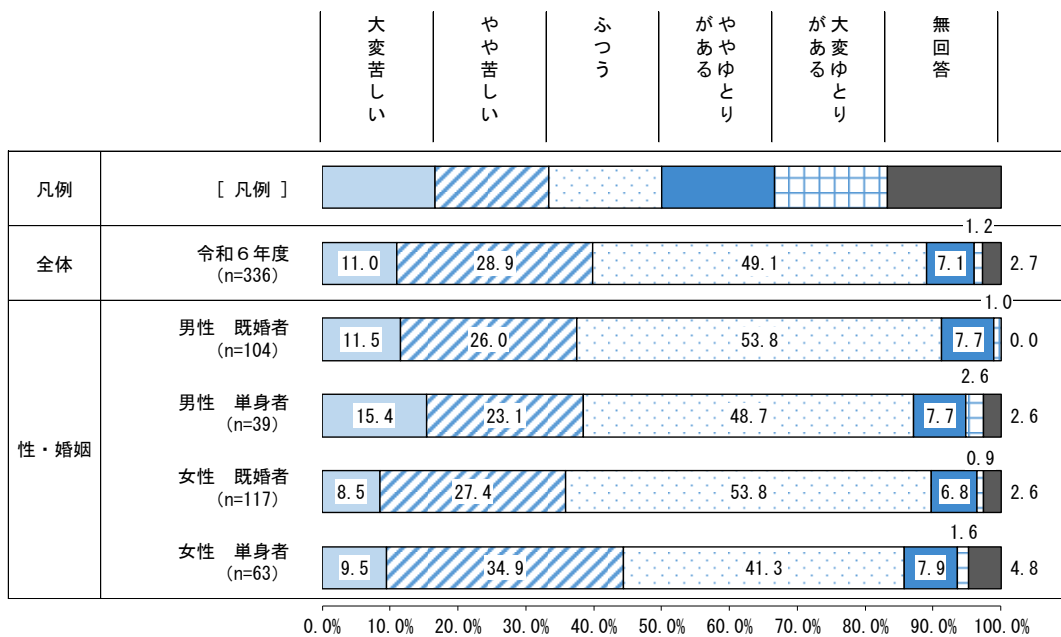
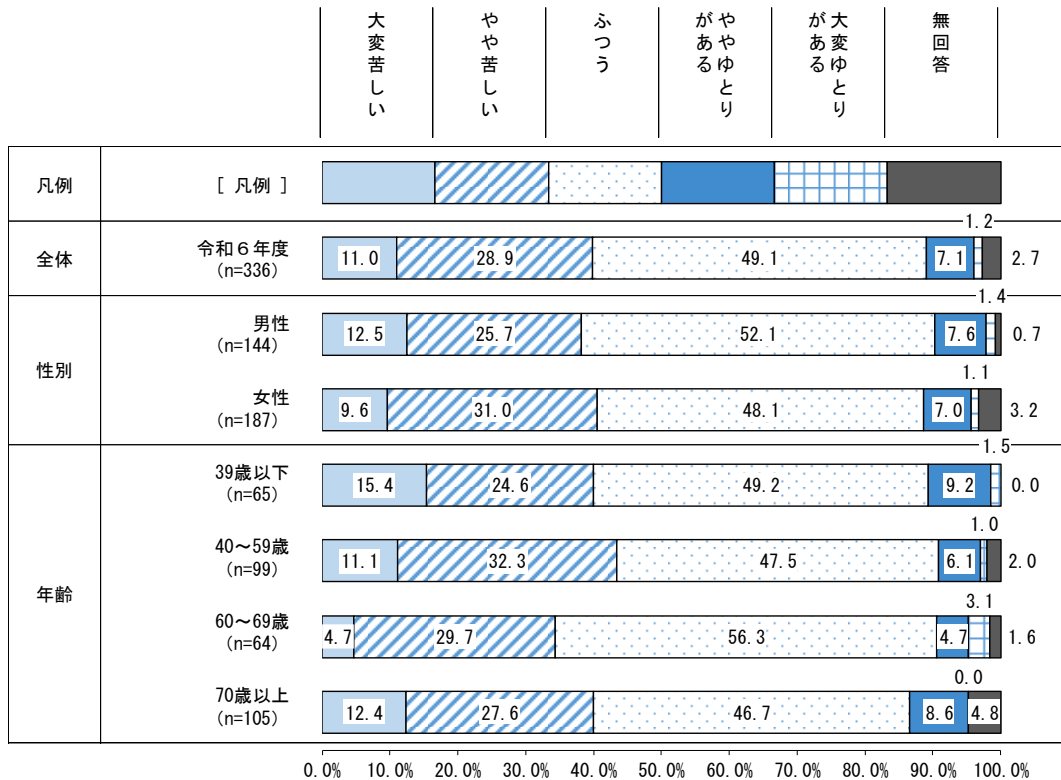
【全体】

○ 経済状況について、「ふつう」が49.1%で最も多く、次いで「やや苦しい」が28.9%、「大変苦しい」が11.0%となっています。「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた“苦しい”は39.9%となっています。

【性・婚姻】

○ 女性の単身者では、“苦しい”が44.4%と他の区分に比べて多くなっています。

【経済状況】



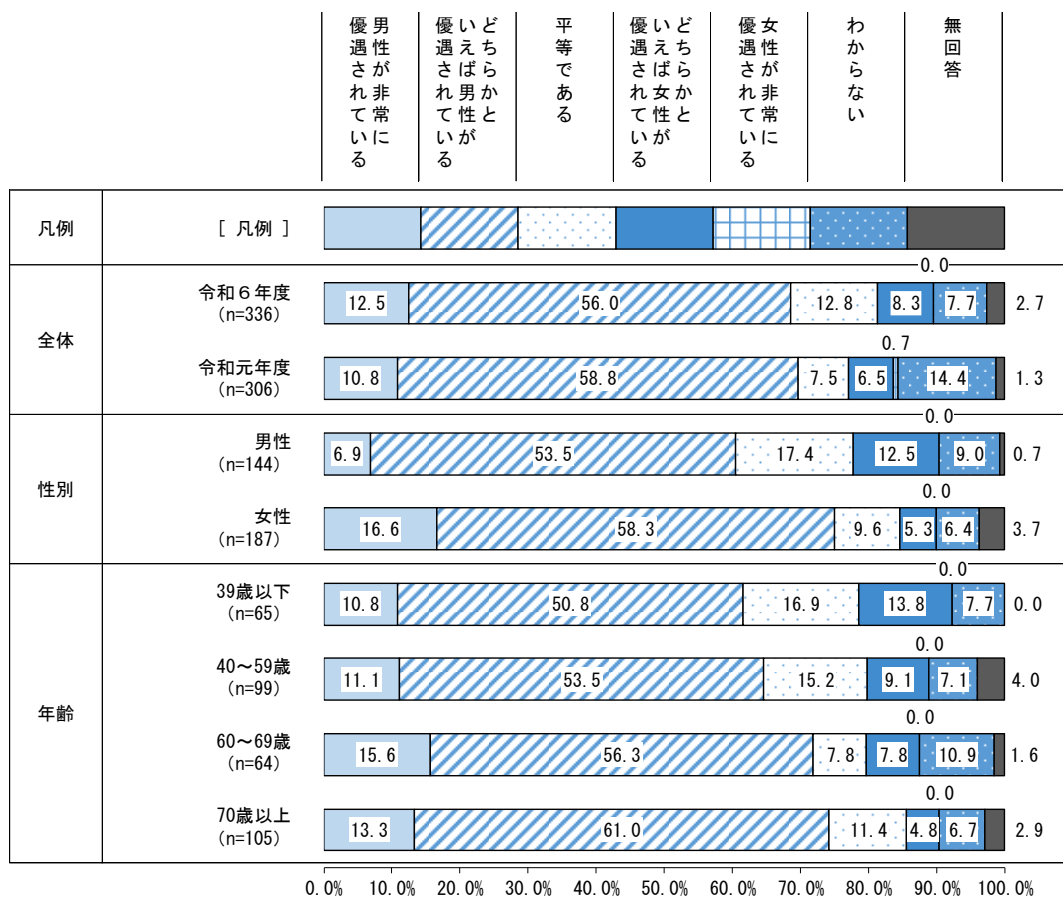
(2) 男女平等に対する意識について

Q2-1 あなたは、現在の日本の社会全体や各分野で男女が平等だと思いますか。①～⑧のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① 現在の日本の社会全体

【全体】
○ 現在の日本の社会全体について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が56.0%で最も多く、次いで「平等である」が12.8%、「男性が非常に優遇されている」が12.5%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は68.5%となっています。
○ 令和元年度調査と比べると、「平等である」が5.3ポイント多くなっています。
【性別】
○ 女性では、“男性優遇”が74.9%と、男性の60.4%に比べて多くなっています。
【年齢】
○ 60～69歳、70歳以上では、“男性優遇”が7割以上と、他の年齢層に比べて多くなっています。

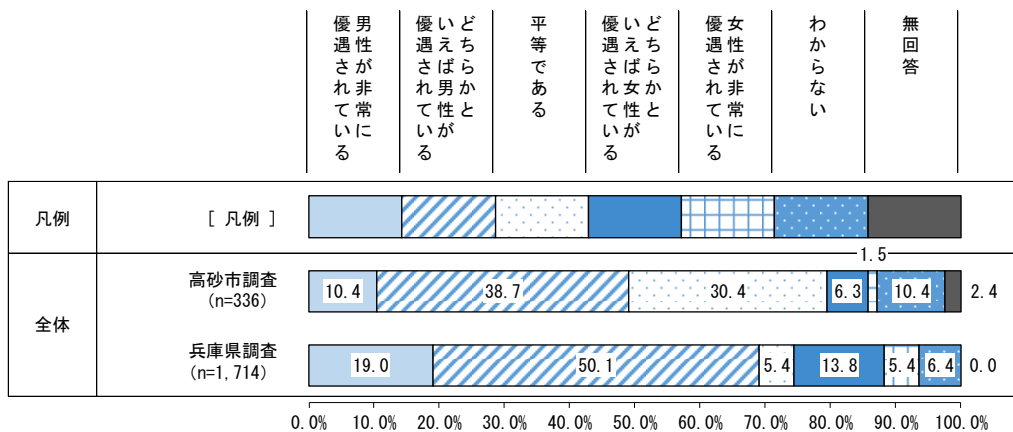
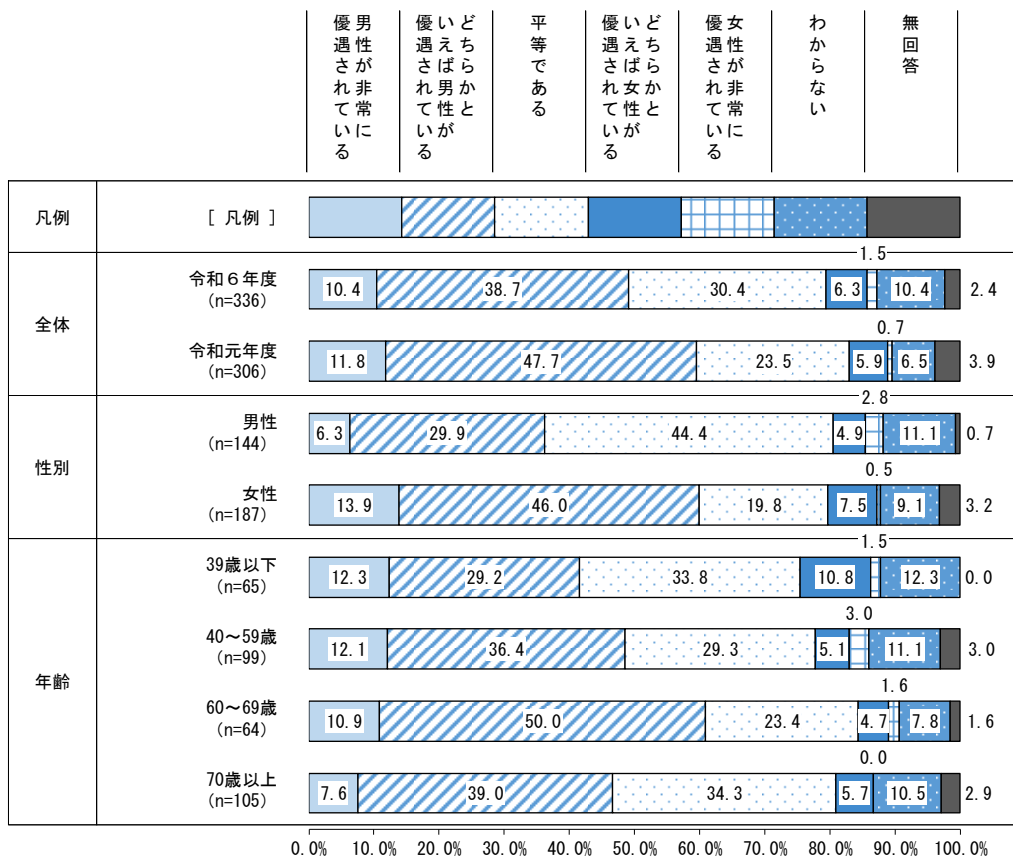
【現在の日本の社会全体】



② 家庭生活

- 【全体】**
- 家庭生活について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が38.7%で最も多く、次いで「平等である」が30.4%、「男性が非常に優遇されている」「わからない」が10.4%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は49.1%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、“男性優遇”が10.4ポイント少なく、「平等である」が6.9ポイント多くなっています。
 - 兵庫県調査と比べると、「平等である」が25.0ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性では、44.4%が「平等である」と感じている一方、女性では“男性優遇”が59.9%となっています。
- 【年齢】**
- 60～69歳では、“男性優遇”が60.9%と、他の年齢層に比べて多くなっています。

【家庭生活】



③ 職場

【全体】

- 職場について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が42.6%で最も多く、次いで「平等である」が22.0%、「わからない」が15.5%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は53.6%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、“男性優遇”が8.5ポイント少なく、「平等である」が7.3ポイント多くなっています。
- 兵庫県調査と比べると、“男性優遇”が31.7ポイント少なく、「平等である」が14.7ポイント多くなっています。

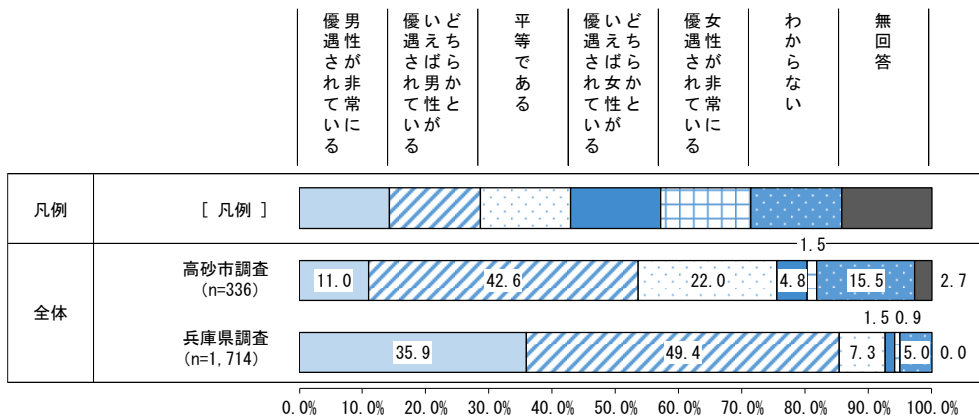
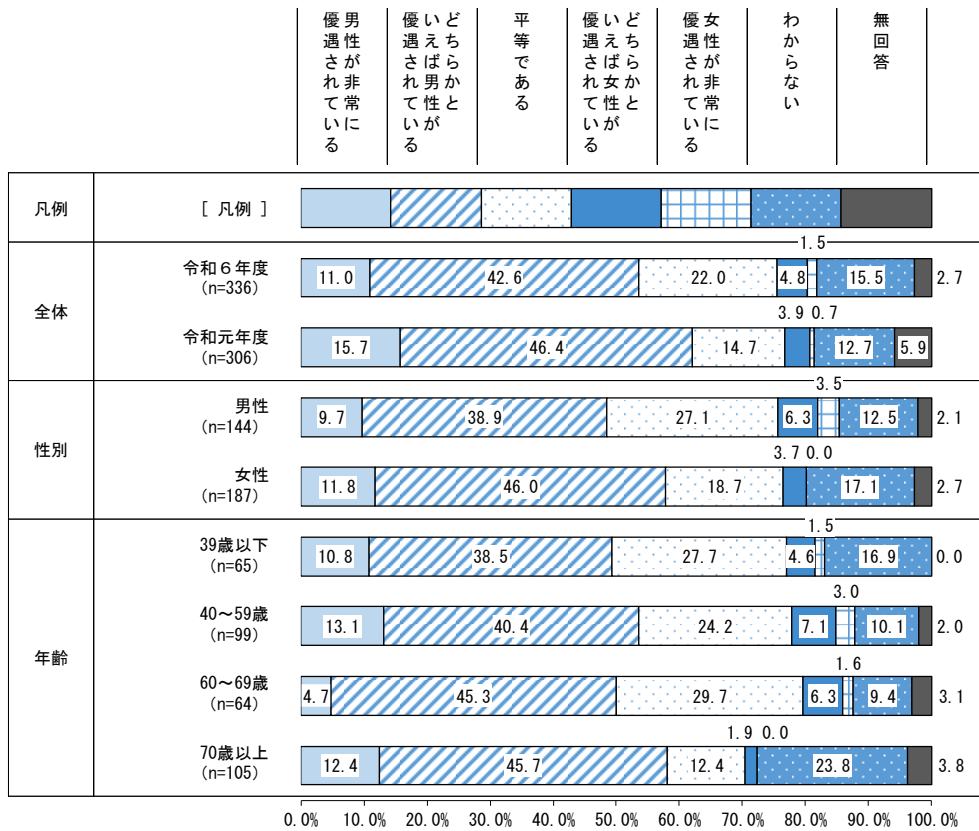
【性別】

- 女性では、“男性優遇”が57.8%と、男性の48.6%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 70歳以上では、他の年齢層に比べて「平等である」が12.4%と少なく、「わからない」が23.8%と多くなっています。

【職場】



④ 学校教育の場

【全体】

- 学校教育の場について、「平等である」が50.9%で最も多く、次いで「わからない」が28.3%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が13.7%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は15.8%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、“男性優遇”が5.1ポイント少なく、「平等である」が6.5ポイント多くなっています。
- 兵庫県調査と比べると、“男性優遇”が32.1ポイント少なく、「平等である」が23.8ポイント多くなっています。

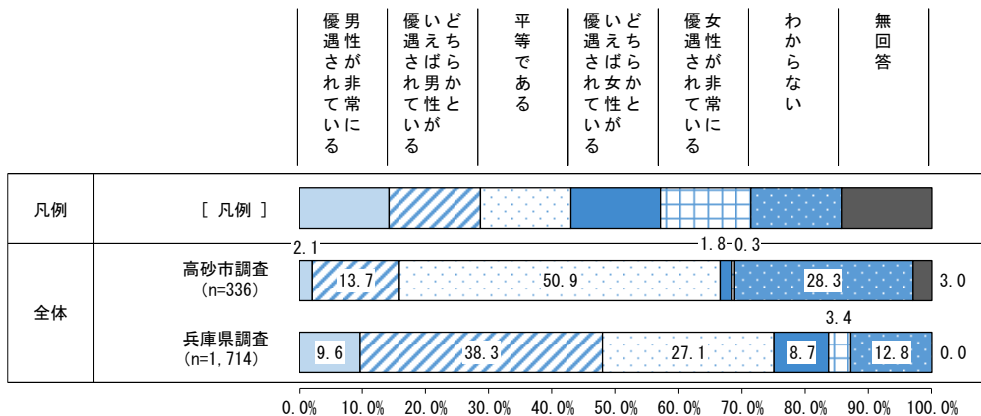
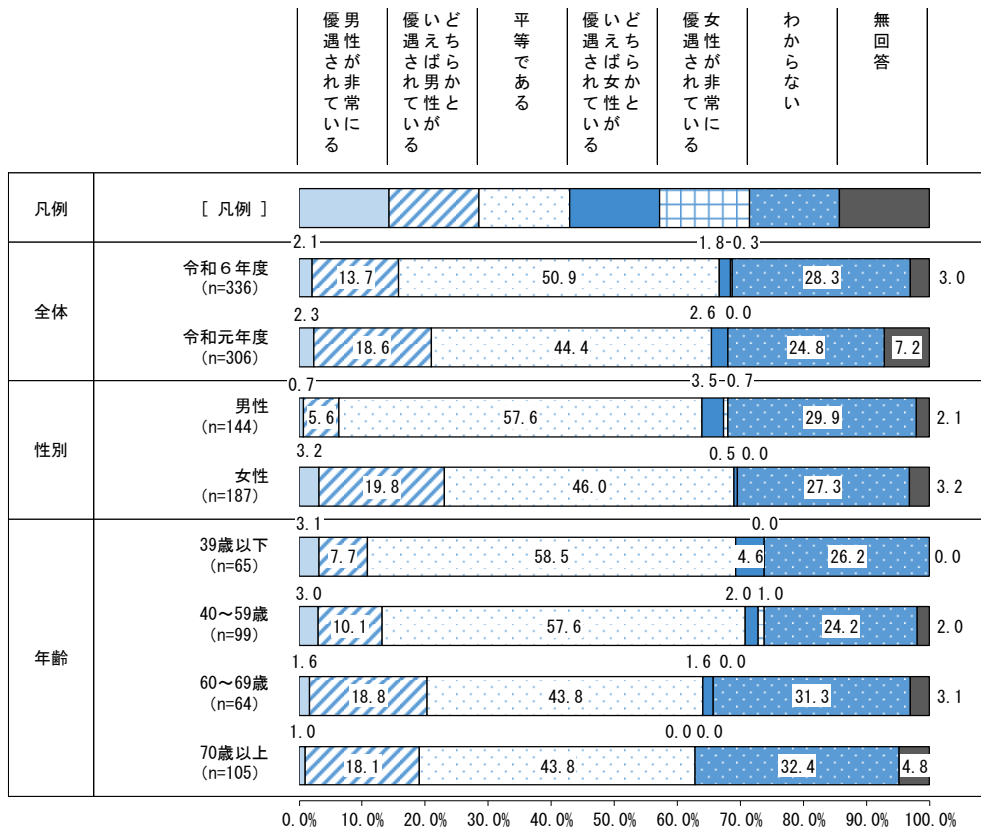
【性別】

- 女性では“男性優遇”が23.0%と、男性の6.3%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 60～69歳、70歳以上では、“男性優遇”が約2割と他の年齢層に比べて多くなっています。

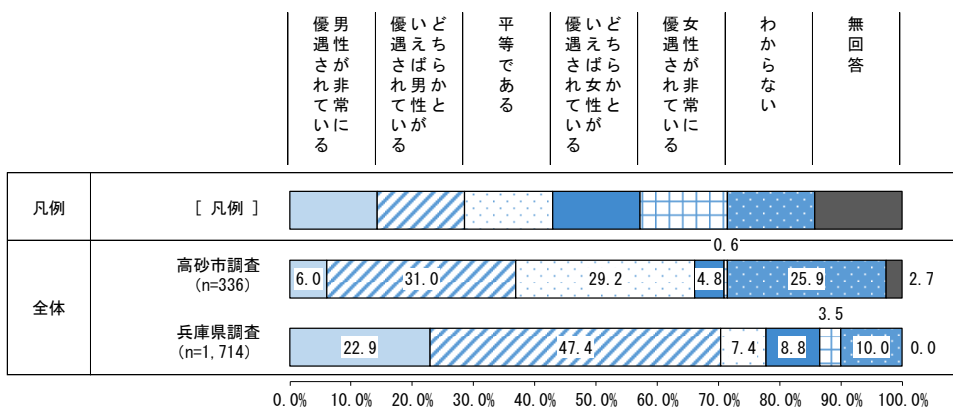
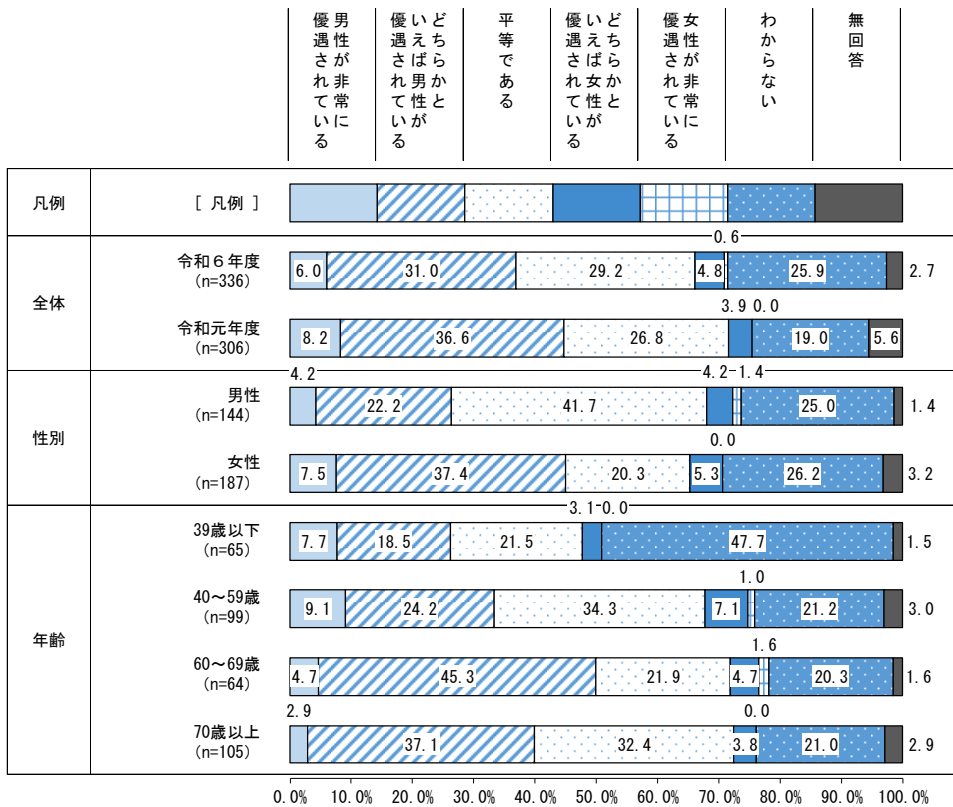
【学校教育の場】



⑤ 地域（自治会・自主防災会・NPOなど）

- 【全体】**
- 地域（自治会・自主防災会・NPOなど）について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が31.0%で最も多く、次いで「平等である」が29.2%、「わからない」が25.9%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は37.0%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、“男性優遇”が7.8ポイント少なくなっている一方、「わからない」が6.9ポイント多くなっています。
 - 兵庫県調査と比べると、「平等である」が21.8ポイント多くなっている一方、「わからない」が15.9ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性では、41.7%が「平等である」と感じている一方、女性では“男性優遇”が44.9%となっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「わからない」が47.7%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 60～69歳、70歳以上では、“男性優遇”が4～5割と他の年齢層に比べて多くなっています。

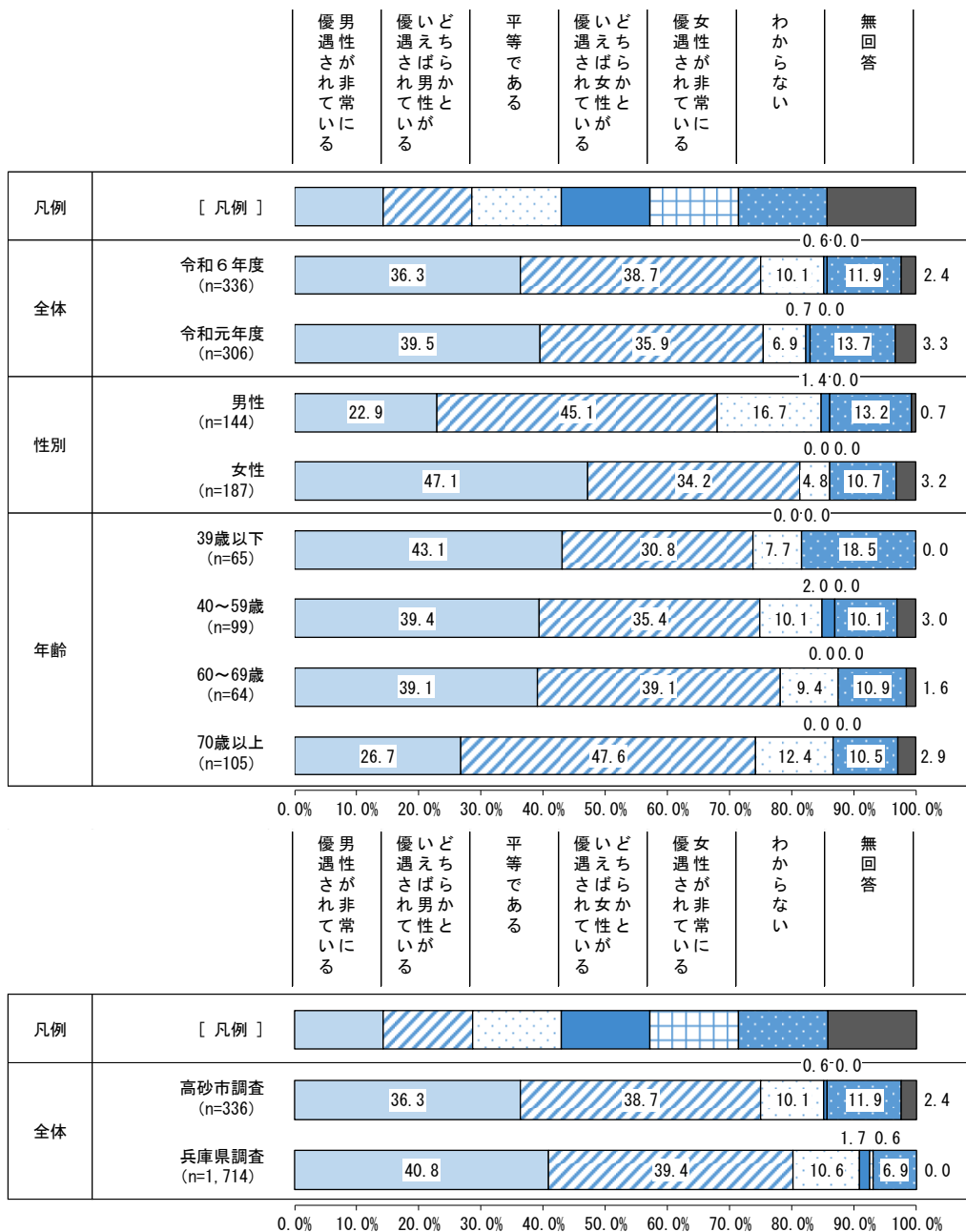
【地域（自治会・自主防災会・NPOなど）】



⑥ 政治の場

- 【全体】**
- 政治の場について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が38.7%で最も多く、次いで「男性が非常に優遇されている」が36.3%、「わからない」が11.9%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は75.0%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
 - 兵庫県調査と比べると、“男性優遇”が5.2ポイント少なくなっています。
- 【性別】**
- 女性では、「男性が非常に優遇されている」が47.1%と、男性の22.9%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「わからない」が18.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 70歳以上では、「男性が非常に優遇されている」が26.7%と、他の年齢層に比べて少なくなっています。

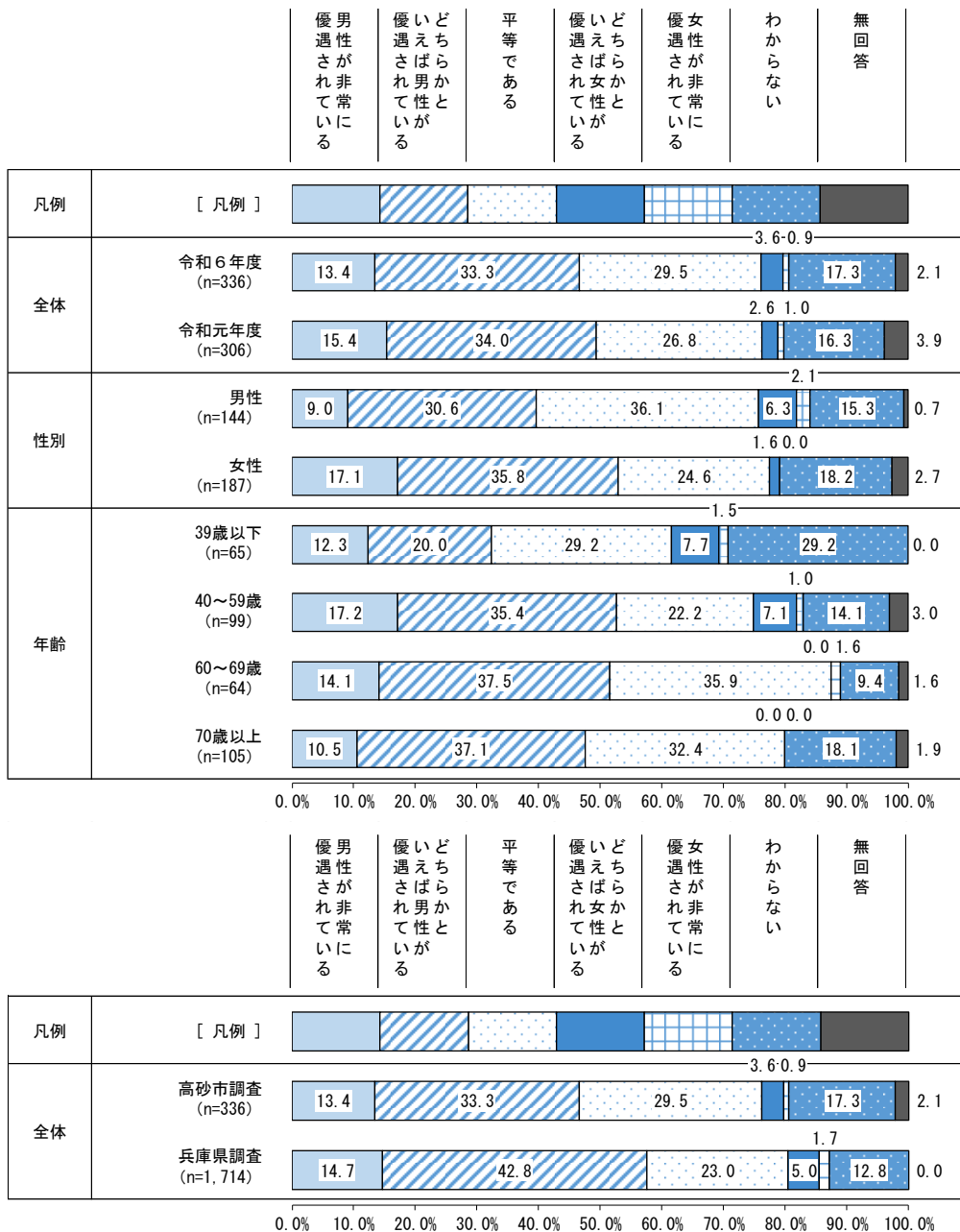
【政治の場】



⑦ 法律や制度

- 【全体】**
- 法律や制度について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が33.3%で最も多く、次いで「平等である」が29.5%、「わからない」が17.3%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は46.7%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
 - 兵庫県調査と比べると、“男性優遇”が10.8ポイント少なく、「平等である」が6.5ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 女性では、“男性優遇”が52.9%と、男性の39.6%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 40～59歳、60～69歳、70歳以上では、約5割が“男性優遇”と感じている一方、39歳以下では32.3%と少なく、「わからない」が29.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。

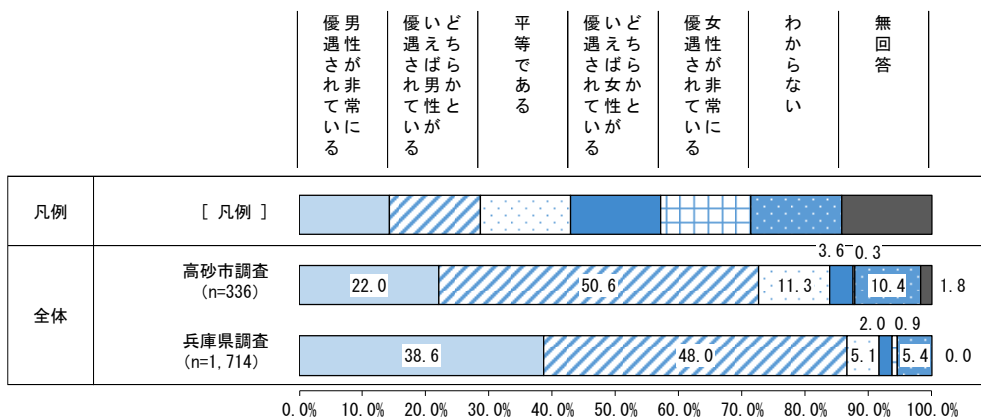
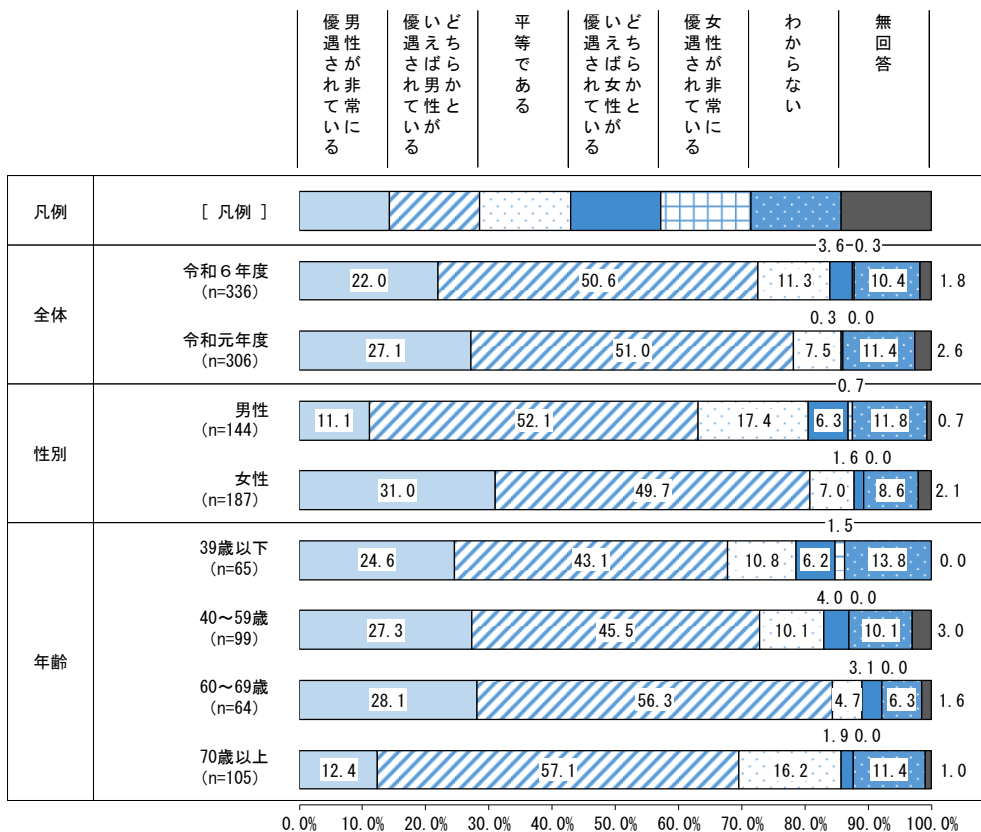
【法律や制度】



⑧ 社会通念・慣習・しきたりなど

- 【全体】**
- 社会通念・慣習・しきたりなどについて、「どちらかといえば男性が優遇されている」が50.6%で最も多く、次いで「男性が非常に優遇されている」が22.0%、「平等である」が11.3%となっています。「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は72.6%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「男性が非常に優遇されている」が5.1ポイント少なくなっています。
 - 兵庫県調査と比べると、「男性が非常に優遇されている」が16.6ポイント少なくなっています。
- 【性別】**
- 女性では、「男性が非常に優遇されている」が31.0%と、男性の11.1%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 70歳以上では、「男性が非常に優遇されている」が12.4%と他の年齢層に比べて少なくなっています。

【社会通念・慣習・しきたりなど】



Q2-2 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように思いますか。(○は1つ)

【全体】

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対する意見について、「そう思わない」が37.8%で最も多く、次いで「あまりそう思わない」が35.7%、「ややそう思う」が17.9%となっています。「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”は73.5%となっています。

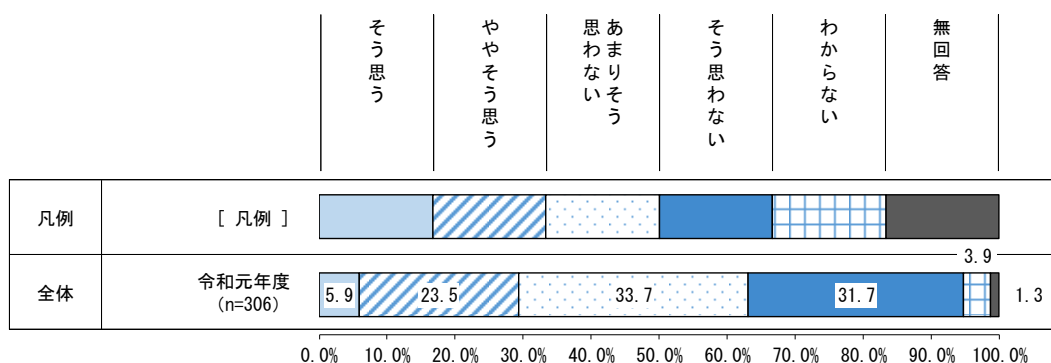
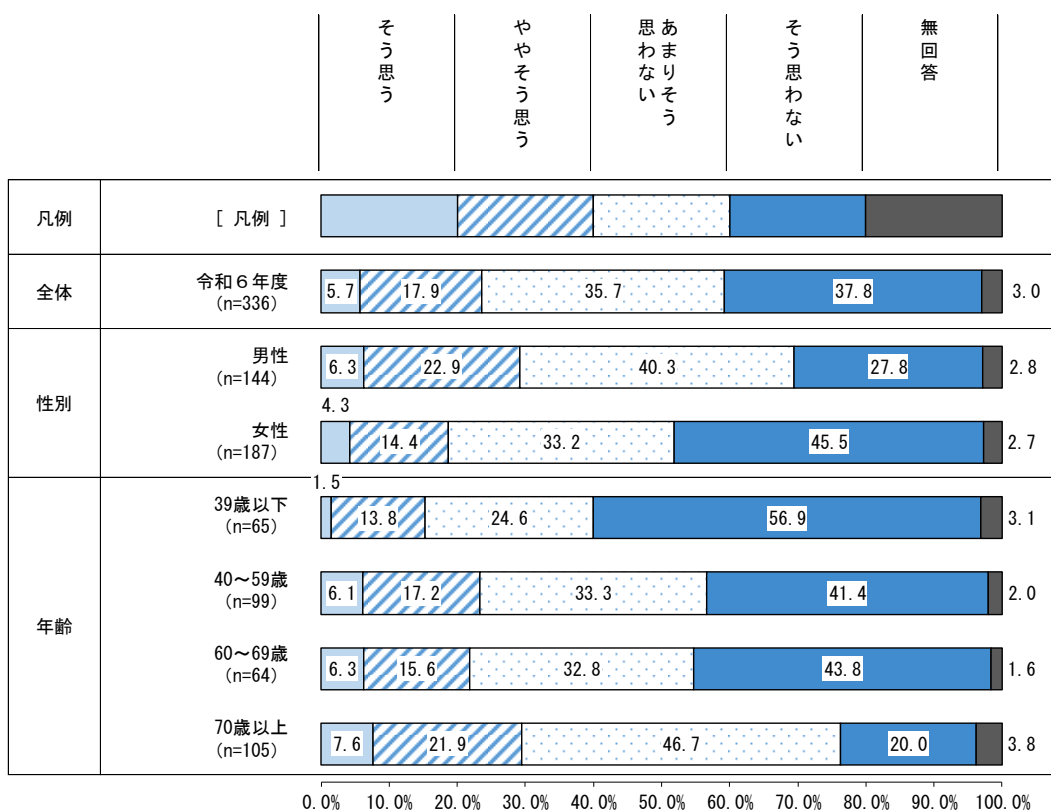
【性別】

- 女性では、「そう思わない」が45.5%と、男性の27.8%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「そう思わない」が56.9%と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、70歳以上では、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた“そう思う”が29.5%となっています。

【「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対する意見】

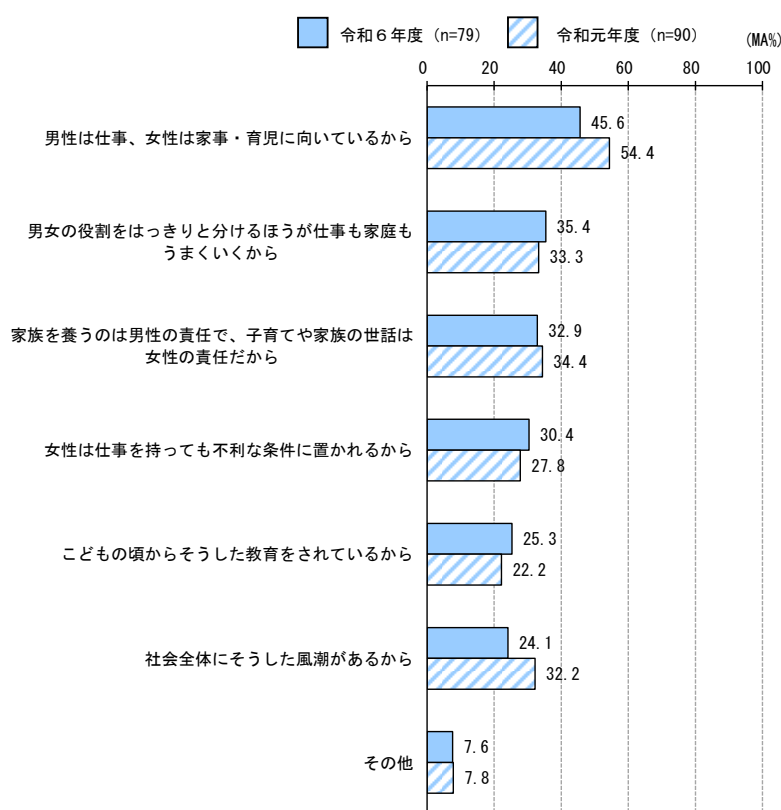


※選択肢に「わからない」があるため比較対象としていません。

Q2-2-1 [2-2で「そう思う」「ややそう思う」と答えた方のみ]「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」と考える理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 【全体】**
- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対する意見の理由について、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が45.6%で最も多く、次いで「男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから」が35.4%、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから」が32.9%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」「社会全体にそうした風潮があるから」が少なくなっています。
- 【性別】**
- 女性では、「女性は仕事を持っても不利な条件に置かれるから」が42.9%で最も多く、男性の21.4%に比べても多くなっています。

【「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対する意見の理由】



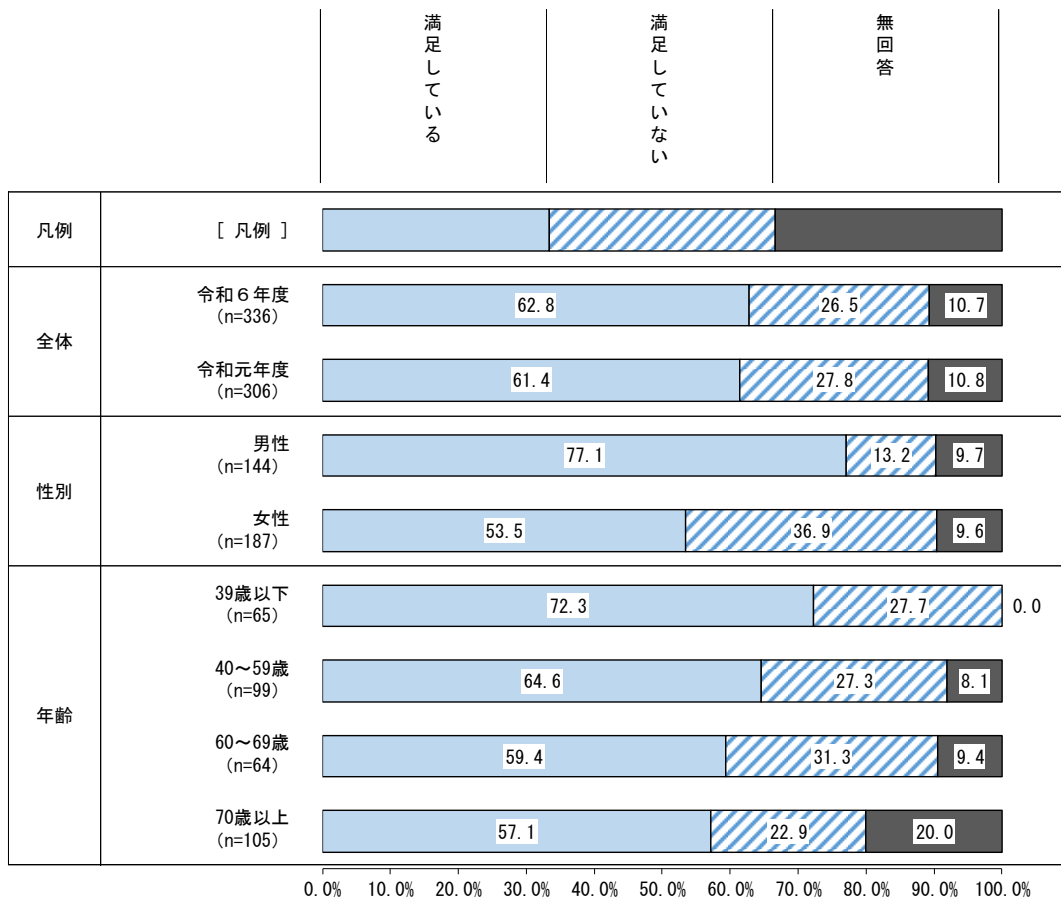
単位：%

		母数 (n)	「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対する意見の理由 (MA)						
			男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから	男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから	家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	女性は仕事を持っても不利な条件に置かれるから	こどもの頃からそうした教育をされているから	社会全体にそうした風潮があるから	その他
全体		79	45.6	32.9	25.3	30.4	35.4	24.1	7.6
性別	男性	42	47.6	26.2	19.0	21.4	40.5	26.2	4.8
	女性	35	40.0	37.1	31.4	42.9	28.6	20.0	11.4
年齢	39歳以下	10	50.0	20.0	10.0	30.0	60.0	-	30.0
	40～59歳	23	39.1	34.8	30.4	34.8	39.1	17.4	8.7
	60～69歳	14	35.7	14.3	35.7	28.6	28.6	21.4	-
	70歳以上	31	51.6	45.2	22.6	29.0	29.0	35.5	3.2

Q2-3 あなたの家庭内での男女の役割について、どのように感じていますか。(〇は1つ)

- 【全体】**
 ○ 家庭内での男女の役割への満足感について、「満足している」が62.8%、「満足していない」が26.5%となっています。
 ○ 令和元年度と比べると、大きな差はありません。
- 【性別】**
 ○ 男性では、「満足している」が77.1%となっている一方、女性では、「満足している」が53.5%、「満足していない」が36.9%となっています。
- 【年齢】**
 ○ 年齢が下がるにつれて「満足している」が多くなる傾向が見られます。

【家庭内での男女の役割への満足感】



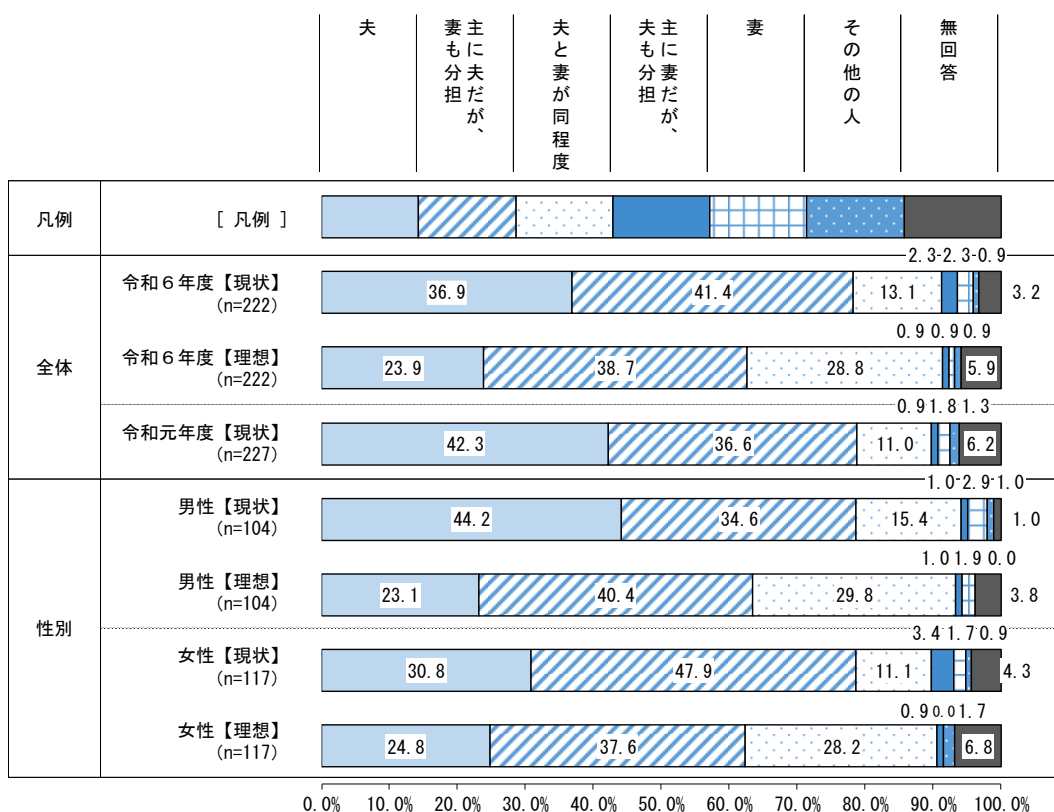
Q2-4・2-5 [1-5で「結婚している」「婚姻届を提出していないが、パートナーと暮らしている」と答えた方のみ] あなたの家庭では、次にあげる役割を主にどなたが分担していますか。／家庭における役割分担について、あなたの理想（本当はこうしたい）に近いものはどれですか。①～⑨のそれぞれに回答してください。（○はそれぞれ1つ）

① 家計を支える（生活費を稼ぐ）

【全体】
 ○ 家計を支える（生活費を稼ぐ）について、現状では「夫」が36.9%となっていますが、理想では23.9%と少なく、「夫と妻が同程度」が28.8%となっています。
 ○ 令和元年度調査と比べると、「夫」が5.4ポイント少なくなっています。

【性別】
 ○ 男女ともに、現状に比べて理想では「夫と妻が同程度」が約3割と多くなっています。

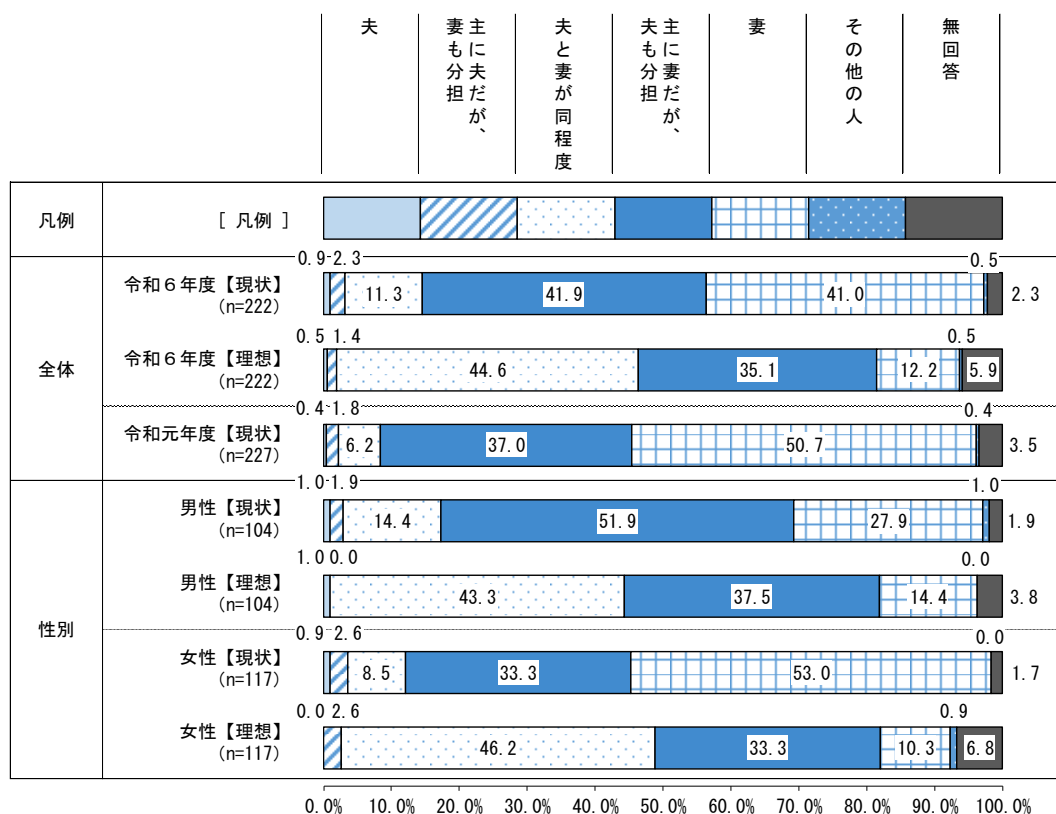
【家計を支える（生活費を稼ぐ）】



② 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする

- 【全体】**
- 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をするについて、現状では「主に妻だが、夫も分担」が41.9%となっていますが、理想では「夫と妻が同程度」が44.6%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「妻」が9.7ポイント少なく、「夫と妻が同程度」が5.1ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性の現状では、「主に妻だが、夫も分担」が51.9%となっている一方、女性の現状では、「妻」が53.0%となっています。
 - 男女ともに、現状に比べて理想では「夫と妻が同程度」が4割以上と多くなっています。

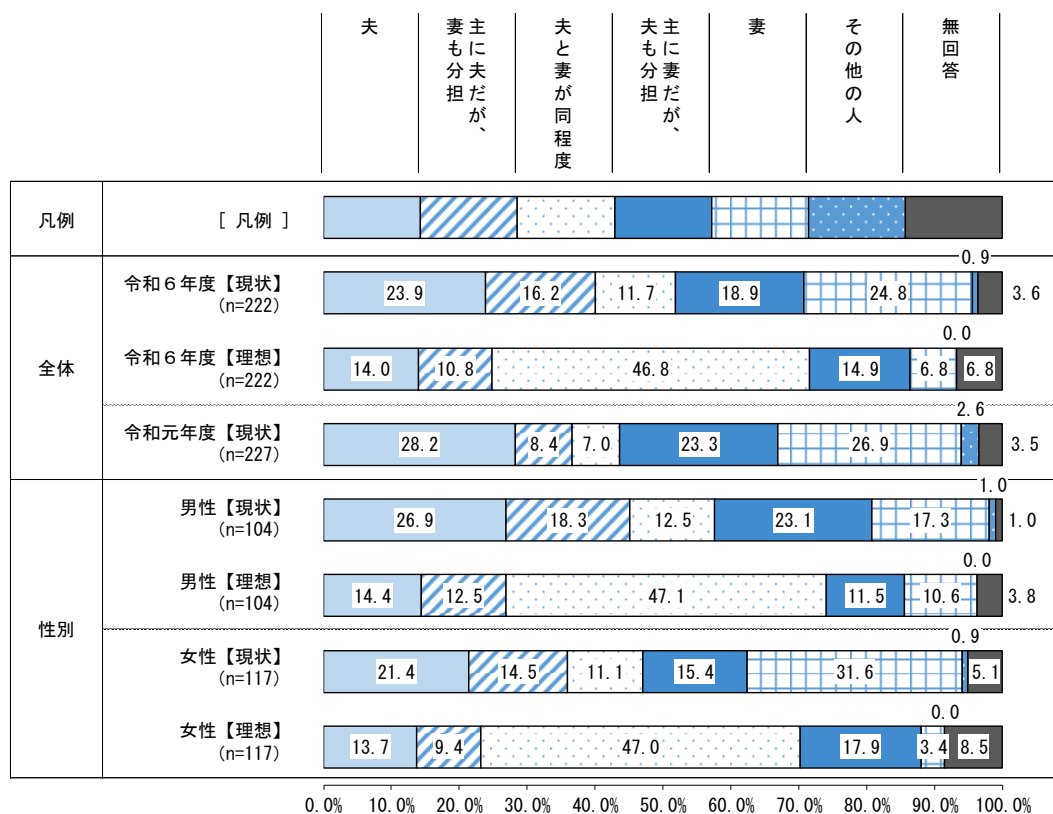
【掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする】



③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする

- 【全体】**
- ゴミ出しなどの簡単な家事をするについて、現状では「妻」が24.8%で最も多く、次いで「夫」が23.9%となっていますが、理想では「夫と妻が同程度」が46.8%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「主に夫だが、妻も分担」が7.8ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性の現状では、「妻」が17.3%と女性の31.6%に比べて少なくなっています。
 - 男女ともに、現状に比べて理想では「夫と妻が同程度」が約5割と多くなっています。

【ゴミ出しなどの簡単な家事をする】



④ 日々の家計の管理をする

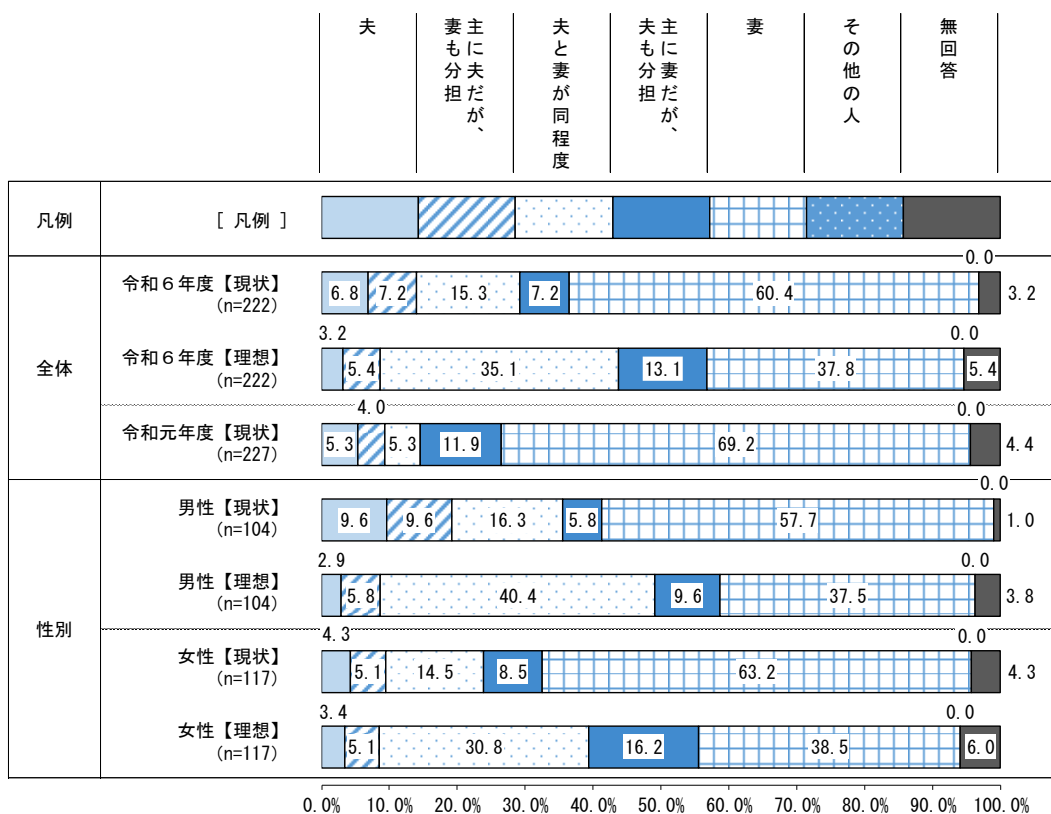
【全体】

- 日々の家計の管理をするについて、現状では「妻」が60.4%となっていますが、理想では37.8%と少なく、「夫と妻が同程度」が35.1%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「妻」が8.8ポイント少なく、「夫と妻が同程度」が10.0ポイント多くなっています。

【性別】

- 男性の理想では、「夫と妻が同程度」が40.4%となっている一方、女性の理想では30.8%と少なく、「主に妻だが、夫も分担」が16.2%と男性の9.6%に比べて多くなっています。

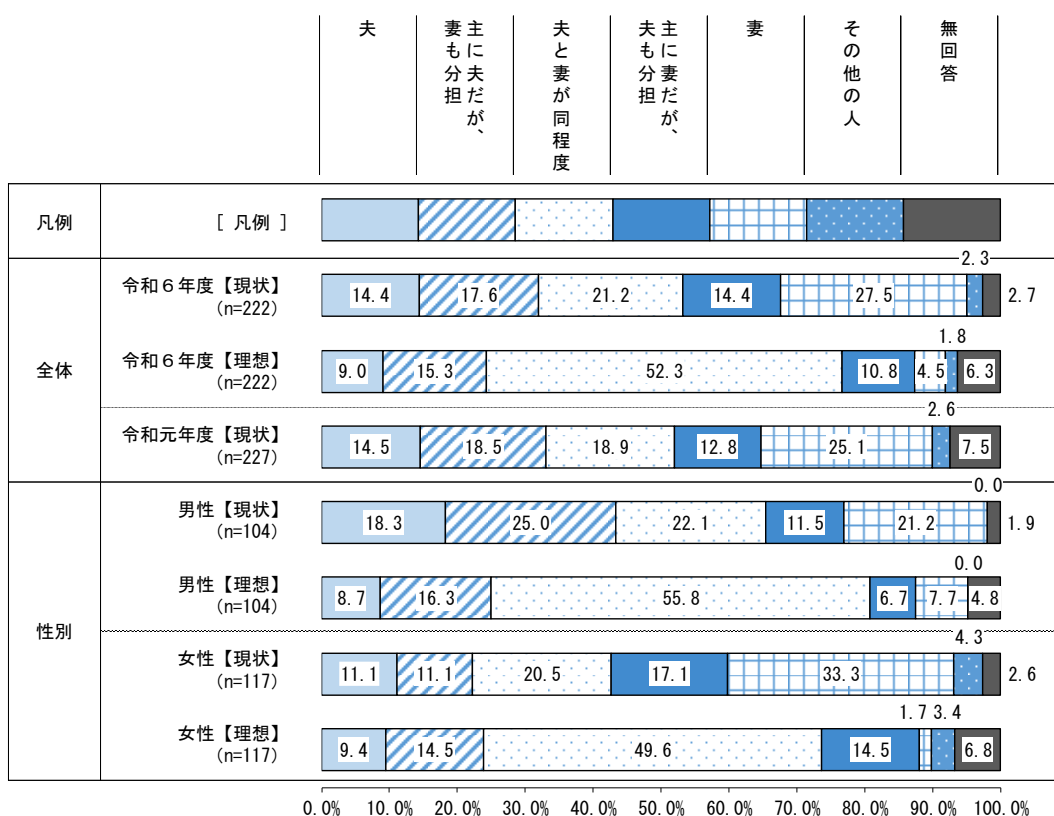
【日々の家計の管理をする】



⑤ 自治会・町内会などの地域活動を行う

- 【全体】**
- 自治会・町内会などの地域活動を行うについて、現状では「妻」が27.5%で最も多くなっていますが、理想では「夫と妻が同程度」が52.3%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【性別】**
- 男性の現状では、「夫」「主に夫だが、妻も分担」を合わせた“主に夫”が43.3%となっている一方、女性の現状では「妻」「主に妻だが、夫も分担」を合わせた“主に妻”が50.4%となっています。
 - 男性の理想では、「夫と妻が同程度」が55.8%と、女性の理想の49.6%に比べて多くなっています。

【自治会・町内会などの地域活動を行う】



⑥ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める

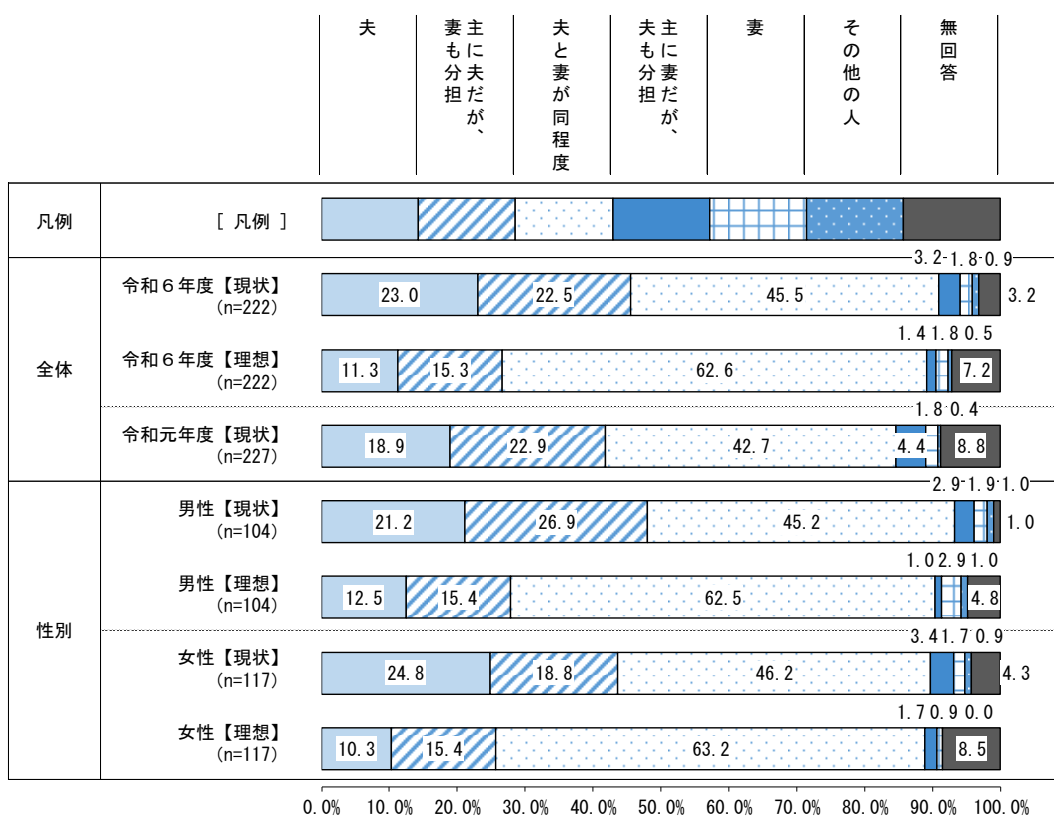
【全体】

- 高額の商品や土地・家屋の購入を決めるについて、現状では「夫と妻が同程度」が45.5%で最も多く、次いで「夫」が23.0%となっていますが、理想では「夫と妻が同程度」が62.6%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。

【性別】

- 男女ともに、現状に比べて理想では「夫と妻が同程度」が6割以上と多くなっています。

【高額の商品や土地・家屋の購入を決める】

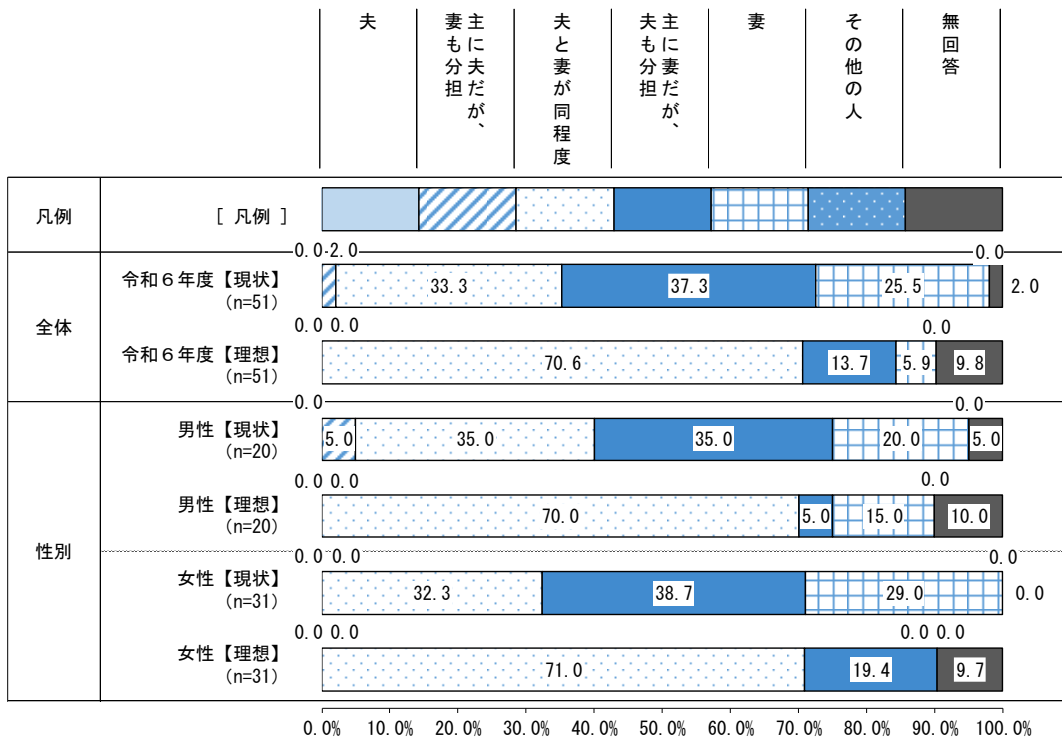


⑦ 【1-7で「(18歳以下のお子さんが) いる」と答えた方のみ】 育児、こどものしつけをする

【全体】
 ○ 育児、こどものしつけをするについて、現状では「夫と妻が同程度」が33.3%、「主に妻だが、夫も分担」が37.3%となっていますが、理想では「夫と妻が同程度」が70.6%となっています。

【性別】
 ○ 男女ともに、現状に比べて理想では「夫と妻が同程度」が7割以上と多くなっています。

【育児、こどものしつけをする】

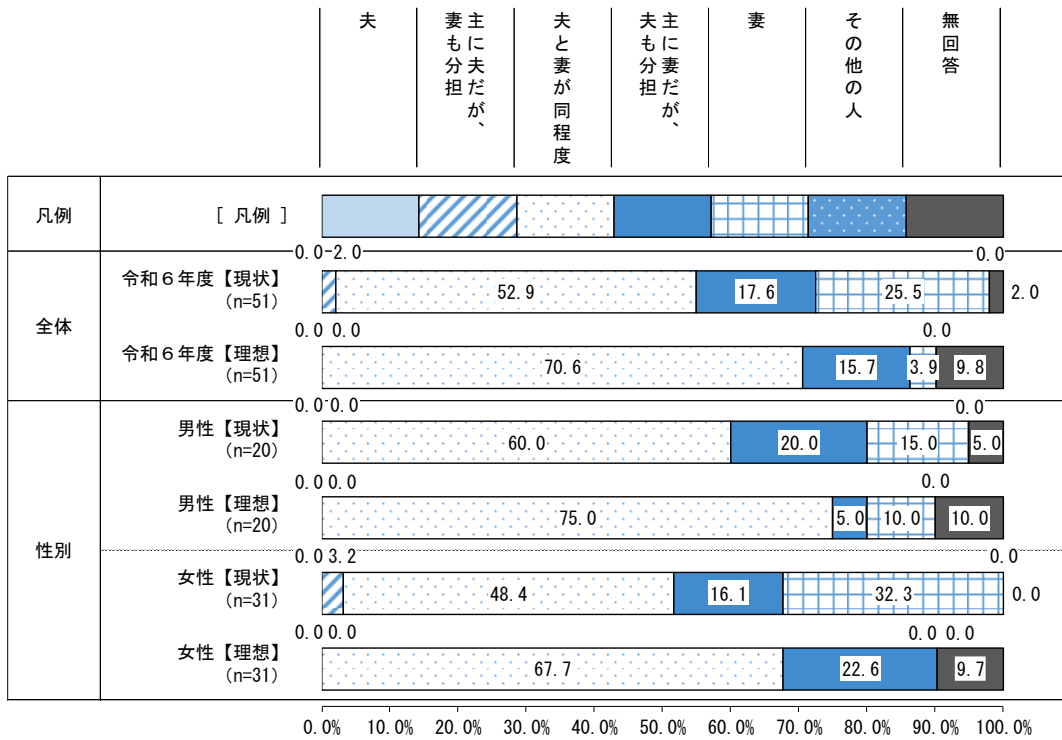


⑧ [1-7で「(18歳以下のお子さんが) いる」と答えた方のみ] こどもの教育方針や進学目標を決める

【全体】
 ○ こどもの教育方針や進学目標を決めるについて、現状では「夫と妻が同程度」が52.9%で最も多く、次いで「妻」が25.5%となっていますが、理想では「夫と妻が同程度」が70.6%となっています。

【性別】
 ○ 女性の現状では、「妻」が32.3%と、男性の現状の15.0%に比べて多くなっています。
 ○ 男女ともに、理想では「夫と妻が同程度」が約7～8割となっています。

【こどもの教育方針や進学目標を決める】

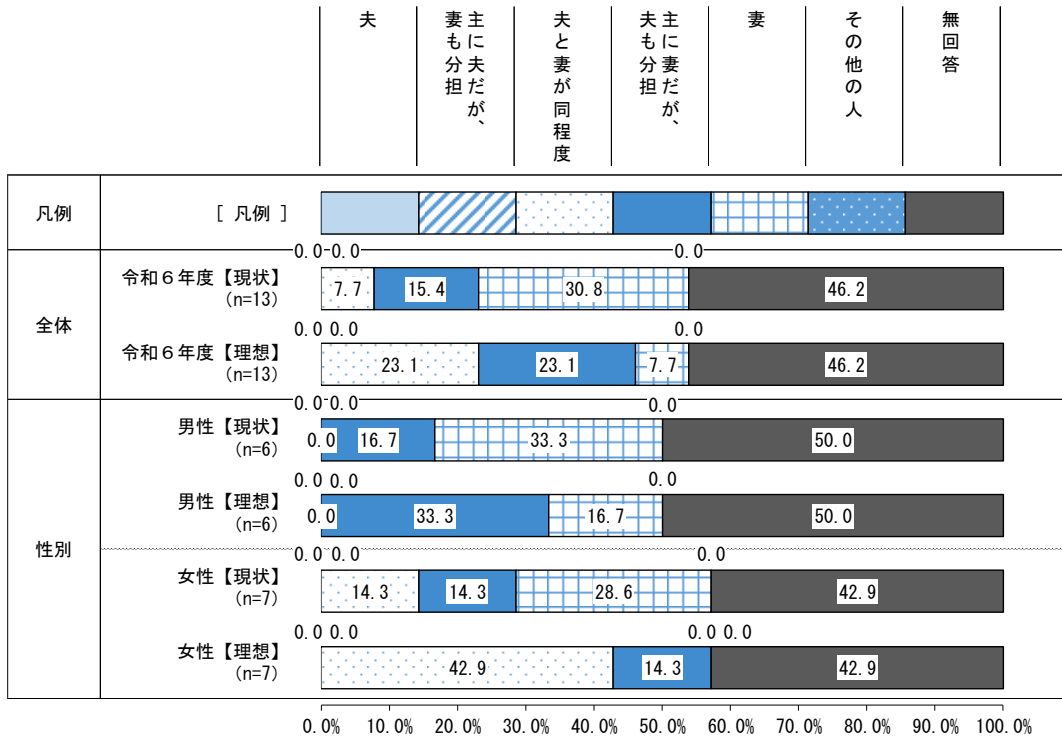


⑨ [1-8で「(日常的に介護を必要とする人が) いる」と答えた方のみ] 親の世話 (介護) をする

【全体】
 ○ 親の世話 (介護) をするについて、現状では「妻」が30.8%となっていますが、理想では「夫と妻が同程度」「主に妻だが、夫も分担」がともに23.1%となっています。

【性別】
 ○ 男性の理想では、「主に妻だが、夫も分担」が33.3%となっている一方、女性の理想では、「夫と妻が同程度」が42.9%となっています。

【親の世話 (介護) をする】

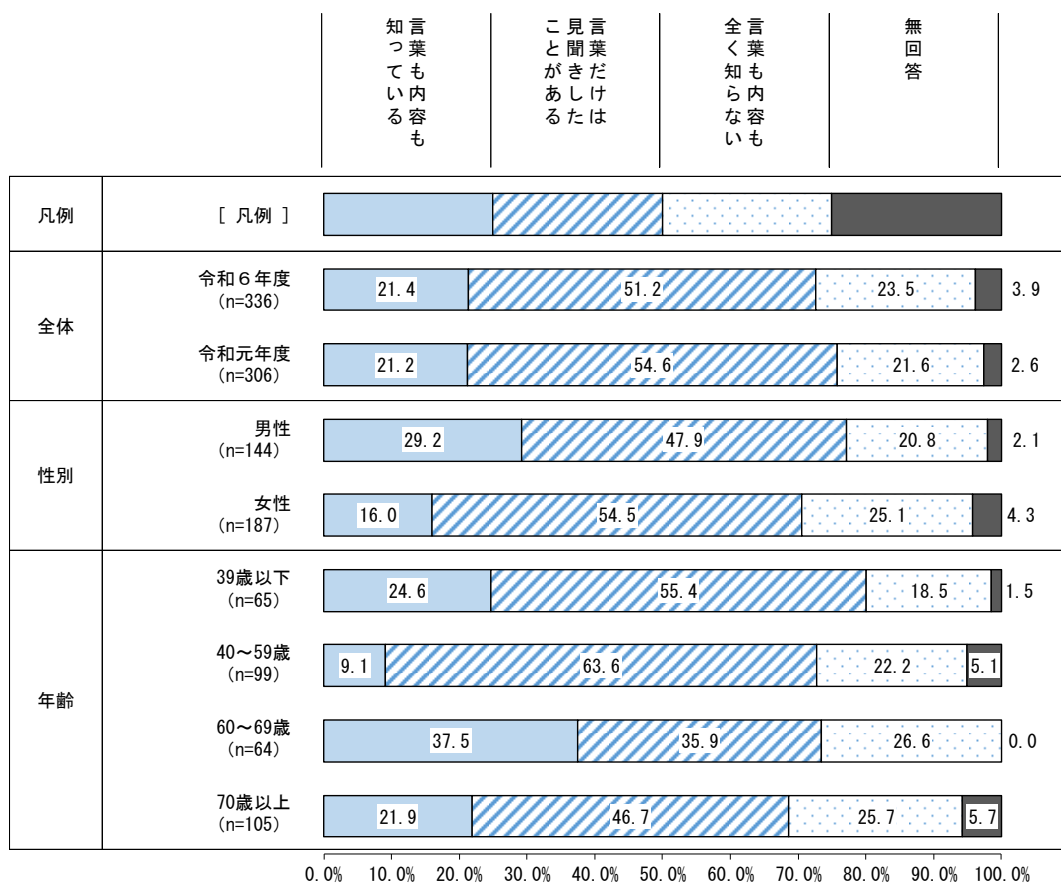


Q2-6 あなたは次にあげる男女共同参画に関連することがらについて、ご存じですか。①～⑯のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① 男女共同参画社会

<p>【全体】</p> <p>○ 男女共同参画社会について、「言葉だけは見聞きしたことがある」が51.2%で最も多く、次いで「言葉も内容も全く知らない」が23.5%、「言葉も内容も知っている」が21.4%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は72.6%となっています。</p> <p>○ 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。</p> <p>【性別】</p> <p>○ 男性では、「言葉も内容も知っている」が29.2%と、女性の16.0%に比べて多くなっています。</p> <p>【年齢】</p> <p>○ 39歳以下では、“知っている”が80.0%と他の年齢層に比べて多くなっています。</p> <p>○ 40～59歳では、「言葉も内容も知っている」が9.1%と他の年齢層に比べて少なくなっています。</p> <p>○ 60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が37.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。</p>
--

【男女共同参画社会】



② 男女共同参画社会基本法

【全体】

- 男女共同参画社会基本法について、「言葉だけは見聞きしたことがある」が48.2%で最も多く、次いで「言葉も内容も全く知らない」が36.3%、「言葉も内容も知っている」が12.2%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は60.4%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「言葉だけは見聞きしたことがある」が5.4ポイント少なくなっています。

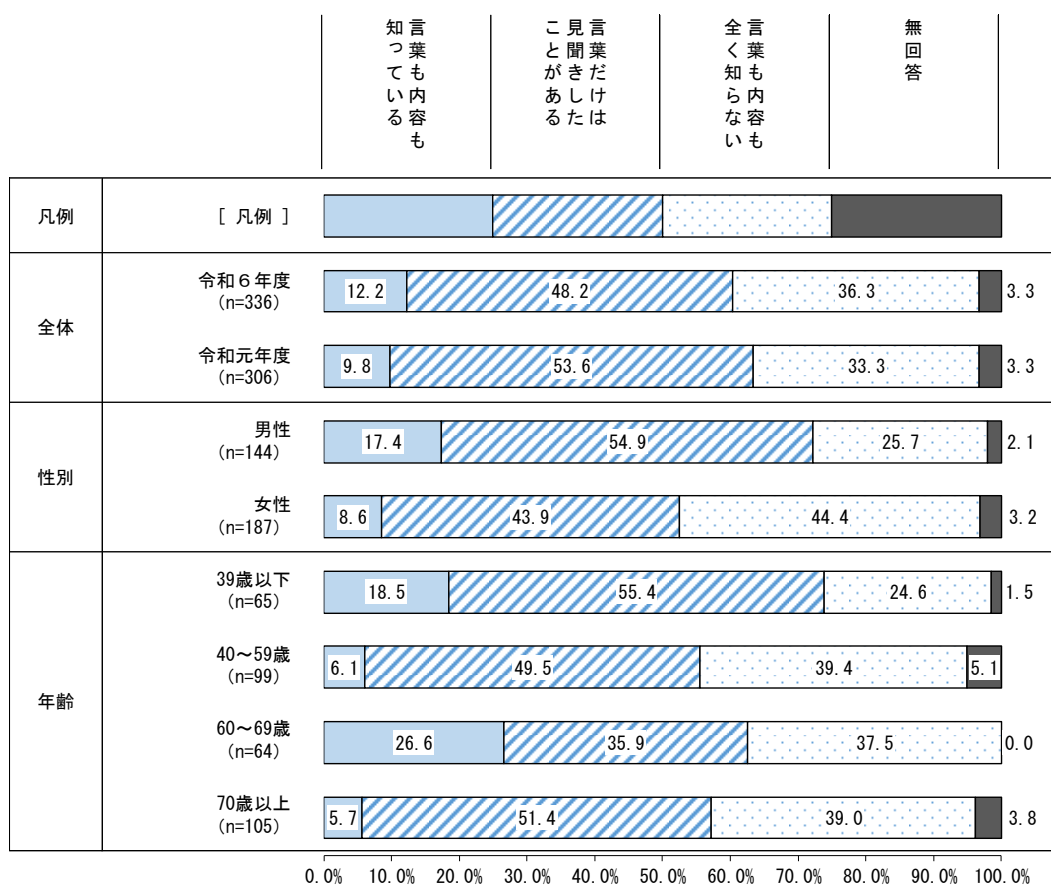
【性別】

- 女性では、「言葉も内容も全く知らない」が44.4%と、男性の25.7%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、“知っている”が73.9%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が26.6%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【男女共同参画社会基本法】



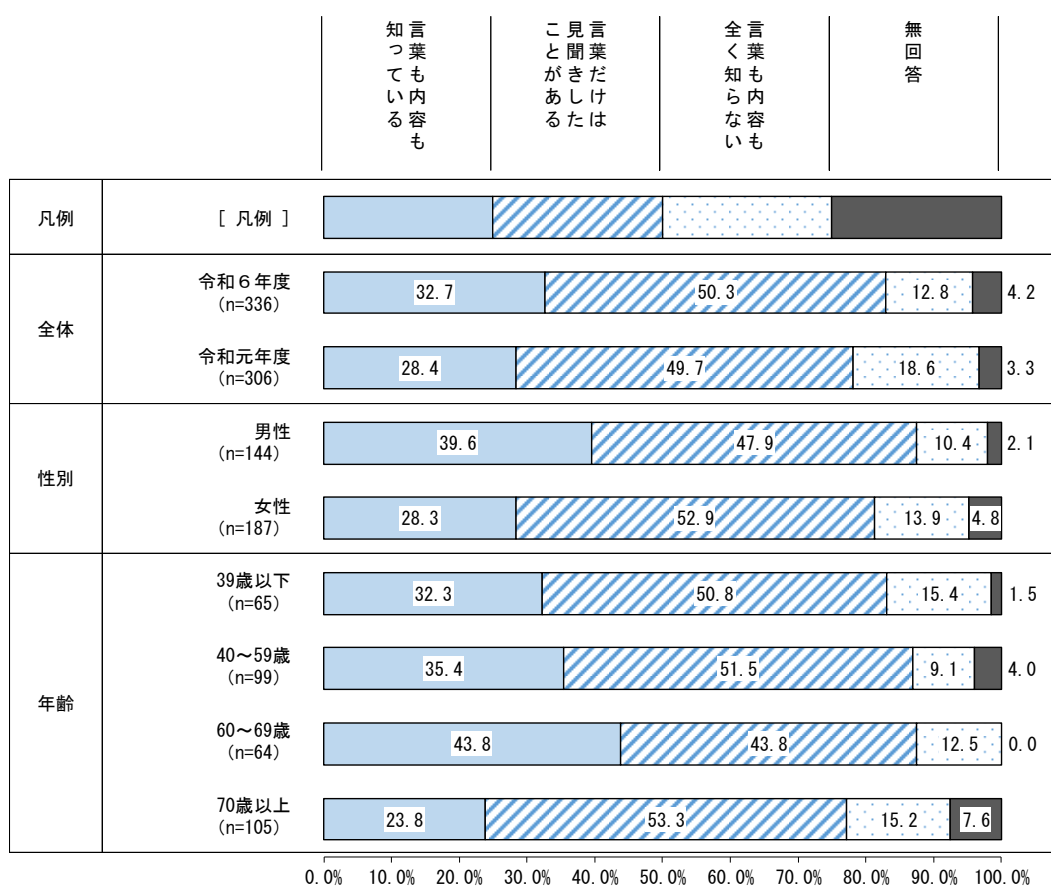
③ 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）

【全体】
 ○ 男女雇用機会均等法について、「言葉だけは見聞きしたことがある」が50.3%で最も多く、次いで「言葉も内容も知っている」が32.7%、「言葉も内容も全く知らない」が12.8%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は83.0%となっています。
 ○ 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。

【性別】
 ○ 男性では、「言葉も内容も知っている」が39.6%と、女性の28.3%に比べて多くなっています。

【年齢】
 ○ 60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が43.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。

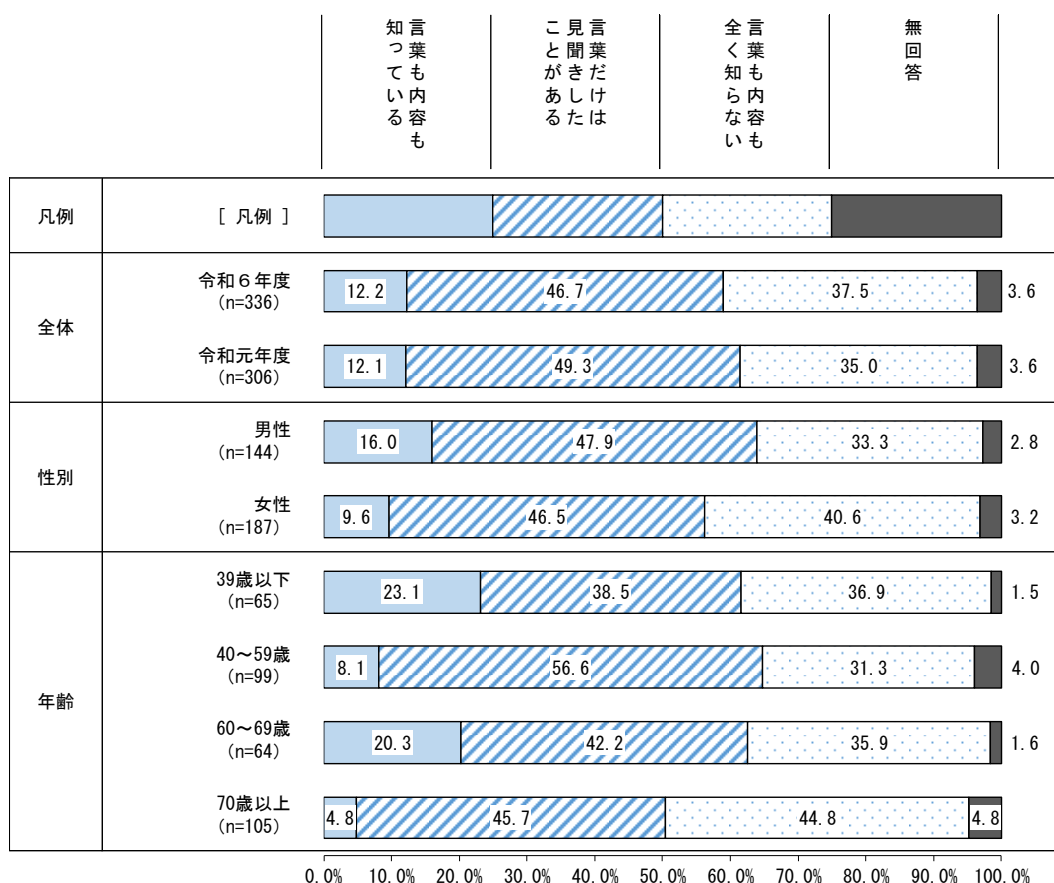
【男女雇用機会均等法】



④ 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）

- 【全体】**
- 女性活躍推進法について、「言葉だけは見聞きしたことがある」が46.7%で最も多く、次いで「言葉も内容も全く知らない」が37.5%、「言葉も内容も知っている」が12.2%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は58.9%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【性別】**
- 女性では、「言葉も内容も全く知らない」が40.6%と、男性の33.3%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下、60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が2割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 70歳以上では、「言葉も内容も全く知らない」が44.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。

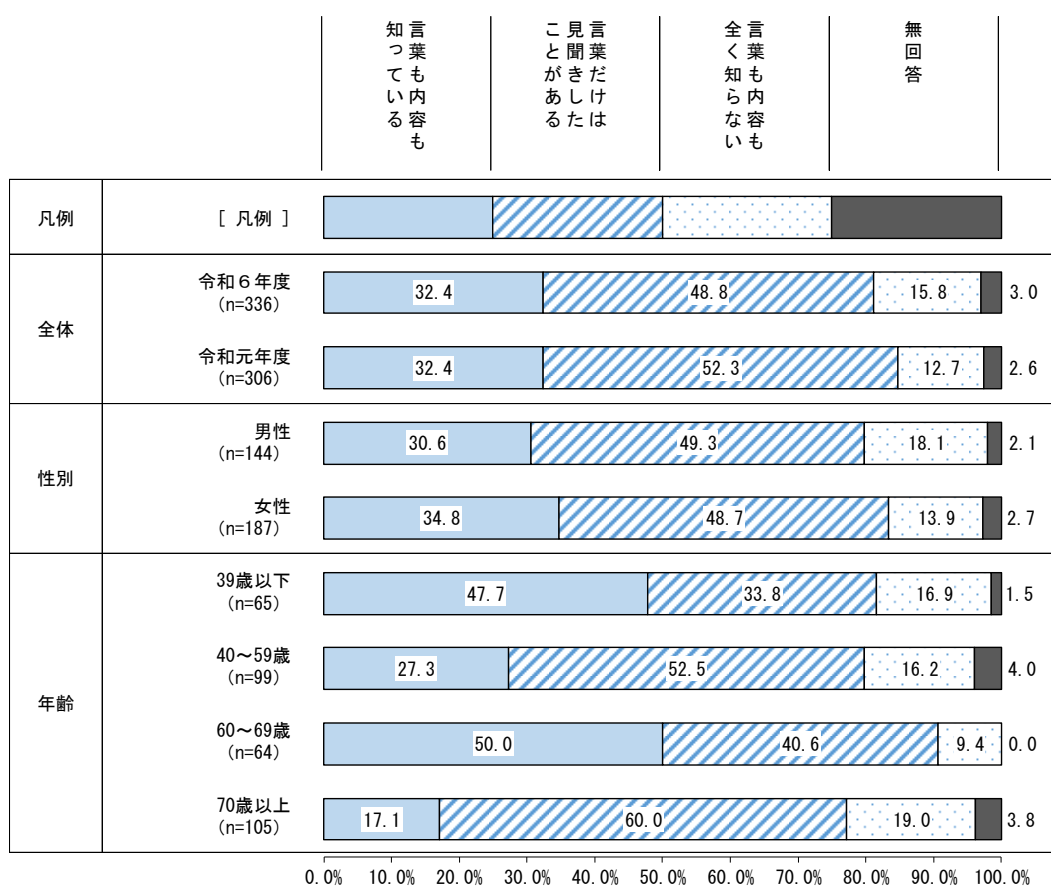
【女性活躍推進法】



⑤ 育児・介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）

- 【全体】**
- 育児・介護休業法について、「言葉だけは見聞きしたことがある」が48.8%で最も多く、次いで「言葉も内容も知っている」が32.4%、「言葉も内容も全く知らない」が15.8%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は81.2%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【年齢】**
- 39歳以下、60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が約5割と他の年齢層に比べて多くなっています。また、60～69歳では、“知っている”が90.6%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 70歳以上では、「言葉も内容も知っている」が17.1%と、他の年齢層に比べて少なくなっています。

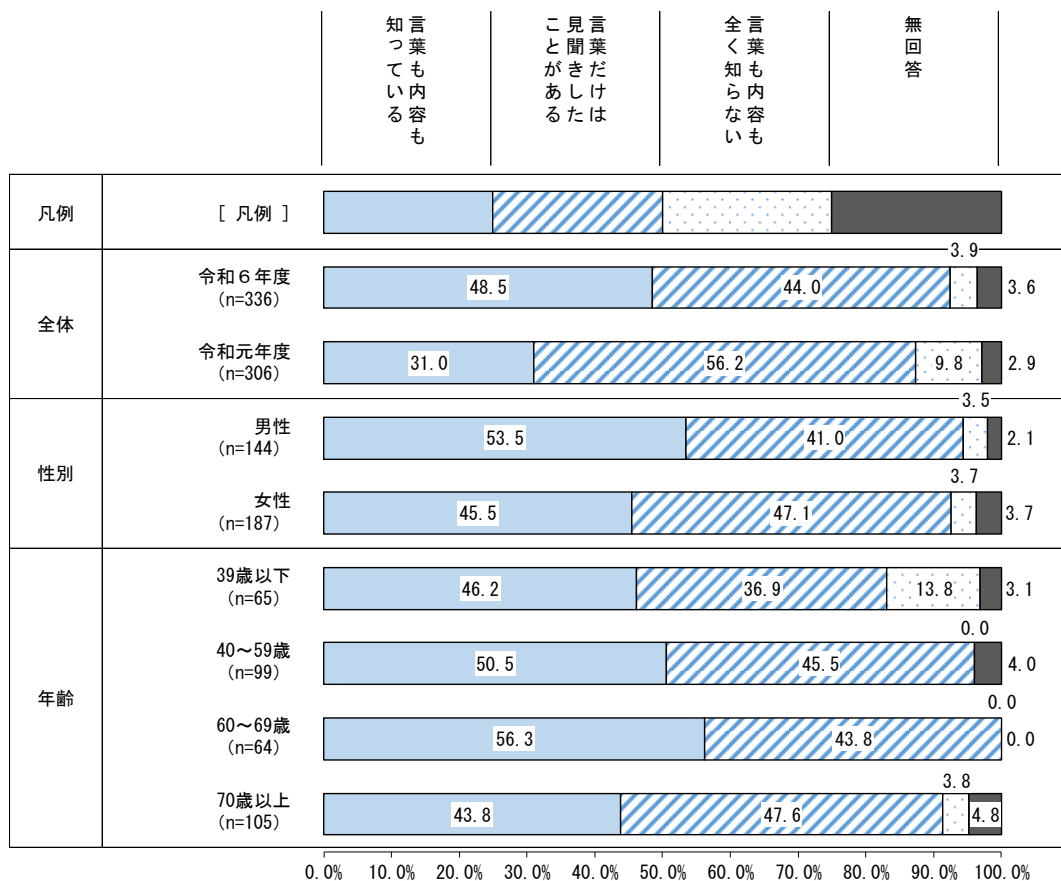
【育児・介護休業法】



⑥ ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）

- 【全体】**
- ストーカー規制法について、「言葉も内容も知っている」が48.5%で最も多く、次いで「言葉だけは聞きしただけ」が44.0%、「言葉も内容も全く知らない」が3.9%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは聞きしただけ」を合わせた“知っている”は92.5%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「言葉も内容も知っている」が17.5ポイント多く、“知っている”が5.3ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性では、「言葉も内容も知っている」が53.5%と、女性の45.5%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「言葉も内容も全く知らない」が13.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が56.3%と他の年齢層に比べて多くなっています。

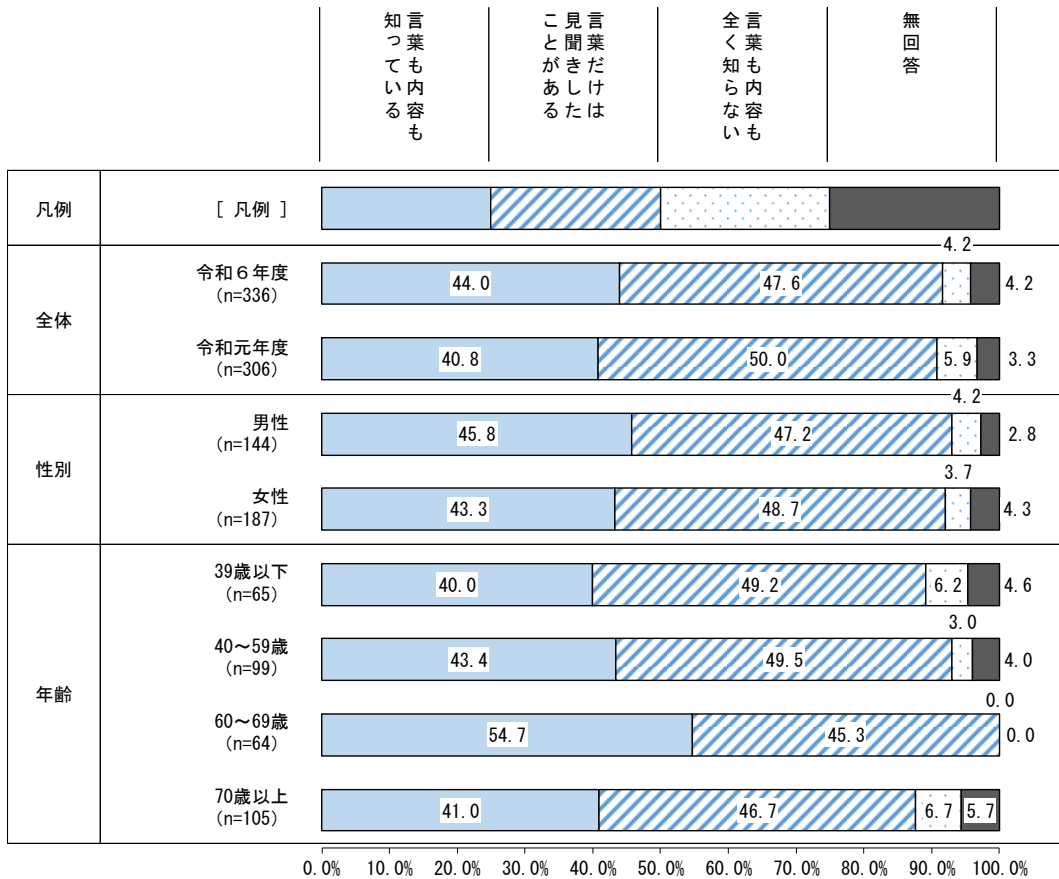
【ストーカー規制法】



⑦ DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）

- 【全体】**
- DV防止法について、「言葉だけは見聞きしたことがある」が47.6%で最も多く、次いで「言葉も内容も知っている」が44.0%、「言葉も内容も全く知らない」が4.2%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は91.6%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【年齢】**
- 60～69歳では、「言葉も内容も知っている」が54.7%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、“知っている”が100.0%となっています。

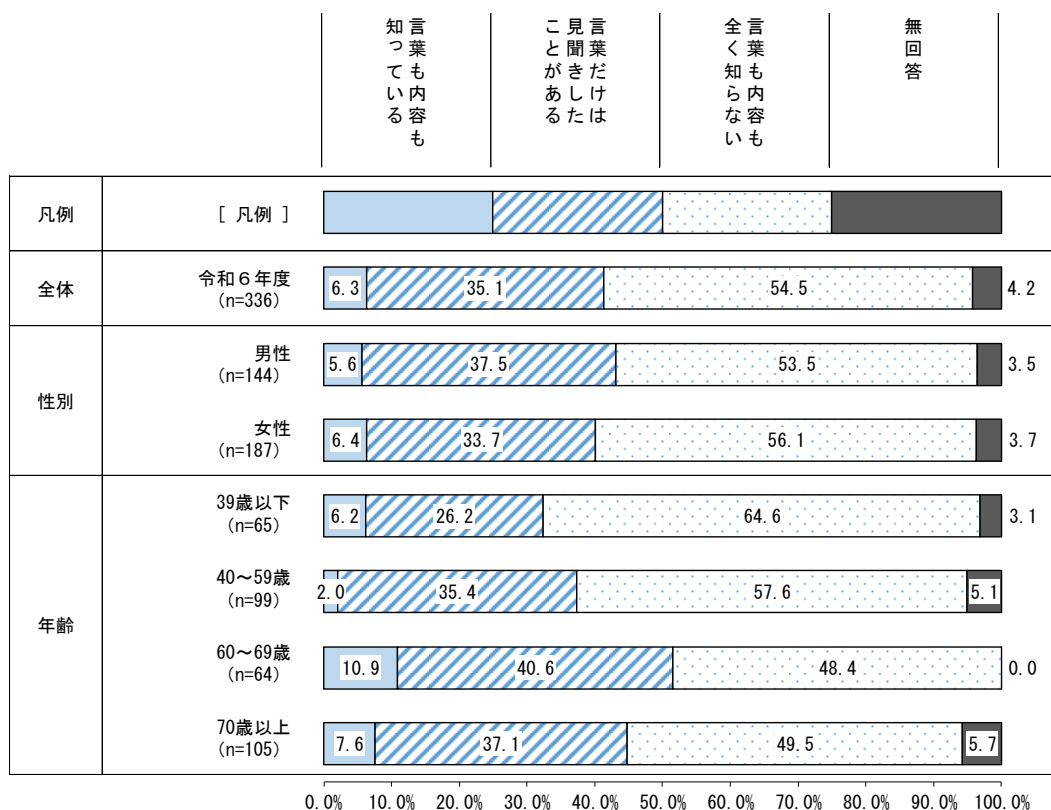
【DV防止法】



⑧ 困難女性支援法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）

- 【全体】**
- 困難女性支援法について、「言葉も内容も全く知らない」が54.5%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が35.1%、「言葉も内容も知っている」が6.3%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は41.4%となっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下、40～59歳では、「言葉も内容も全く知らない」が約6割と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 60～69歳では、“知っている”が51.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。

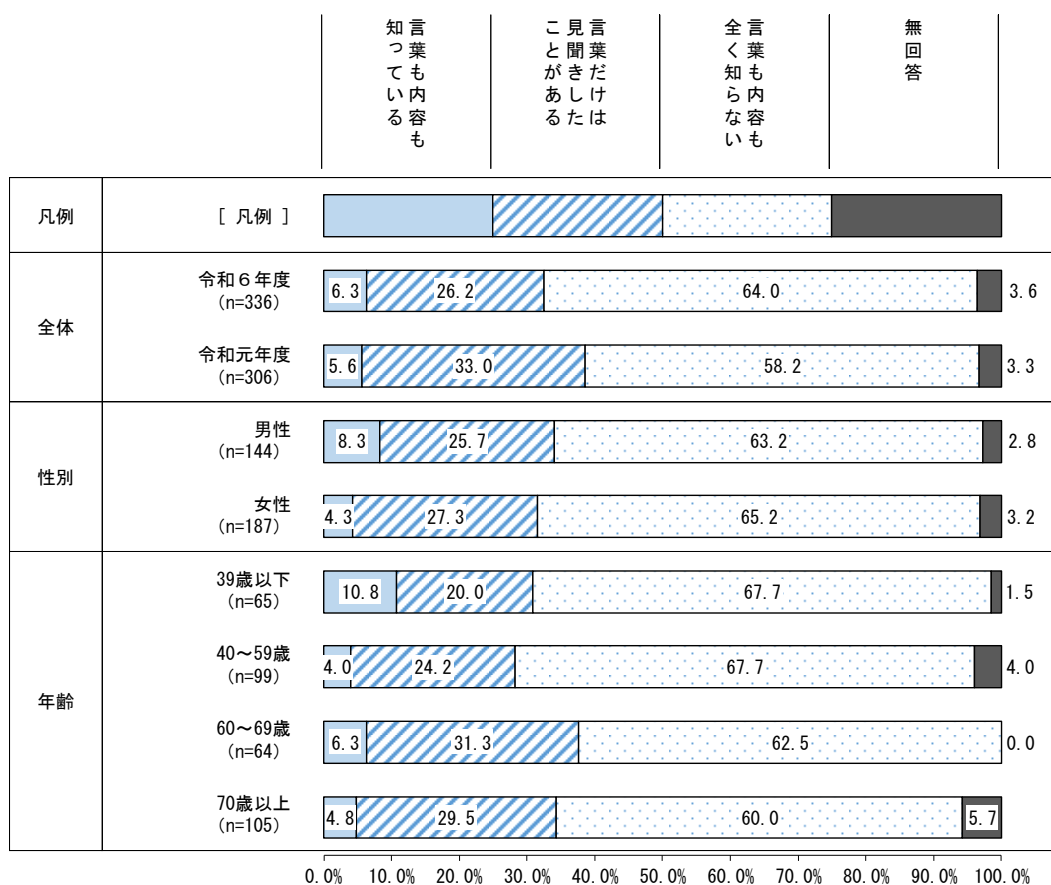
【困難女性支援法】



⑨ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

- 【全体】**
- ポジティブ・アクションについて、「言葉も内容も全く知らない」が64.0%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が26.2%、「言葉も内容も知っている」が6.3%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は32.5%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「言葉も内容も全く知らない」が5.8ポイント多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下、40～59歳では、「言葉も内容も全く知らない」がともに約7割と他の年齢層に比べて多くなっています。

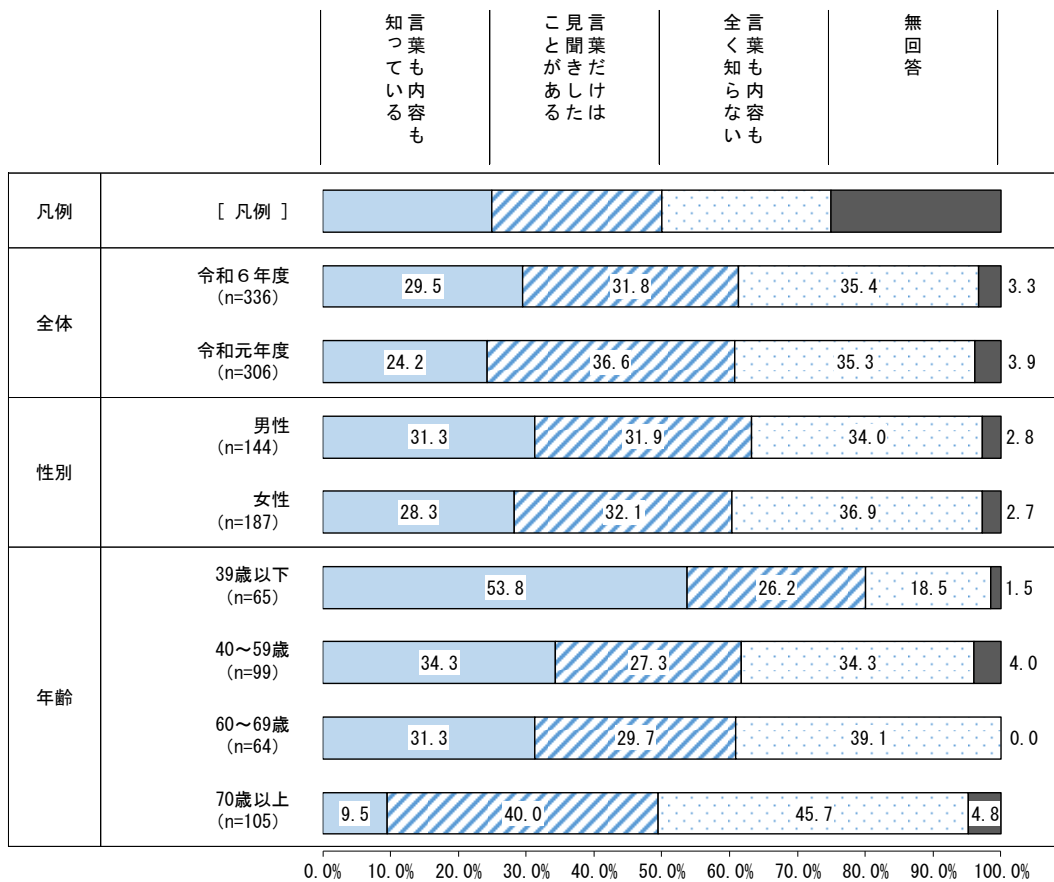
【ポジティブ・アクション】



⑩ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

- 【全体】**
- ワーク・ライフ・バランスについて、「言葉も内容も全く知らない」が35.4%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が31.8%、「言葉も内容も知っている」が29.5%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は61.3%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「言葉も内容も知っている」が5.3ポイント多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「言葉も内容も知っている」が53.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、年齢が下がるにつれて「言葉も内容も知っている」が多くなる傾向が見られます。

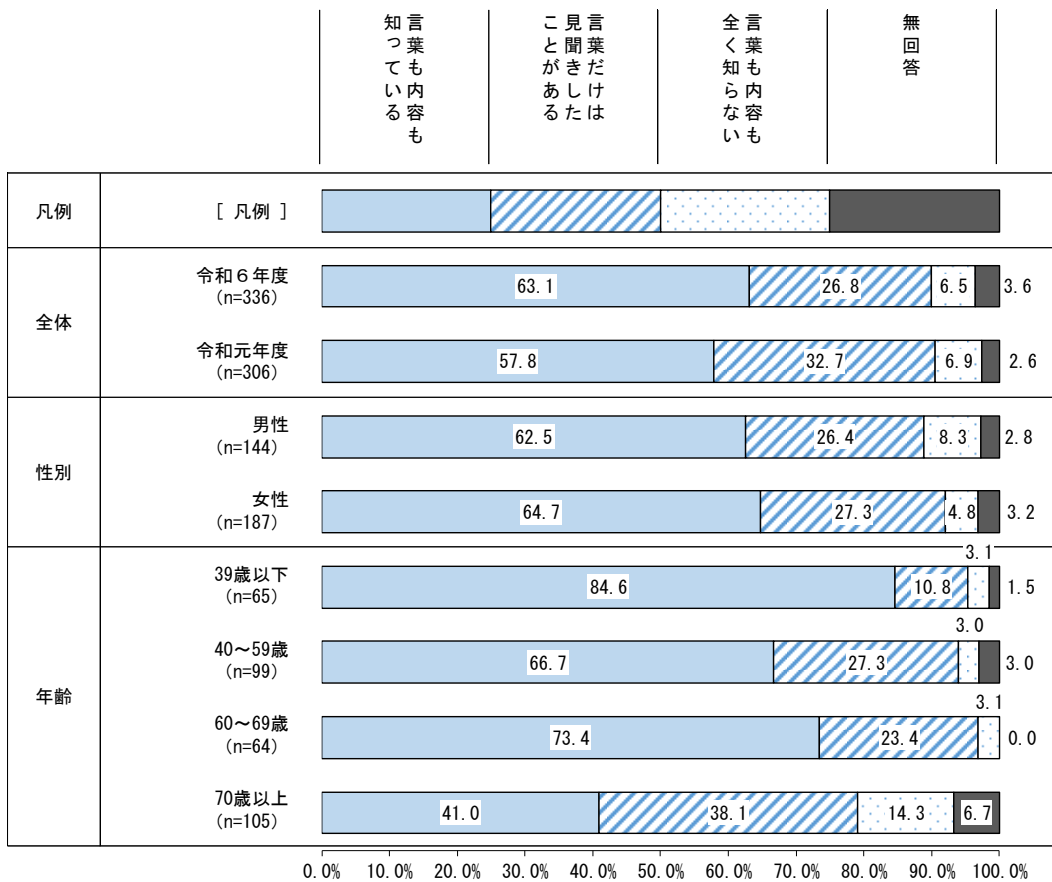
【ワーク・ライフ・バランス】



⑪ ドメスティック・バイオレンス (DV)

- 【全体】**
- ドメスティック・バイオレンスについて、「言葉も内容も知っている」が63.1%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が26.8%、「言葉も内容も全く知らない」が6.5%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は89.9%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「言葉も内容も知っている」が5.3ポイント多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「言葉も内容も知っている」が84.6%と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、70歳以上では、「言葉も内容も知っている」が41.0%と他の年齢層に比べて少なくなっています。

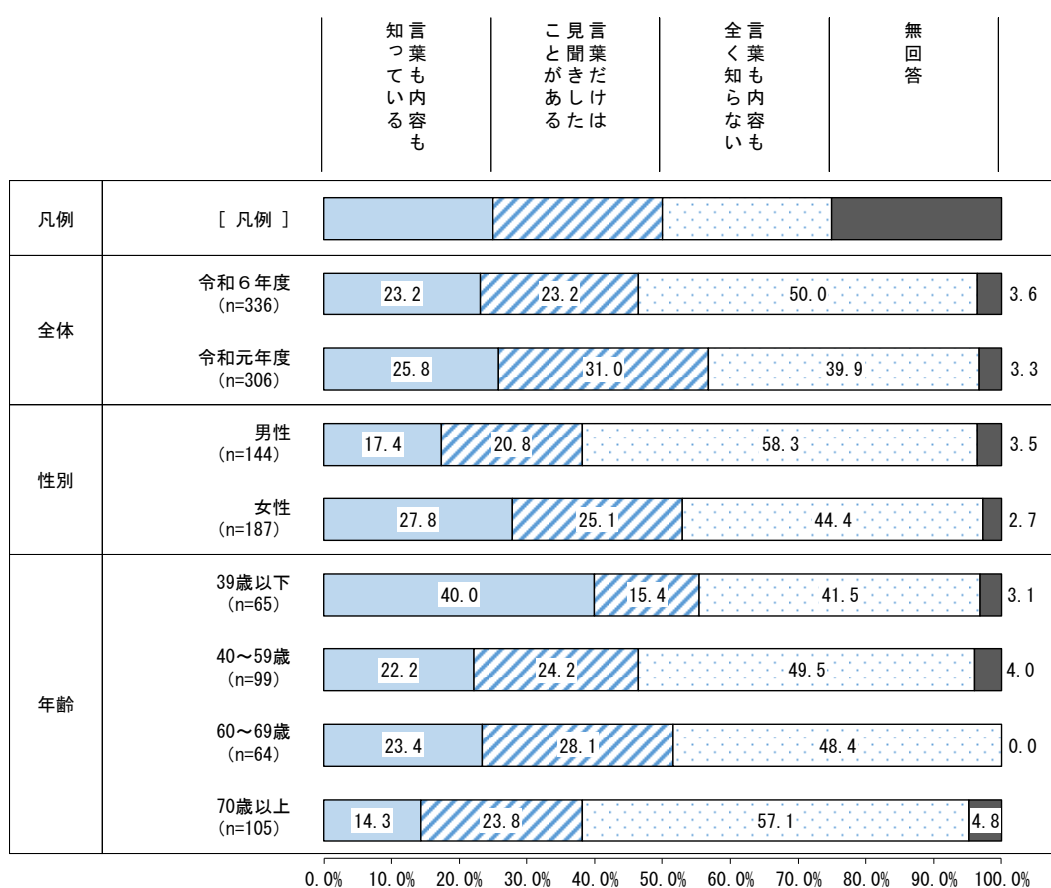
【ドメスティック・バイオレンス】



⑫ デートDV

- 【全体】**
- デートDVについて、「言葉も内容も全く知らない」が50.0%で最も多く、次いで「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」が23.2%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は46.4%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「言葉も内容も全く知らない」が10.1ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 女性では、“知っている”が52.9%と、男性の38.2%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「言葉も内容も知っている」が40.0%と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、70歳以上では、「言葉も内容も知っている」が14.3%と少なく、「言葉も内容も全く知らない」が57.1%と他の年齢層に比べて多くなっています。

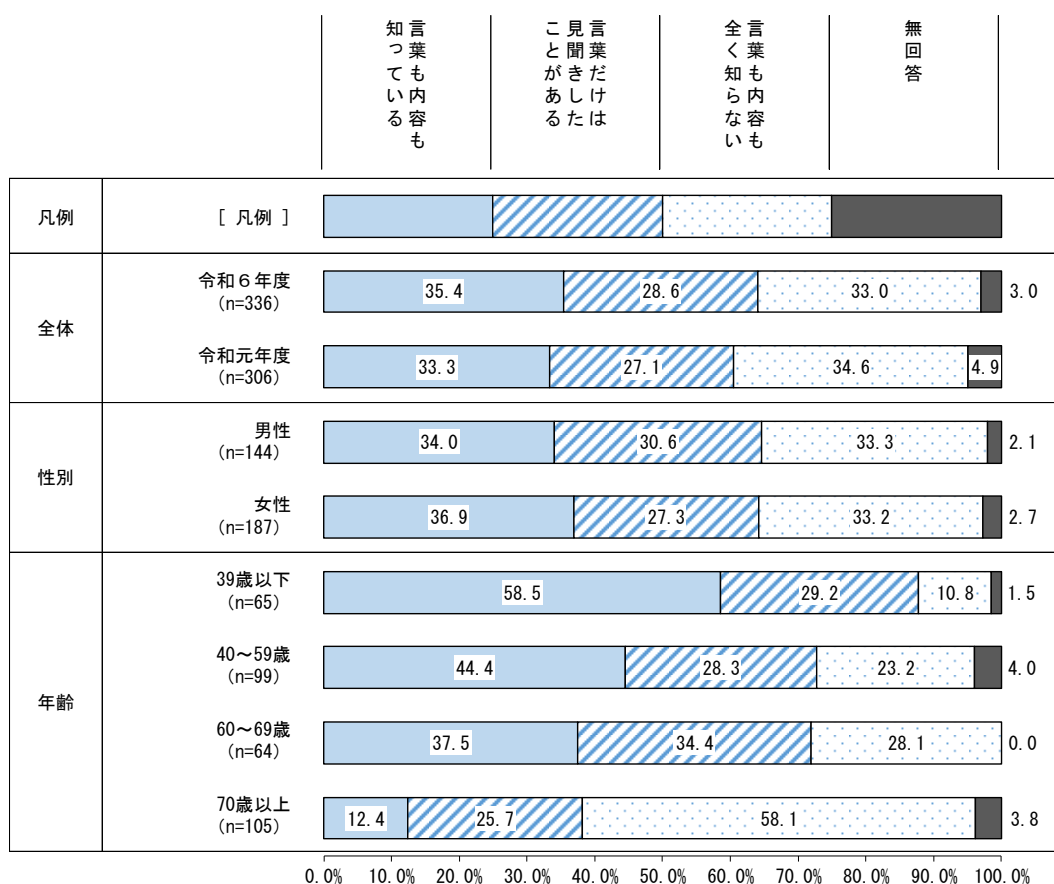
【デートDV】



⑬ LGBTQ+

- 【全体】**
- LGBTQ+について、「言葉も内容も知っている」が35.4%で最も多く、次いで「言葉も内容も全く知らない」が33.0%、「言葉だけは聞きしただけ」が28.6%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは聞きしただけ」を合わせた“知っている”は64.0%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「言葉も内容も知っている」が58.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、年齢が下がるにつれて「言葉も内容も知っている」が多くなる傾向が見られます。
 - 70歳以上では、「言葉も内容も全く知らない」が58.1%と他の年齢層に比べて多くなっています。

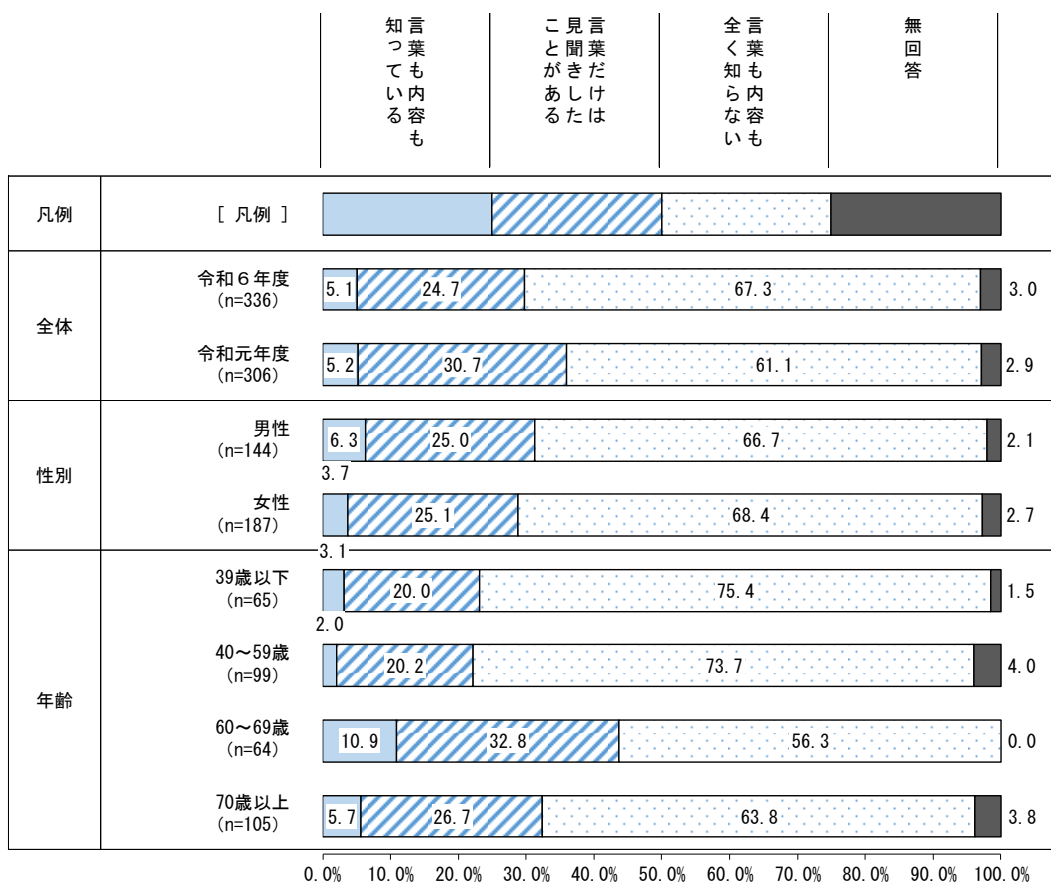
【LGBTQ+】



⑭ たかさご男女共同参画プラン

- 【全体】**
- たかさご男女共同参画プランについて、「言葉も内容も全く知らない」が67.3%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が24.7%、「言葉も内容も知っている」が5.1%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は29.8%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「言葉だけは見聞きしたことがある」が6.0ポイント少なく、「言葉も内容も全く知らない」が6.2ポイント多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下、40～59歳では、「言葉も内容も全く知らない」が7割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 60～69歳では、“知っている”が43.7%と他の年齢層に比べて多くなっています。

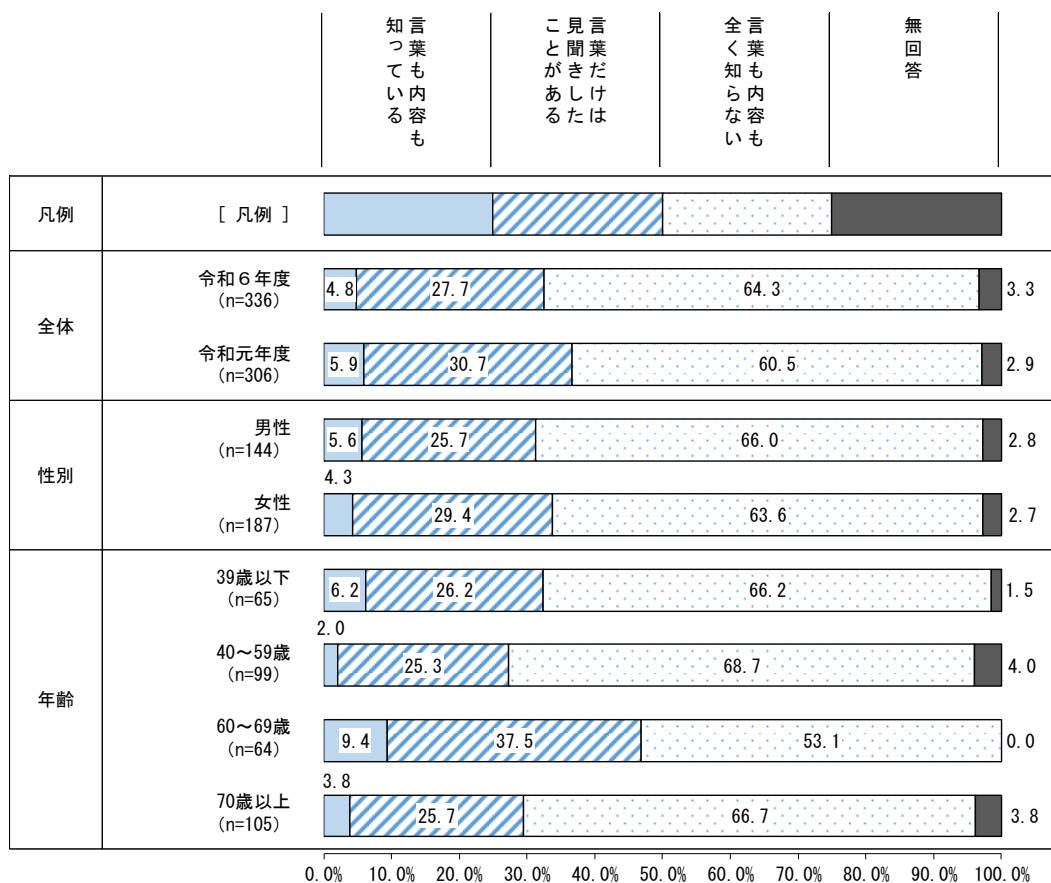
【たかさご男女共同参画プラン】



⑮ 高砂市男女共同参画センター

- 【全体】**
- 高砂市男女共同参画センターについて、「言葉も内容も全く知らない」が64.3%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が27.7%、「言葉も内容も知っている」が4.8%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は32.5%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【年齢】**
- 60～69歳では、“知っている”が46.9%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【高砂市男女共同参画センター】



⑩ 高砂市男女共同参画センター情報誌「Cocot（ココット）」

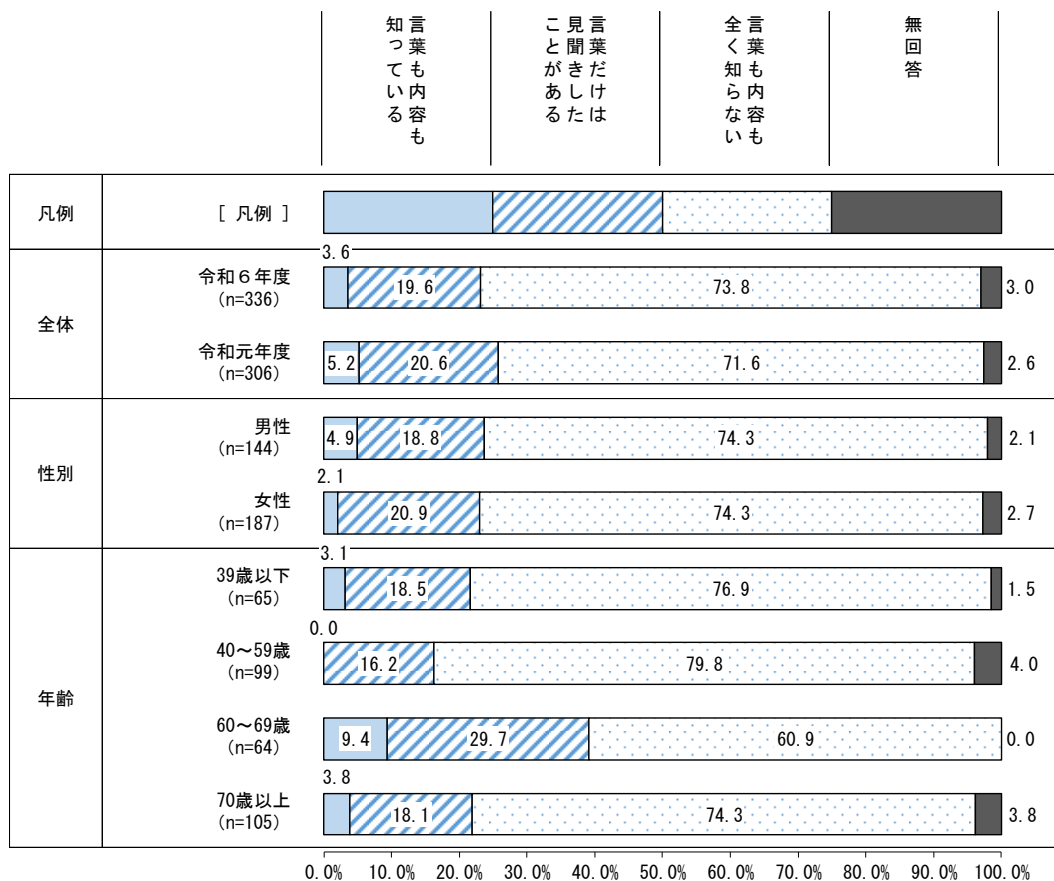
【全体】

- 高砂市男女共同参画センター情報誌「Cocot（ココット）」について、「言葉も内容も全く知らない」が73.8%で最も多く、次いで「言葉だけは見聞きしたことがある」が19.6%、「言葉も内容も知っている」が3.6%となっています。「言葉も内容も知っている」「言葉だけは見聞きしたことがある」を合わせた“知っている”は23.2%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、大きな差はありません。

【年齢】

- 60～69歳では、“知っている”が39.1%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【高砂市男女共同参画センター情報誌「Cocot（ココット）」】

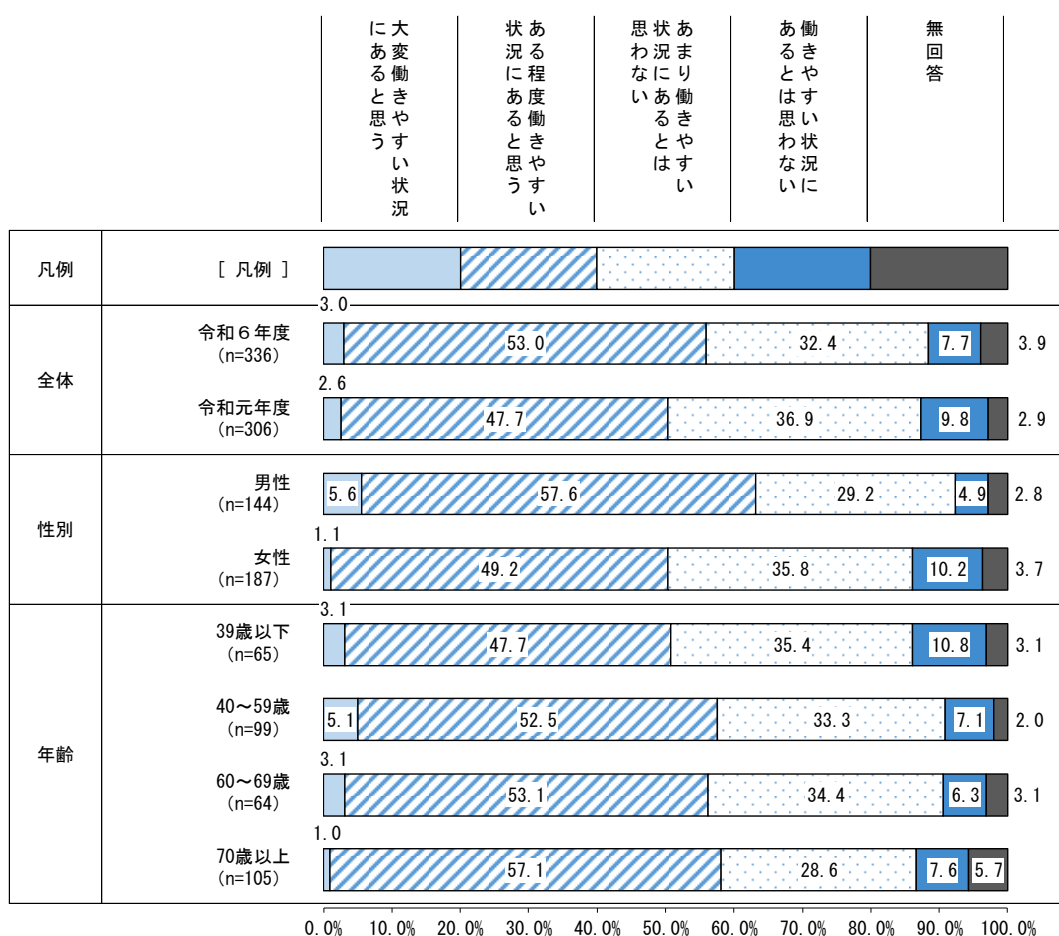


(3) 女性の社会進出について

Q3-1 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○は1つ)

- 【全体】**
- 女性の働きやすさに対する意見について、「ある程度働きやすい状況にあると思う」が53.0%で最も多く、次いで「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」が32.4%、「働きやすい状況にあるとは思わない」が7.7%となっています。「大変働きやすい状況にあると思う」「ある程度働きやすい状況にあると思う」を合わせた“思う”は56.0%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、“思う”が5.7ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 女性では、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」「働きやすい状況にあるとは思わない」を合わせた“思わない”が46.0%と、男性の34.1%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、“思わない”が46.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。

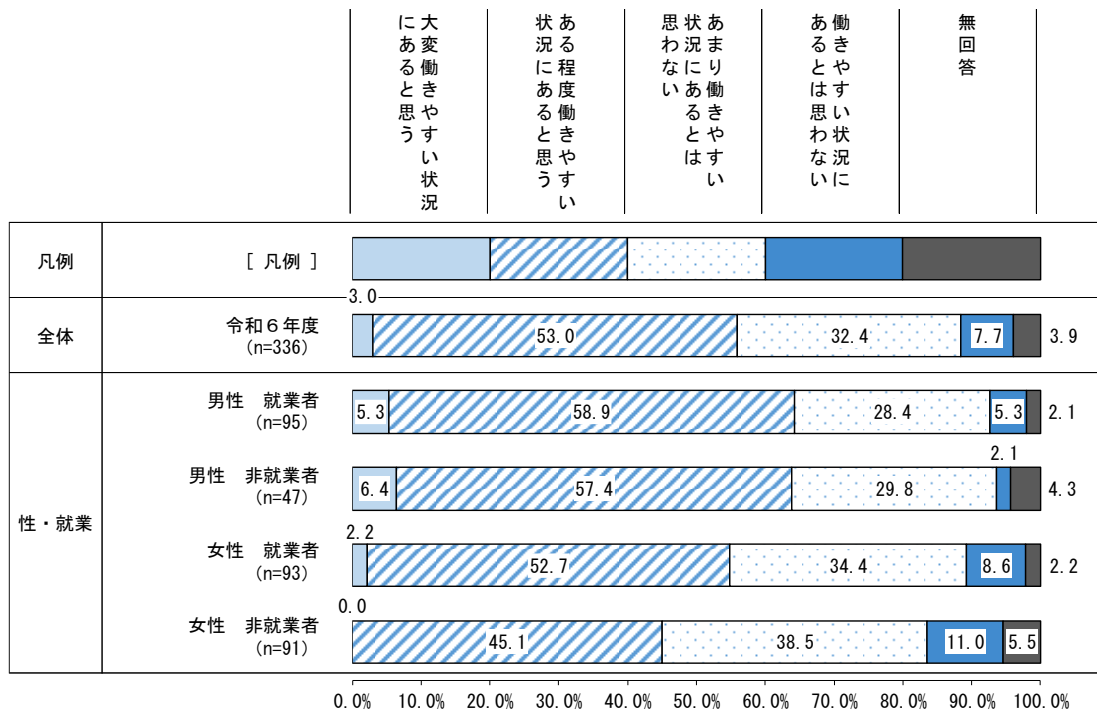
【女性の働きやすさに対する意見】



【性・就業】

○ 女性の非就業者では、“思わない”が49.5%と他の区分に比べて多くなっています。

【女性の働きやすさに対する意見】



Q3-2 あなたは、女性が仕事に就くことについてどうお考えですか。(〇は1つ)

【全体】

- 女性の就業についての意見について、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が47.0%で最も多く、次いで「子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び仕事に就くほうがよい」が29.5%、「その他」が10.7%となっています。

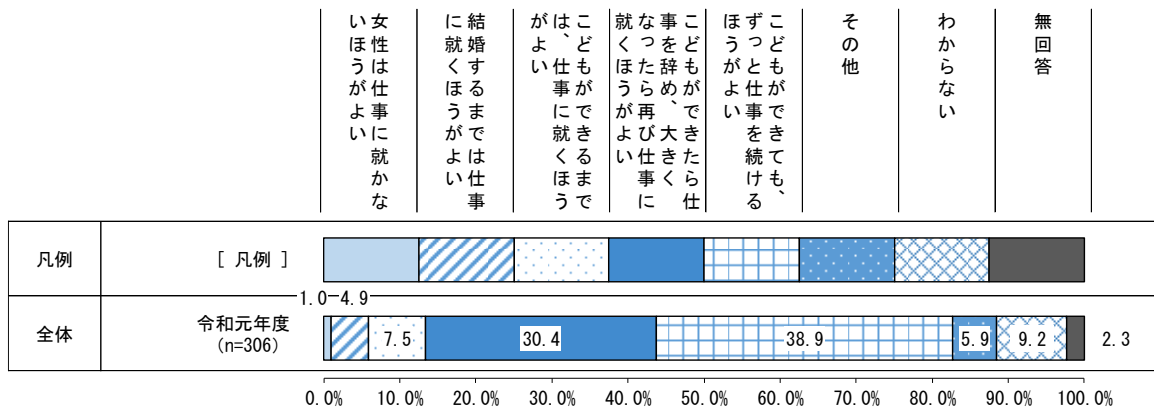
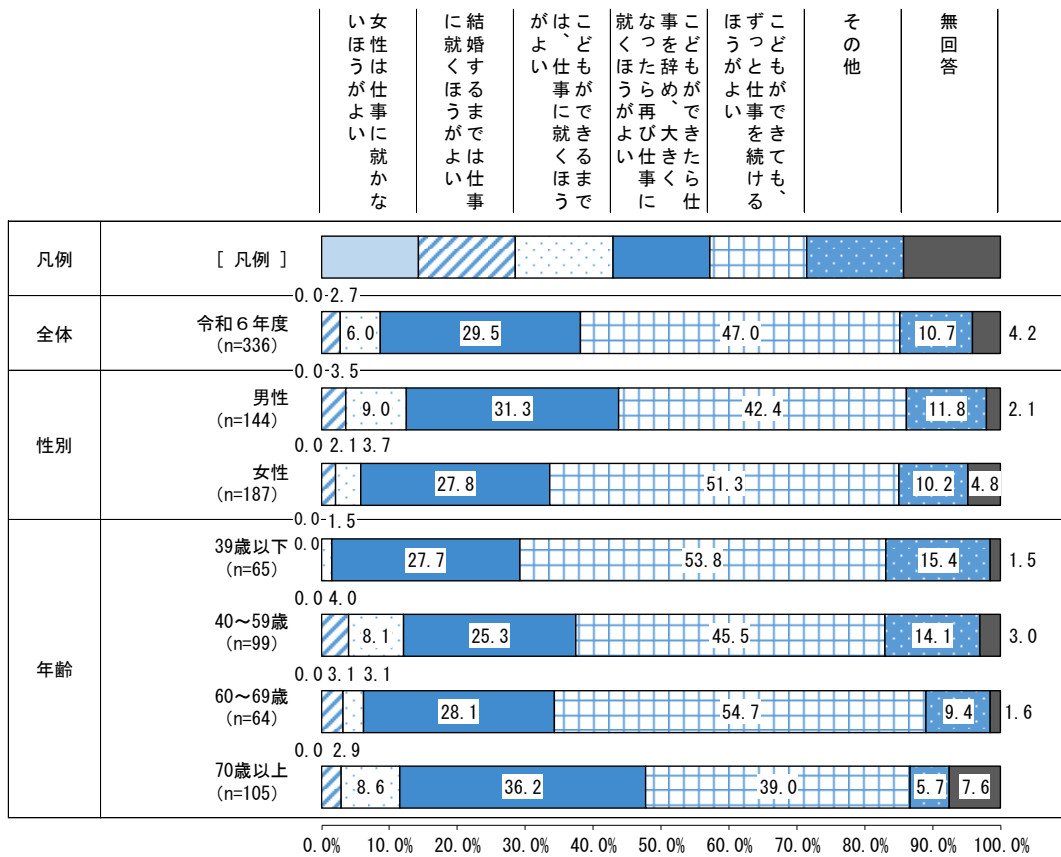
【性別】

- 女性では、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が51.3%と、男性の42.4%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 70歳以上では、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が39.0%と他の年齢層に比べて少なく、「子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び仕事に就くほうがよい」が36.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【女性の就業についての意見】



※選択肢に「わからない」があるため比較対象としていません。

【性・就業】

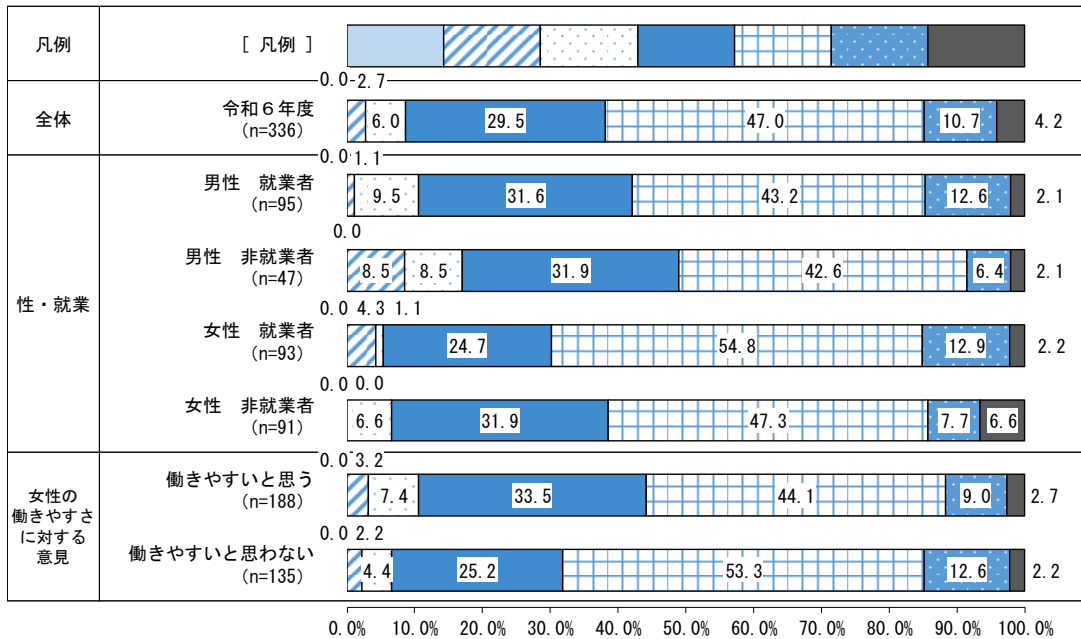
○ 女性の就業者では、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が54.8%と他の区分に比べて多くなっています。

【女性の働きやすさに対する意見】

○ 働きやすいと思わない人では、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が53.3%と、働きやすいと思う人に比べて多くなっています。

【女性の就業についての意見】

い 女 性 が 仕 事 に 就 か な	に 結 婚 す る ま で は よ い 仕 事	が よ い 仕 事 に 就 く ほ ま う	は こ ど も が 再 び 仕 事 に	就 業 を 辞 め 、 大 き く 仕 事 に	こ ど も が で き た ら 仕 事 を 続 け る	ほ う が よ い 仕 事 を 続 け る	こ ど も が で き て も 、 仕 事 を 続 け る	そ の 他	無 回 答
--	--	---	--	--	--	---	---	-------------	-------------

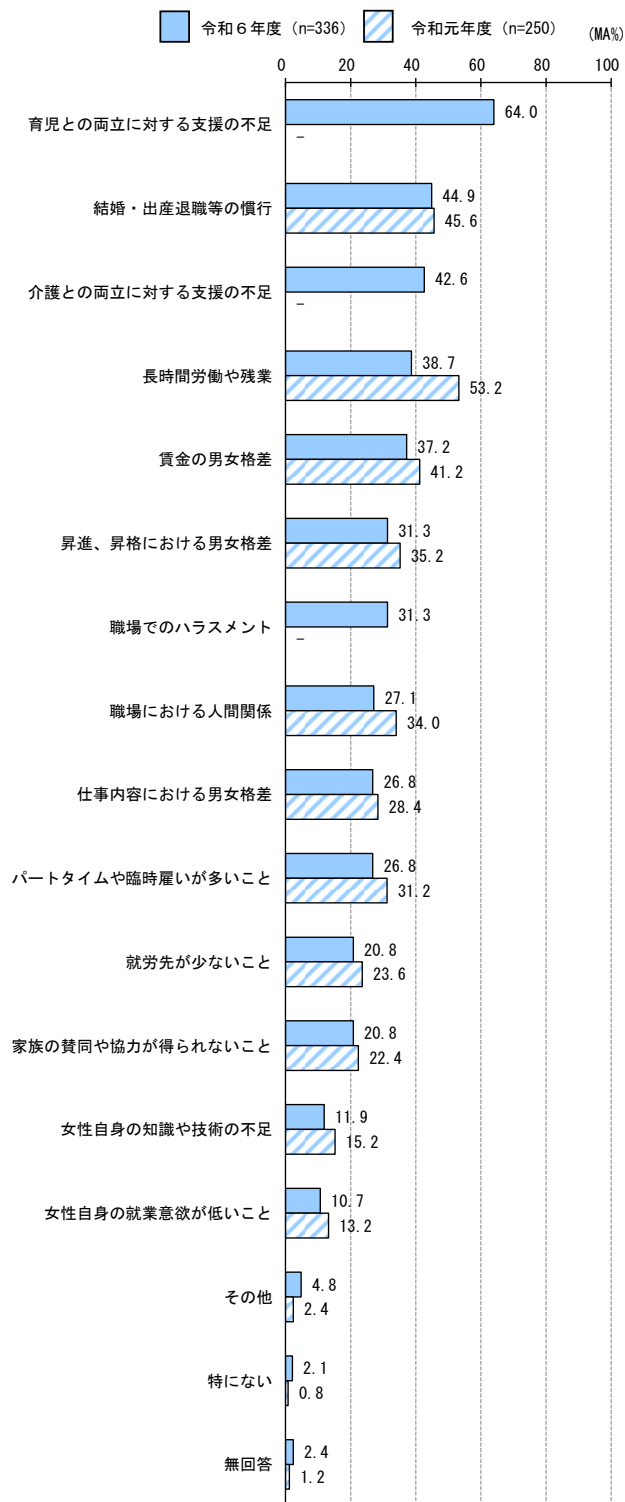


Q3-3 あなたは、女性が働く上での障害は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 女性が働く上での障害について、「育児との両立に対する支援の不足」が64.0%で最も多く、次いで「結婚・出産退職等の慣行」が44.9%、「介護との両立に対する支援の不足」が42.6%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「長時間労働や残業」「職場における人間関係」が少なくなっています。

【女性が働く上での障害】



※今回調査で選択肢を整理したため、令和元年度調査と同一の選択肢のみ比較対象としています。

【性別】

- 女性では、「育児との両立に対する支援の不足」が68.4%で最も多く、次いで「介護との両立に対する支援の不足」が50.8%、「結婚・出産退職等の慣行」が44.4%となっています。また、女性では、「就労先が少ないこと」「育児との両立に対する支援の不足」「介護との両立に対する支援の不足」「家族の賛同や協力が得られないこと」が、男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「育児との両立に対する支援の不足」が78.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 年齢が上がるにつれて「賃金の男女格差」「パートタイムや臨時雇いが多いこと」が多くなる傾向が見られます。

単位：%

	母数 (n)	女性が働く上での障害(MA)								
		結婚・ 出産退職等 の慣行	賃金 の男女 格差	昇進・ 昇格に おける 男女 格差	仕事 内容に おける 男女 格差	長時 間労働 や残業	就労 先が少 ないこ と	パート タイム や臨時 雇い が多い こと	育児 との 両立に 対する 支	介護 との 両立に 対する 支
全体	336	44.9	37.2	31.3	26.8	38.7	20.8	26.8	64.0	42.6
性別										
男性	144	46.5	36.1	31.9	31.9	36.1	16.7	27.8	59.0	32.6
女性	187	44.4	38.0	31.0	23.5	41.2	24.6	26.2	68.4	50.8
年齢										
39歳以下	65	49.2	29.2	32.3	20.0	36.9	18.5	13.8	78.5	40.0
40～59歳	99	40.4	32.3	35.4	29.3	36.4	31.3	23.2	58.6	37.4
60～69歳	64	48.4	40.6	20.3	21.9	40.6	20.3	26.6	62.5	48.4
70歳以上	105	44.8	43.8	33.3	31.4	41.9	13.3	37.1	61.0	44.8

単位：%

	母数 (n)	女性が働く上での障害(MA)							特 に な い	無 回 答
		職場 での ハラ スメ ント	職場 にお ける 人間 関係	家族 の賛 同や 協力 が得 ら れ ない こ と	女性 自身 の知 識や 技術 の 不足	女性 自身 の就 業意 欲が 低 いこ と	そ の 他			
全体	336	31.3	27.1	20.8	11.9	10.7	4.8	2.1	2.4	
性別										
男性	144	29.9	21.5	12.5	12.5	11.8	8.3	2.8	1.4	
女性	187	32.1	30.5	27.8	11.8	10.2	1.6	1.6	2.1	
年齢										
39歳以下	65	43.1	33.8	13.8	4.6	9.2	9.2	1.5	1.5	
40～59歳	99	26.3	24.2	19.2	13.1	9.1	4.0	3.0	3.0	
60～69歳	64	37.5	28.1	31.3	17.2	7.8	4.7	1.6	1.6	
70歳以上	105	25.7	25.7	21.0	12.4	15.2	2.9	1.9	1.9	

【性・就業】

- 女性の就業者では、「仕事内容における男女格差」が17.2%と他の区分に比べて少なくなっています。
- 女性の非就業者では、「パートタイムや臨時雇いが多いこと」「介護との両立に対する支援の不足」「職場における人間関係」が女性の就業者に比べて多くなっています。

【一番下のこどもの年齢】

- 乳幼児がいる人では、「育児との両立に対する支援の不足」が86.4%となっています。

【要介護者の有無】

- 要介護者がいる人では、「介護との両立に対する支援の不足」が73.9%となっています。

【経済状況】

- 経済状況が苦しい人では、「賃金の男女格差」「長時間労働や残業」「介護との両立に対する支援の不足」「職場でのハラスメント」が他の区分に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	女性が働く上での障害(MA)									
		結婚・ 出産退職等の慣行	賃金の男女格差	格昇進、 昇格における男女	差仕事 内容における男女格	長時間労働や残業	就労先が 少ないこと	パートタイムや 臨時雇いが 多いこと	育児との 両立に対する支	介護との 両立に対する支	
全体	336	44.9	37.2	31.3	26.8	38.7	20.8	26.8	64.0	42.6	
性・就業	男性 就業者	95	46.3	31.6	29.5	32.6	34.7	17.9	22.1	60.0	30.5
	男性 非就業者	47	46.8	46.8	38.3	31.9	40.4	14.9	40.4	59.6	38.3
	女性 就業者	93	45.2	41.9	35.5	17.2	41.9	23.7	19.4	69.9	47.3
	女性 非就業者	91	45.1	35.2	27.5	30.8	40.7	25.3	34.1	68.1	56.0
一番下の こどもの 年齢	乳幼児	22	40.9	31.8	27.3	13.6	45.5	36.4	9.1	86.4	36.4
	小学生	8	12.5	25.0	25.0	25.0	62.5	25.0	12.5	62.5	12.5
	中学生以上	22	36.4	18.2	36.4	18.2	45.5	31.8	13.6	68.2	27.3
要介護者 の有無	いる	23	43.5	34.8	43.5	21.7	26.1	26.1	26.1	60.9	73.9
	いない	260	45.4	36.5	30.8	26.9	40.4	21.5	25.4	68.1	41.9
経済状況	苦しい	134	44.0	41.8	32.8	25.4	43.3	23.9	29.9	65.7	45.5
	ふつう	165	43.0	35.8	29.1	26.7	38.2	20.6	26.7	61.2	40.0
	ゆとりがある	28	60.7	21.4	32.1	32.1	25.0	10.7	17.9	82.1	39.3

単位：%

	母数 (n)	女性が働く上での障害(MA)							特 に な い	無 回 答
		職場での ハラスメント	職場に おける 人間関係	家族の 賛同や 協力が 得られ ないこと	女性 自身の 知識や 技術の 不足	女性 自身の 就業意 欲が低 いこと	その 他			
全体	336	31.3	27.1	20.8	11.9	10.7	4.8	2.1	2.4	
性・就業	男性 就業者	95	33.7	24.2	13.7	12.6	12.6	8.4	3.2	1.1
	男性 非就業者	47	21.3	17.0	10.6	12.8	10.6	6.4	2.1	2.1
	女性 就業者	93	31.2	25.8	30.1	14.0	7.5	-	2.2	3.2
	女性 非就業者	91	34.1	36.3	25.3	8.8	12.1	3.3	1.1	1.1
一番下の こどもの 年齢	乳幼児	22	22.7	31.8	18.2	9.1	4.5	-	-	4.5
	小学生	8	25.0	37.5	-	12.5	-	-	-	-
	中学生以上	22	22.7	22.7	31.8	18.2	13.6	-	4.5	-
要介護者 の有無	いる	23	30.4	39.1	34.8	13.0	4.3	13.0	-	-
	いない	260	32.3	26.9	19.2	10.4	11.5	4.2	1.5	1.9
経済状況	苦しい	134	37.3	27.6	20.1	12.7	9.0	4.5	2.2	1.5
	ふつう	165	27.9	28.5	21.8	11.5	10.9	4.8	2.4	3.0
	ゆとりがある	28	21.4	14.3	21.4	14.3	17.9	3.6	-	-

【女性の働きやすさに対する意見】

- 働きやすいと思わない人では、「育児との両立に対する支援の不足」が74.1%で最も多く、次いで「結婚・出産退職等の慣行」が53.3%、「介護との両立に対する支援の不足」が47.4%となっており、いずれも働きやすいと思う人に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	女性が働く上での障害(MA)								
			結婚・ 出産退職等 の慣行	賃金 の男女格 差	昇進、 昇格に おける 男女 格差	仕事 内容に おける 男女 格差	長 時間 労働 や残 業	就 労先 が少 ない こと	パ ー ト タ イ ム や 臨 時 雇 い が 多 い こ と	育 児 と の 両 立 に 対 す る 支 援 の 不 足	介 護 と の 両 立 に 対 す る 支 援 の 不 足
全体		336	44.9	37.2	31.3	26.8	38.7	20.8	26.8	64.0	42.6
女性の 働きやす さに対す る意見	働きやすいと思う	188	41.5	31.4	23.9	22.9	38.3	15.4	21.8	58.5	39.4
	働きやすいと思わない	135	53.3	45.2	43.7	34.1	41.5	29.6	34.1	74.1	47.4

単位：%

		母数 (n)	女性が働く上での障害(MA)							無 回 答
			職 場 で の ハ ラ ス メ ン ト	職 場 に お け る 人 間 関 係	家 族 の 賛 同 や 協 力 が 得 ら れ な い こ と	女 性 自 身 の 知 識 や 技 術 の 不 足	女 性 自 身 の 就 業 意 欲 が 低 い こ と	そ の 他	特 に な い	
全体		336	31.3	27.1	20.8	11.9	10.7	4.8	2.1	2.4
女性の 働きやす さに対す る意見	働きやすいと思う	188	26.1	23.4	18.6	13.8	14.9	4.3	3.2	1.6
	働きやすいと思わない	135	39.3	31.9	23.7	9.6	5.2	5.2	-	0.7

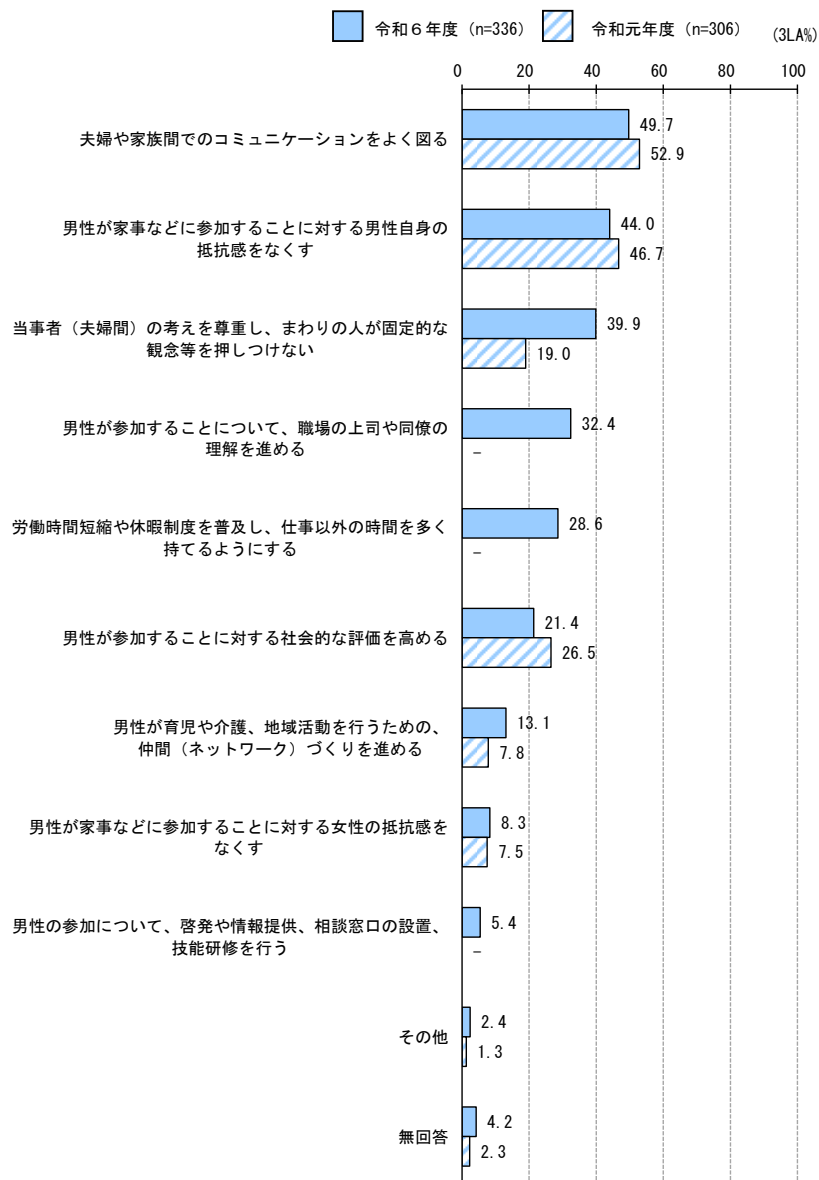
(4) 男性の家事・育児などへの参加について

Q4-1 男性の「家事・育児・介護等の家庭生活における活動」や「地域活動」への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

- 男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が49.7%で最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が44.0%、「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない」が39.9%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない」「男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進める」が多く、「男性が参加することに対する社会的な評価を高める」が少なくなっています。

【男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるために必要なこと】



※今回調査で選択肢を整理したため、令和元年度調査と同一の選択肢のみ比較対象としています。

【性別】

- 男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が52.8%で最も多く、次いで「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない」が36.8%となっています。また、「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が36.1%と、女性の22.5%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が58.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 39歳以下、40～59歳、60～69歳では、「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が約3～4割となっています。
- 60～69歳、70歳以上では、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が5割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるために必要なこと (3LA)					
			のる 抵抗 感が 家事 を 対 する 男 性 自 身 に 対 す る	抗 感 を な く す 男 性 に 対 す る	男 性 が 家 事 に 参 加 す る	二 夫 婦 や 家 族 間 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を よ く 図 る	固 定 的 な 観 念 等 を 押 し つ け な い	当 事 者 の 考 え を 尊 重 し 、 ま わ り の 人 が 固 定 的 な 観 念 等 を 押 し つ け な い
全体		336	44.0	8.3	49.7	39.9	21.4	32.4
性別	男性	144	34.0	5.6	52.8	36.8	20.1	30.6
	女性	187	51.3	10.7	48.7	43.3	21.9	33.7
年齢	39歳以下	65	32.3	9.2	58.5	44.6	13.8	36.9
	40～59歳	99	41.4	10.1	45.5	37.4	26.3	32.3
	60～69歳	64	51.6	4.7	50.0	45.3	20.3	31.3
	70歳以上	105	50.5	8.6	48.6	36.2	22.9	29.5

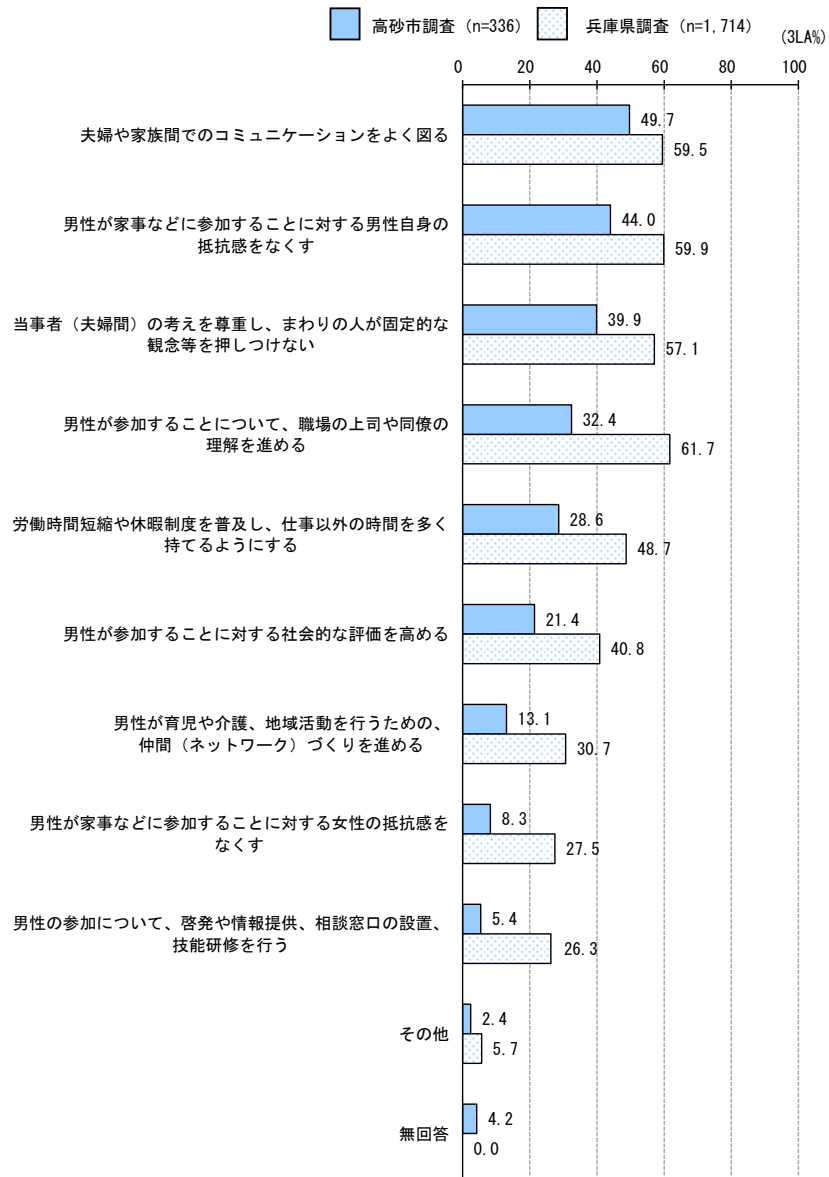
単位：%

		母数 (n)	男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるために必要なこと(3LA)				
			間 を 普 多 く 持 て る よ う に す る	勞 働 時 間 短 縮 や 休 暇 制 度 を 普 及 し 、 し じ く を 多 く 持 て る よ う に す る	男 性 が 家 事 に 参 加 す る	を 進 め る こ と に 対 し て 理 解 を 進 め る こ と を 高 く 評 価 す る	活 動 性 を 高 く 評 価 す る
全体		336	28.6	5.4	13.1	2.4	4.2
性別	男性	144	36.1	7.6	12.5	3.5	2.8
	女性	187	22.5	3.7	13.9	1.6	4.3
年齢	39歳以下	65	38.5	4.6	12.3	3.1	1.5
	40～59歳	99	35.4	5.1	8.1	3.0	4.0
	60～69歳	64	31.3	4.7	18.8	3.1	1.6
	70歳以上	105	15.2	5.7	14.3	1.0	6.7

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、すべての項目で少なくなっています。

【男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるために必要なこと】



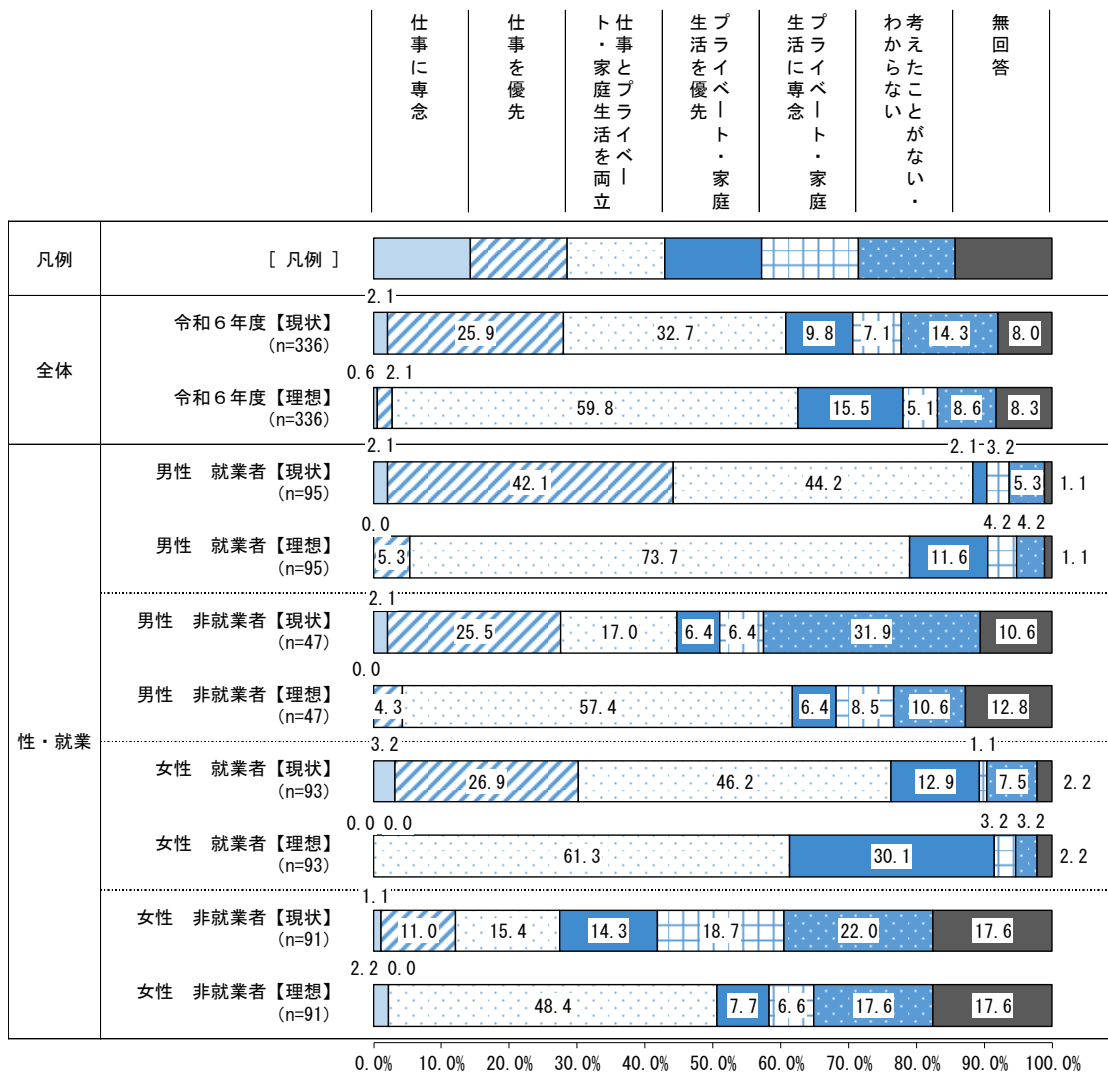
※兵庫県調査…いくつでも選択可

(5) ワーク・ライフ・バランスについて

Q5-1 あなたの「仕事」と「プライベート・家庭生活」のバランスについて、①現状と②理想に最も近いものはどれですか。①・②のそれぞれに回答してください。(〇はそれぞれ1つ)

- 【全体】**
- ワーク・ライフ・バランスについて、現状では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が32.7%となっていますが、理想では59.8%となっています。
- 【性・就業】**
- 男性の就業者の現状では、「仕事を優先」「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がともに約4割となっていますが、理想では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が73.7%となっています。
 - 女性の就業者の現状では、「仕事を優先」が26.9%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が46.2%となっていますが、理想では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が61.3%、「プライベート・家庭生活を優先」が30.1%となっています。

【ワーク・ライフ・バランス】



(6) DV、セクシュアル・ハラスメントについて

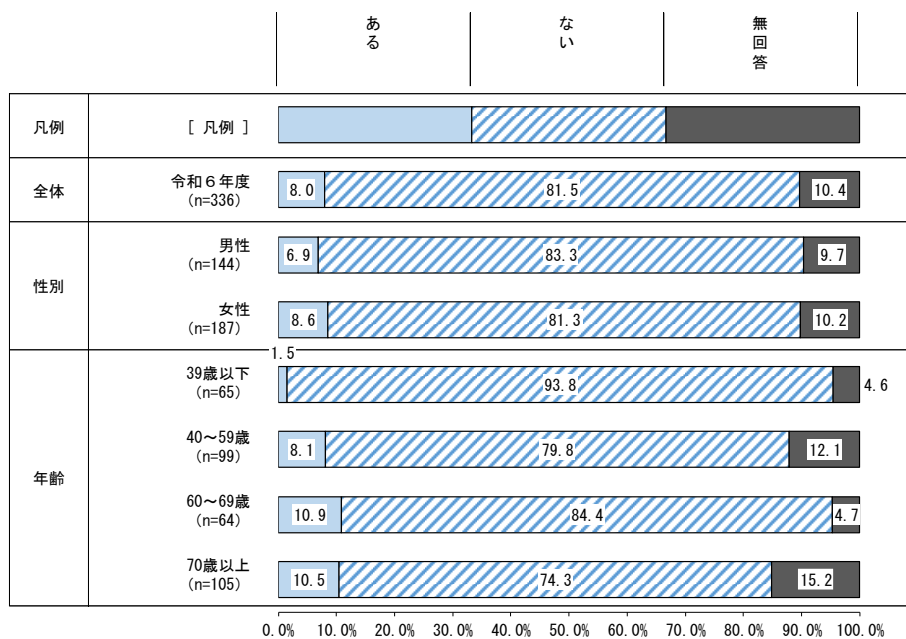
Q6-1 あなたは、配偶者またはパートナーから次のような行為を受けたことがありますか。また、あなたのまわりでそのような被害にあった人はいますか。あなた自身、まわりの人について、①～⑥のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① なぐる、ける、物を投げる等の身体的暴力

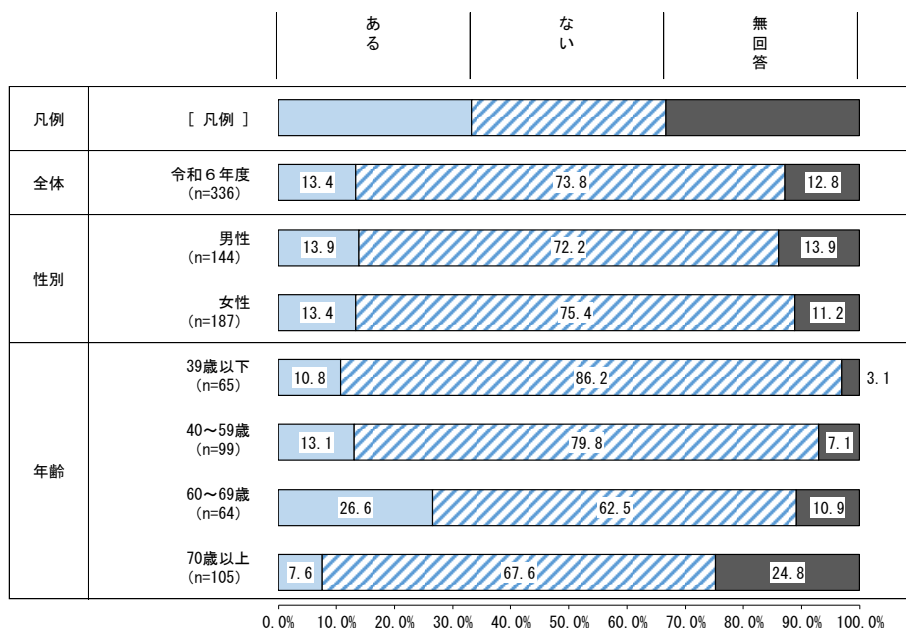
【全体】
 ○ なぐる、ける、物を投げる等の身体的暴力について、「ある」は、自分自身では8.0%、まわりの人では13.4%となっています。

【年齢】
 ○ 40～59歳、60～69歳、70歳以上では、自分自身に「ある」が約1割となっています。60～69歳では、まわりの人に「ある」が26.6%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【なぐる、ける、物を投げる等の身体的暴力（あなた自身）】



【なぐる、ける、物を投げる等の身体的暴力（まわりの人）】



② おどす、ののしる、無視する等の精神的暴力

【全体】

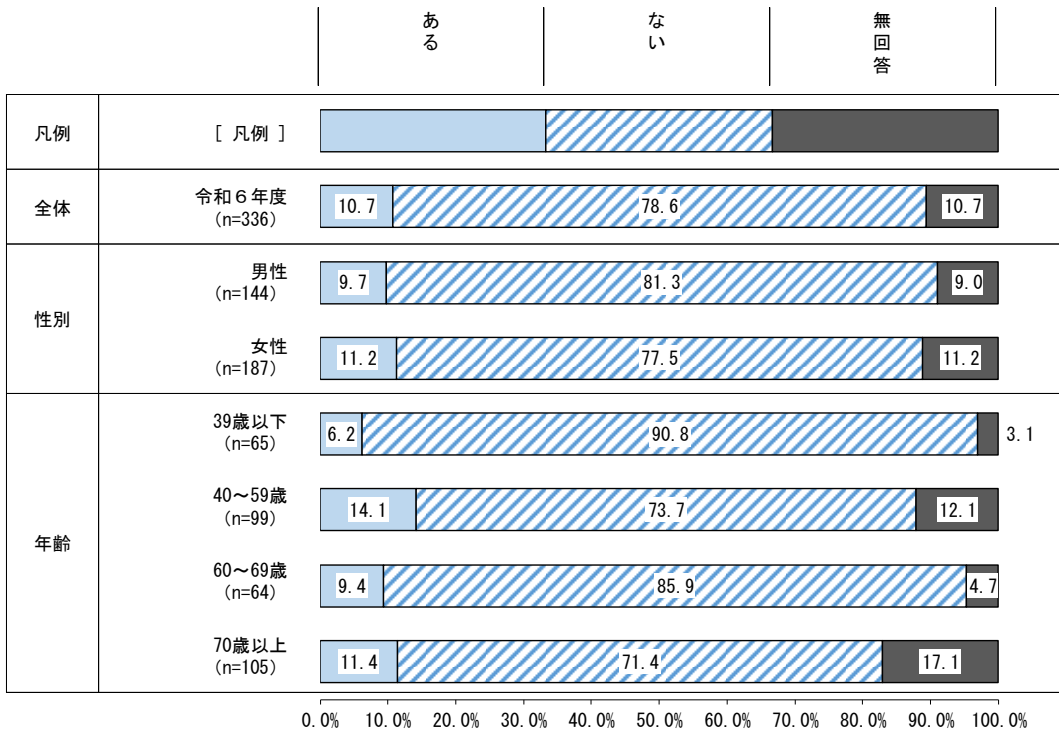
○ おどす、ののしる、無視する等の精神的暴力について、「ある」は、自分自身では10.7%、まわりの人では15.2%となっています。

【年齢】

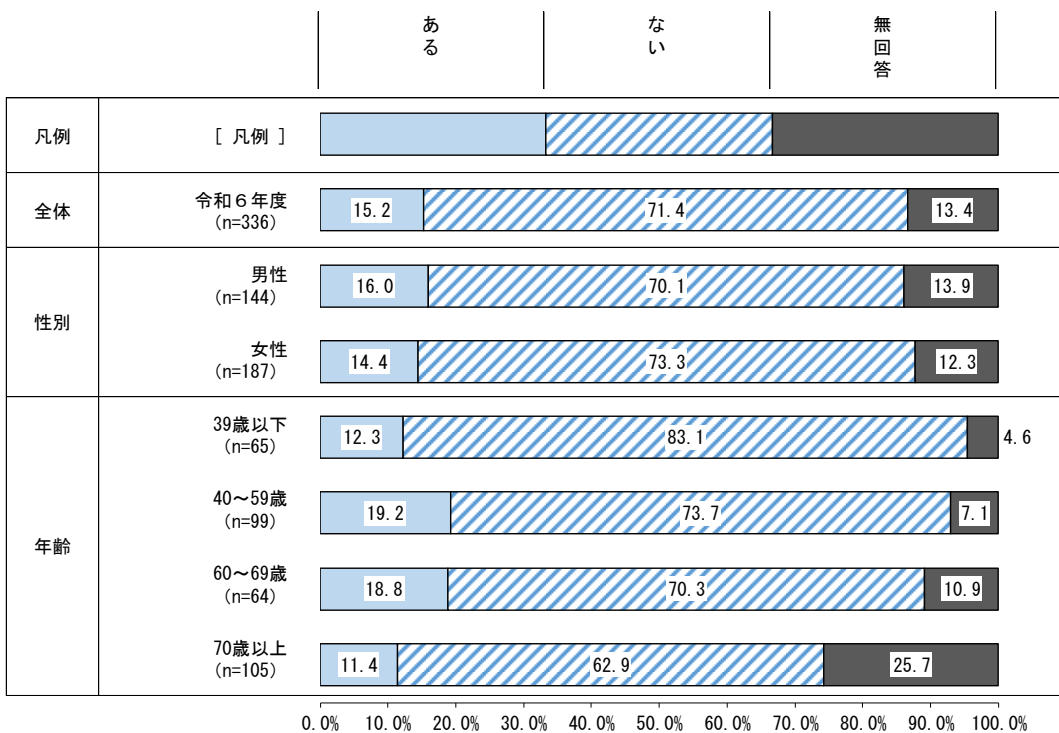
○ 40～59歳、70歳以上では、自分自身に「ある」が1割以上となっています。

○ 40～59歳、60～69歳では、まわりの人に「ある」が約2割となっています。

【おどす、ののしる、無視する等の精神的暴力（あなた自身）】



【おどす、ののしる、無視する等の精神的暴力（まわりの人）】



③ 性交渉を強要するなどの性暴力

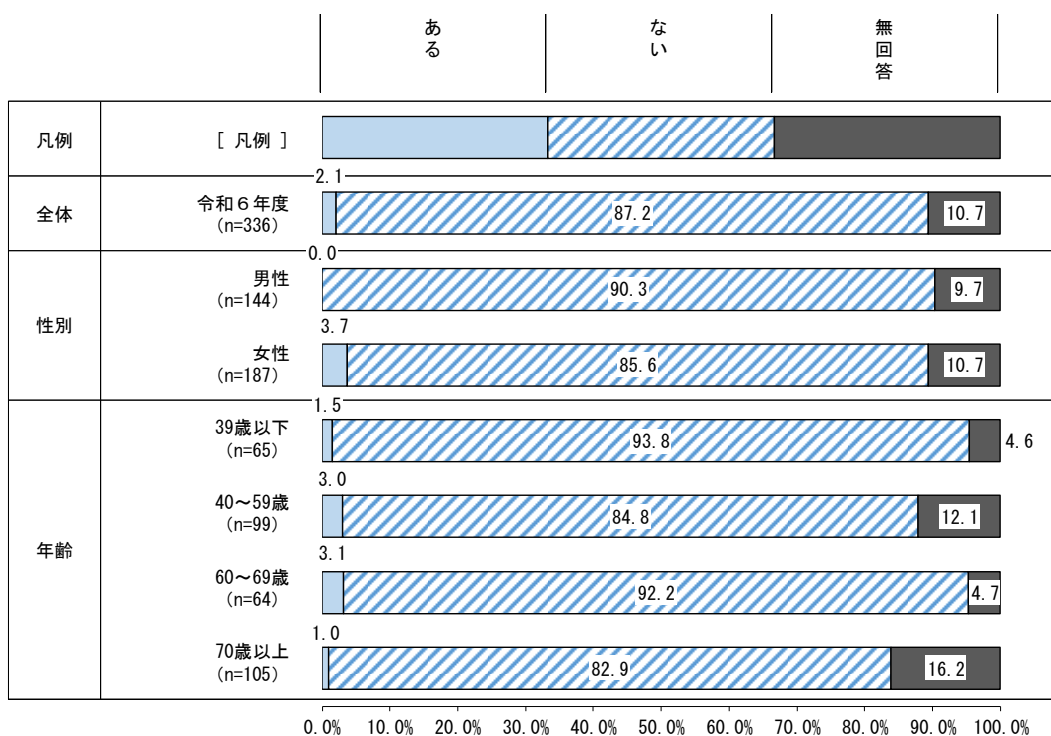
【全体】

○ 性交渉を強要するなどの性暴力について、「ある」は、自分自身では2.1%、まわりの人では3.6%となっています。

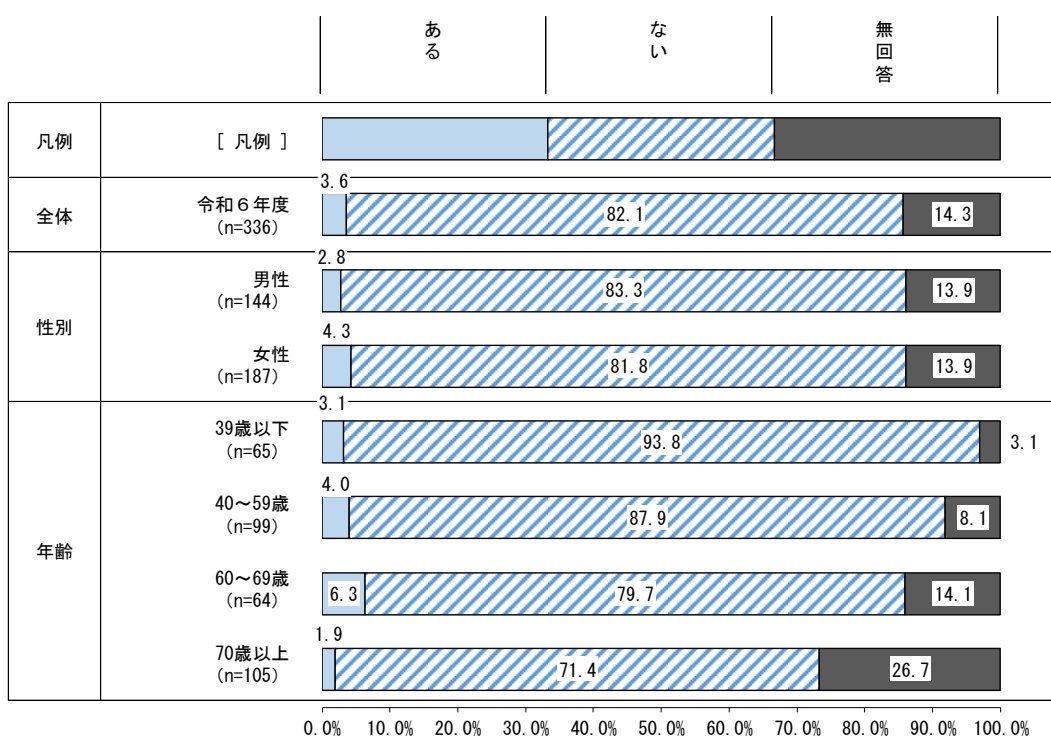
【性別】

○ 女性では、自分自身に「ある」が3.7%となっています。

【性交渉を強要するなどの性暴力（あなた自身）】



【性交渉を強要するなどの性暴力（まわりの人）】



④ 生活費を出さない、持っていく等の経済的暴力

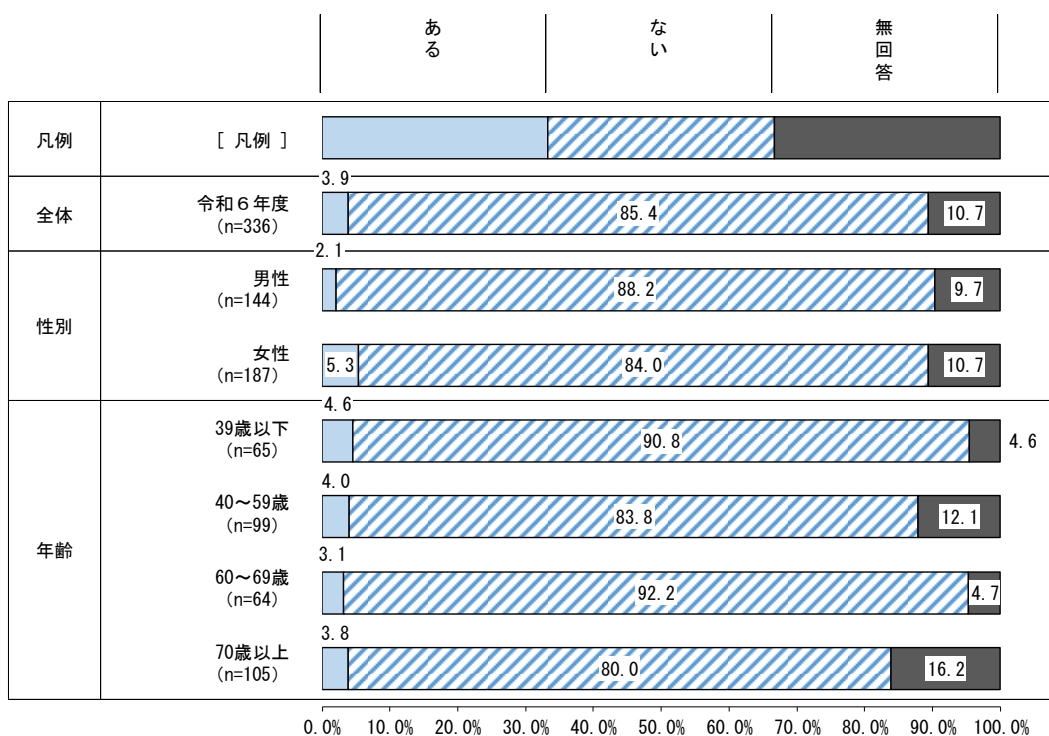
【全体】

○ 生活費を出さない、持っていく等の経済的暴力について、「ある」は、自分自身では3.9%、まわりの人では13.4%となっています。

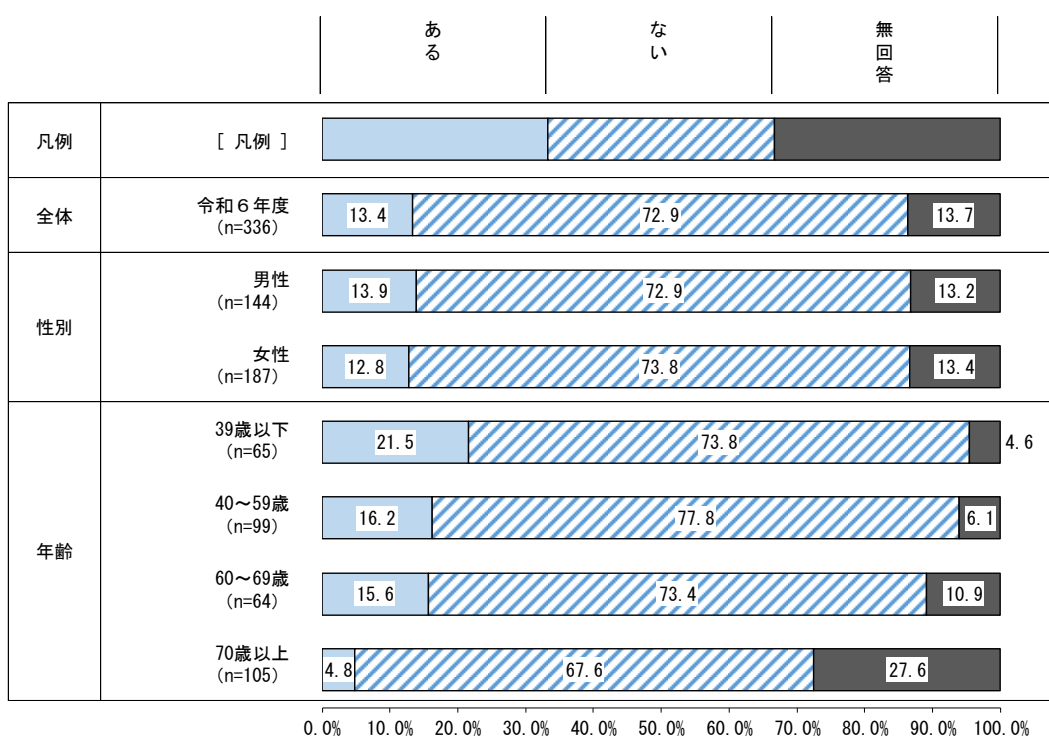
【年齢】

○ 39歳以下では、まわりの人に「ある」が21.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【生活費を出さない、持っていく等の経済的暴力（あなた自身）】



【生活費を出さない、持っていく等の経済的暴力（まわりの人）】

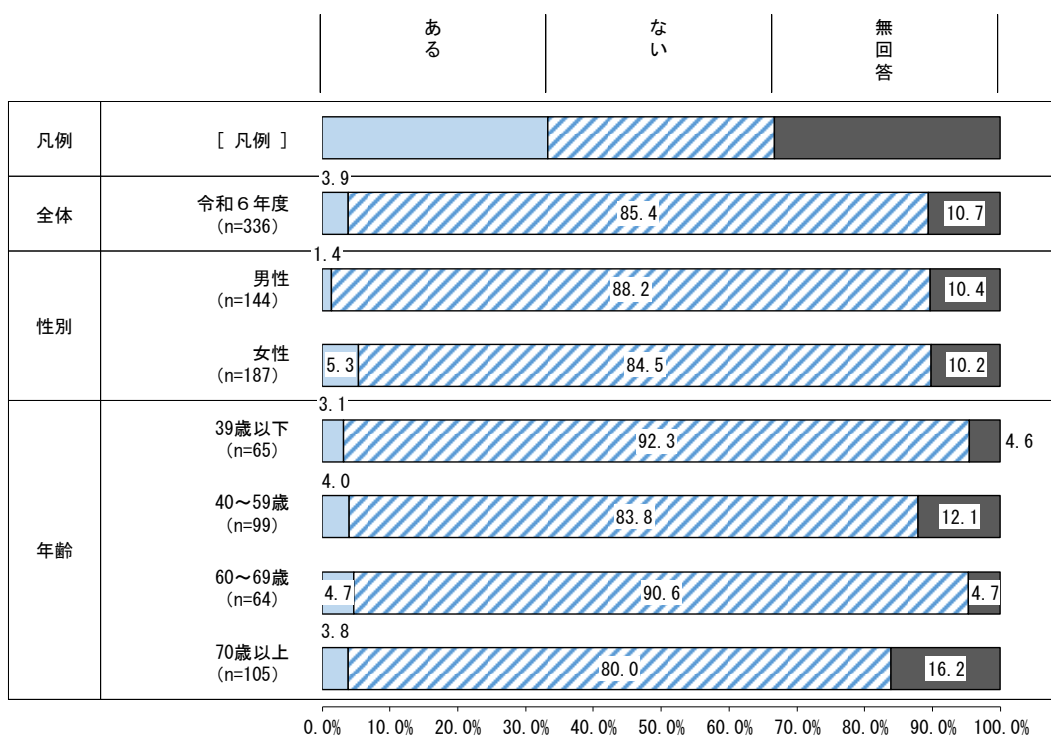


⑤ 外出や人との付き合いを制限する等の社会的暴力

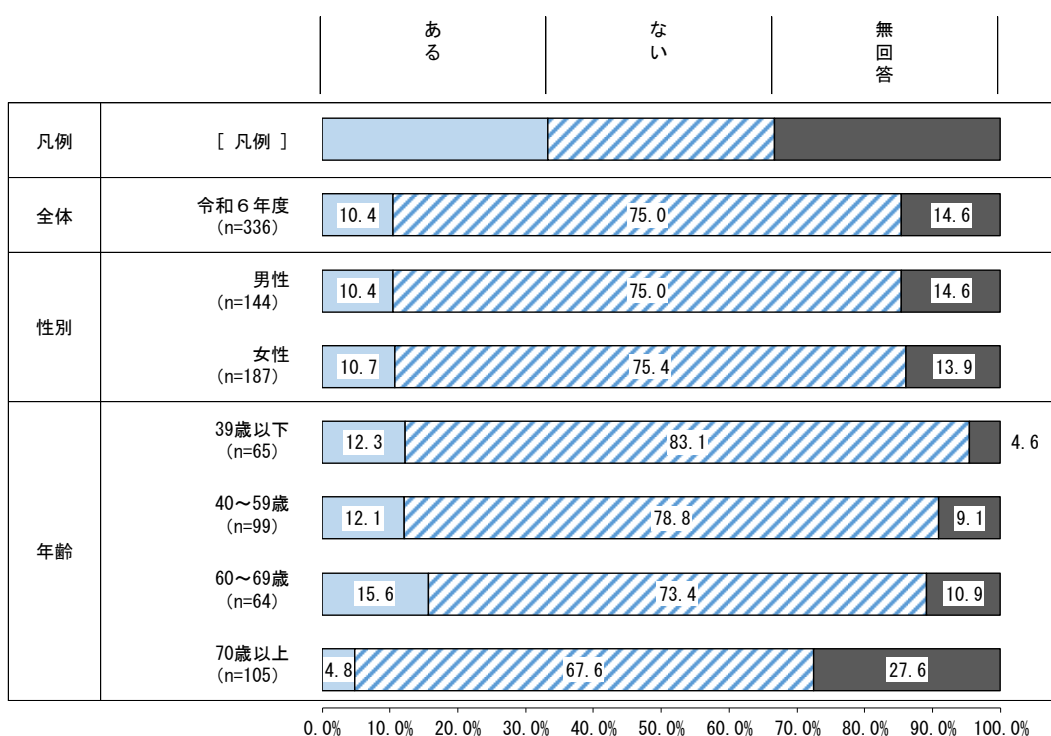
【全体】
 ○ 外出や人との付き合いを制限する等の社会的暴力について、「ある」は、自分自身では3.9%、まわりの人では10.4%となっています。

【年齢】
 ○ 39歳以下、40～59歳、60～69歳では、まわりの人に「ある」が1割以上となっています。

【外出や人との付き合いを制限する等の社会的暴力（あなた自身）】



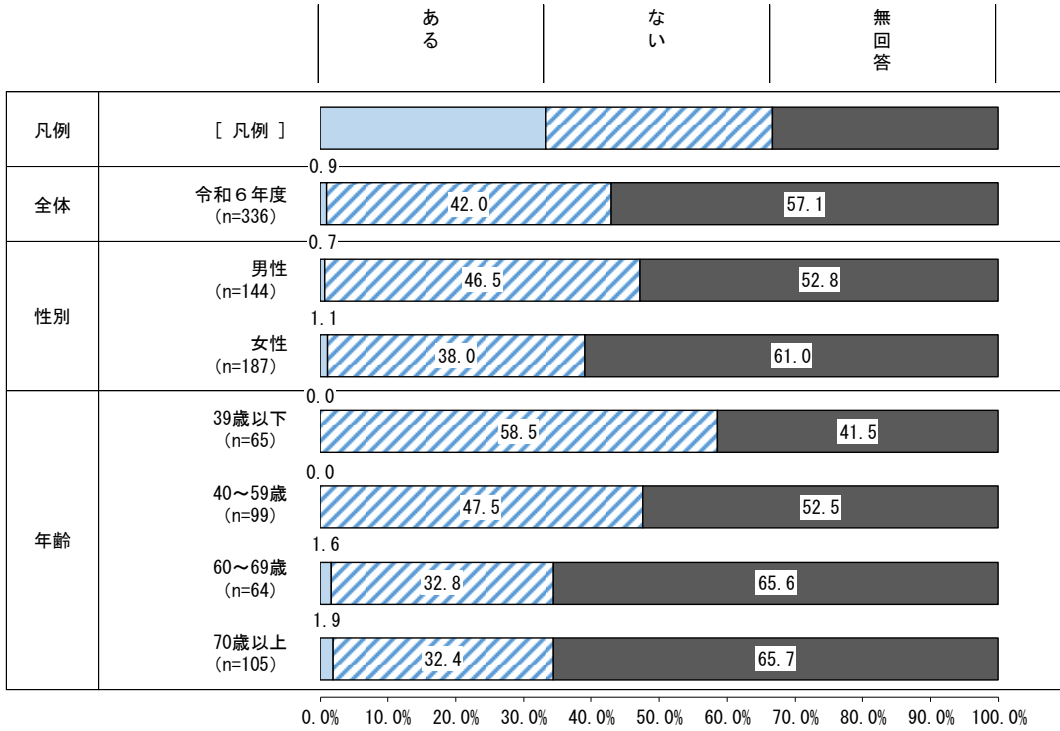
【外出や人との付き合いを制限する等の社会的暴力（まわりの人）】



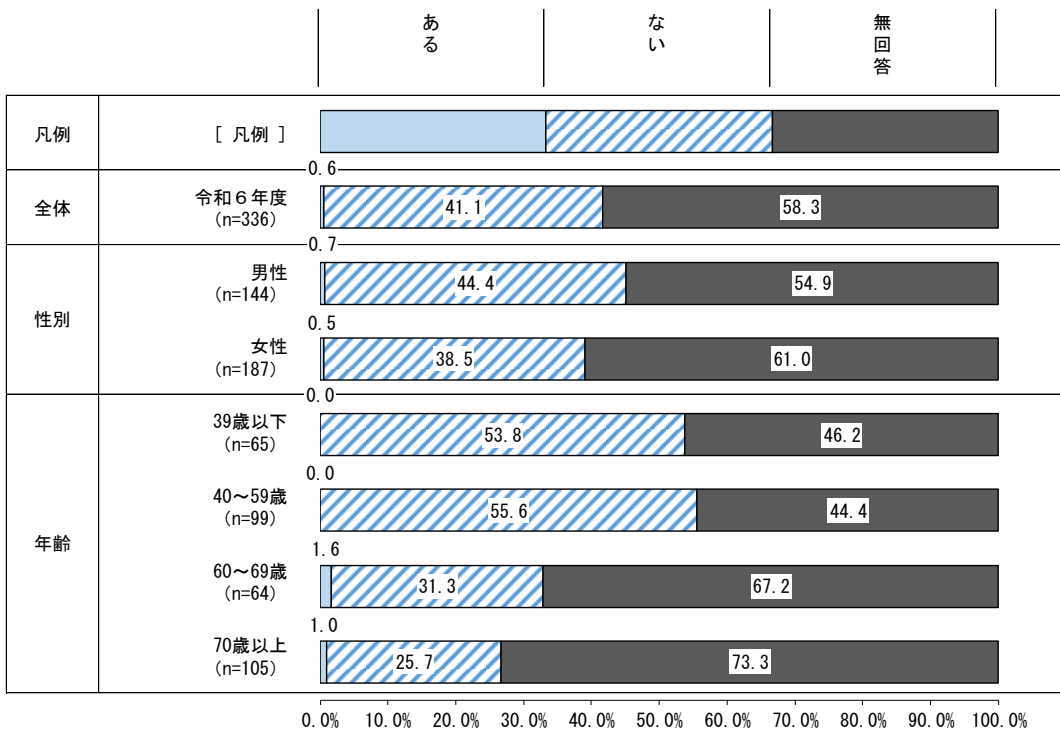
⑥ その他

【全体】
 ○ その他について、「ある」は、自分自身では0.9%、まわりの人では0.6%となっています。
 ○ その他の内容としては、「言葉の暴力」等が挙げられています。

【その他（あなた自身）】



【その他（まわりの人）】



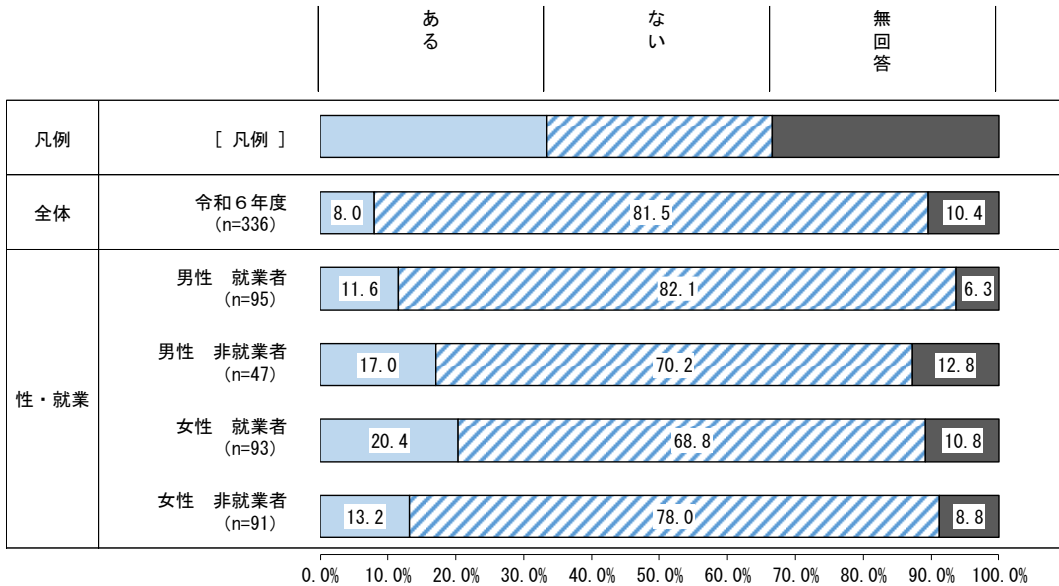
【性・就業】

○ 女性の非就業者では、何らかのDV被害にあったことが「ある」が13.2%となっています。

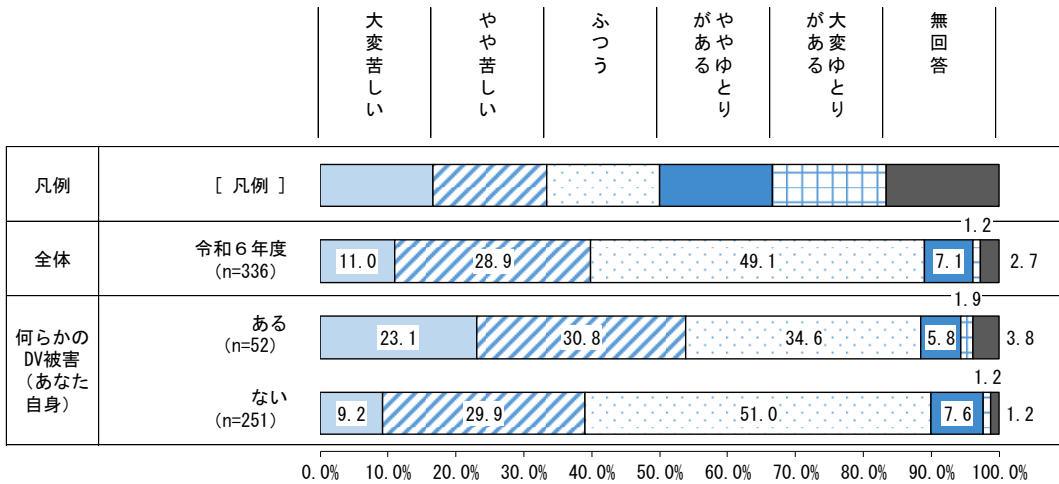
【経済状況】

○ 何らかのDV被害にあったことがある人では、「大変苦しい」が23.1%、「やや苦しい」が30.8%となっており、合わせると“苦しい”が53.9%となっています。

【何らかのDV被害（あなた自身）】



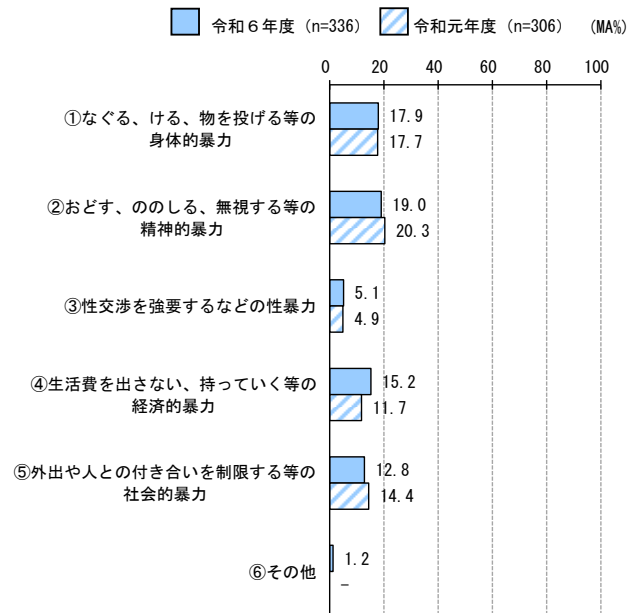
【経済状況】



【全体】

- 令和元年度調査と比べると、「④生活費を出さない、持っていく等の経済的暴力」が3.5ポイント多くなっています。

【あなた自身もしくはまわりの人がDV被害にあったことがある】



※令和元年度調査では、「自分自身が被害にあったことがある」「自分はないが自分の周りに被害にあった人がある」「自分や自分の周りに被害にあった人はいない」の3択となっており、「自分自身が被害にあったことがある」「自分はないが自分の周りに被害にあった人がある」の合計を記載しています。今回調査では、あなた自身とまわりの人いずれかでも「ある」と回答した人を計上しています。

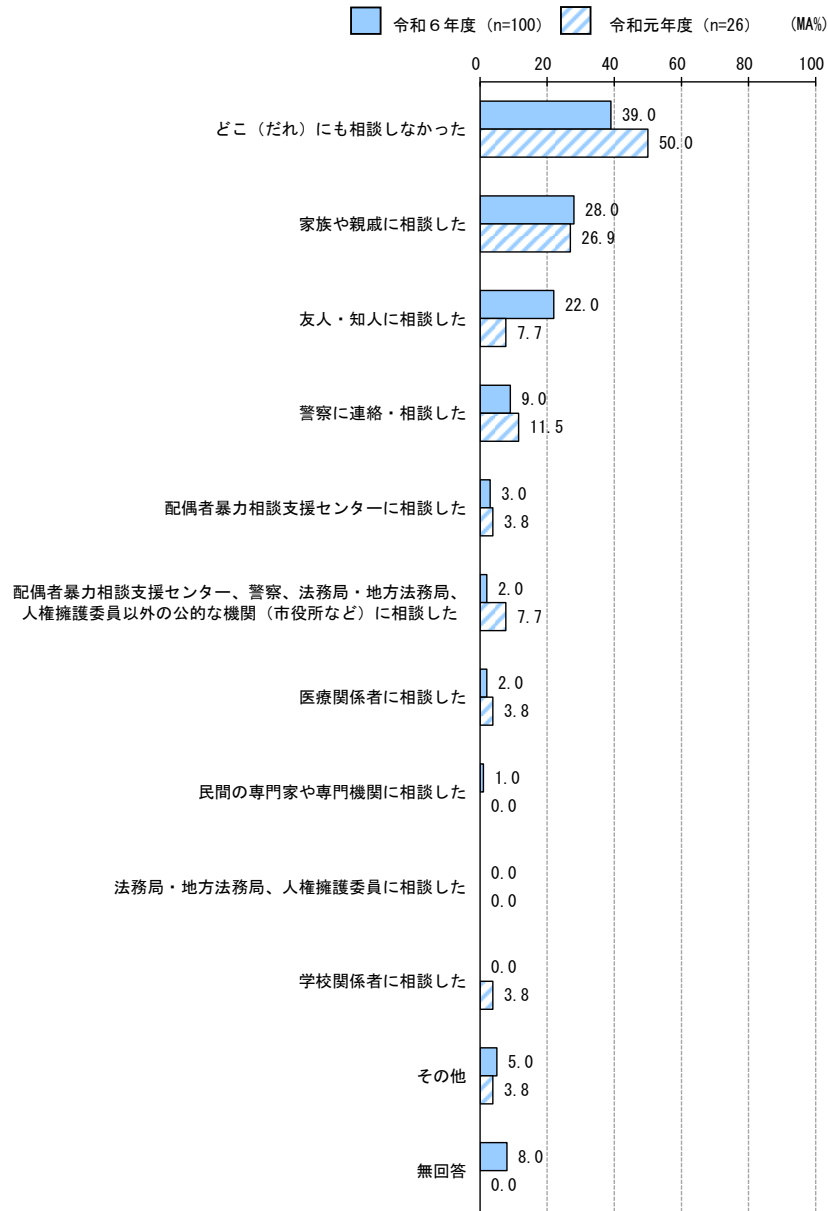
※「⑥その他」は今回調査から設問。

Q6-1-1 [6-1の①～⑥でいずれか1つでも「ある」と答えた方のみ] あなた自身やまわりの人が配偶者またはパートナーから暴力(DV)を受けたとき、あるいはその後、あなたはどのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

- DV被害にあったときの対応について、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が39.0%で最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が28.0%、「友人・知人に相談した」が22.0%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が少なく、「友人・知人に相談した」が多くなっています。

【DV被害にあったときの対応】



【どこ（だれ）にも相談しなかった理由】

理由（あなた自身）
簡単には相談できるところがない。育児・働いているため、時間がない。
恐かったから。
仕返しが怖い。
ふつうの夫婦ゲンカ。
相談することが思い浮かばなかった。
家庭の問題だから。

理由（まわりの人）
他人であるから。
けんかの時だけで一回だけあったと聞いたから、普段仲が良かったため。
他人だから。
会社で聞いただけなので。
50年以上昔。
昔のことなので。今だったら相談するかも。
こどもだったのでどうしようもなかった。
2人の問題。刺激すると危ない。
あとで生活費を出さないのもDVと知ったから。
知人が自分で相談したから話を聞いただけ。
こどもだったから怖かった。

理由（その他）
言えない、言語が出ない。
どうでもよくなっていたから。
相談することはないから。
ささいなこと。
知らなかったので我慢するしかなかった。
我慢すれば良いと思った。

【性別】

- 男性では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が46.2%と、女性の33.3%に比べて多くなっています。

【年齢】

- 40～59歳、70歳以上では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も多くなっています。

【性・就業】

- 女性の非就業者では、「家族や親戚に相談した」が42.9%で最も多く、次いで「友人・知人に相談した」「どこ（だれ）にも相談しなかった」が33.3%となっています。

単位：%

		母数 (n)	DV被害にあったときの対応(MA)					
			配偶者に暴力相談した	警察に連絡・相談した	権務局・地方に相談した	法的な相談機関(153)以外の公	民間の専門家や専門機関に相談した	医療関係者に相談した
全体		100	3.0	9.0	-	2.0	1.0	2.0
性別	男性	39	5.1	10.3	-	2.6	-	-
	女性	60	1.7	8.3	-	1.7	1.7	3.3
年齢	39歳以下	22	-	4.5	-	-	-	4.5
	40～59歳	34	5.9	8.8	-	2.9	2.9	2.9
	60～69歳	20	5.0	10.0	-	5.0	-	-
	70歳以上	24	-	12.5	-	-	-	-
性・就業	男性 就業者	27	7.4	11.1	-	3.7	-	-
	男性 非就業者	10	-	10.0	-	-	-	-
	女性 就業者	39	2.6	7.7	-	2.6	2.6	5.1
	女性 非就業者	21	-	9.5	-	-	-	-

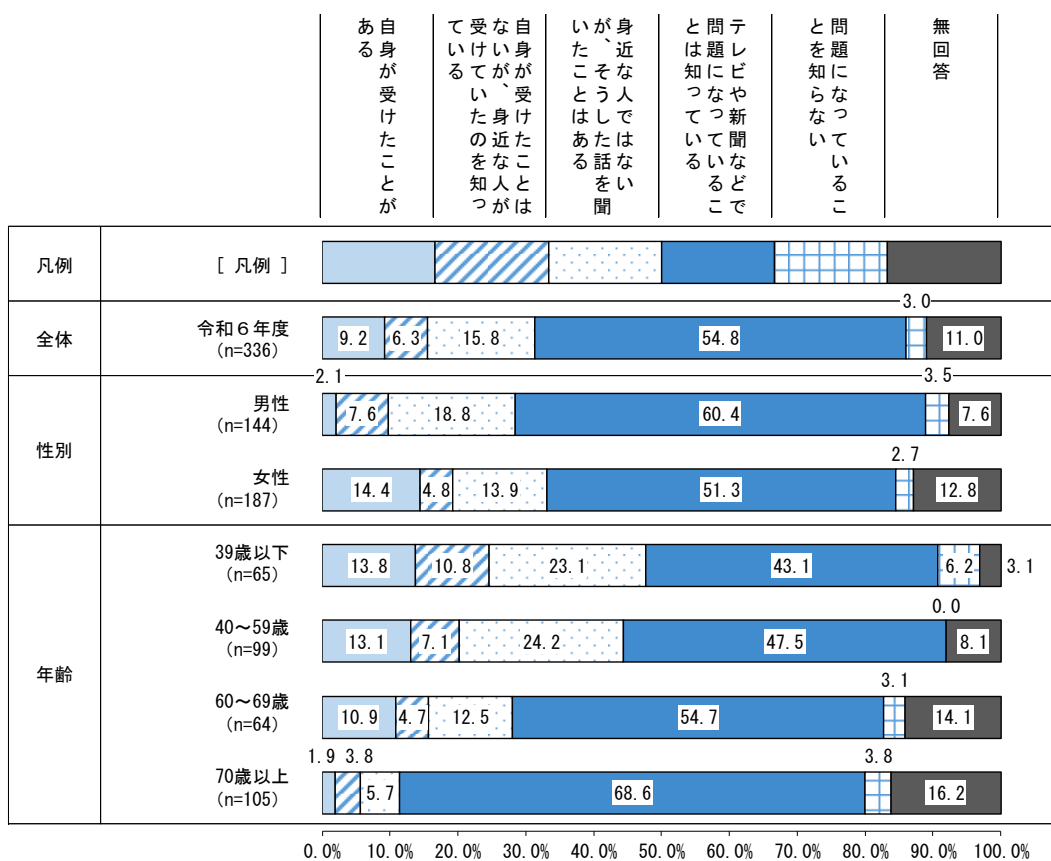
単位：%

		母数 (n)	DV被害にあったときの対応(MA)					
			学校関係者に相談した	家族や親戚に相談した	友人・知人に相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
全体		100	-	28.0	22.0	5.0	39.0	8.0
性別	男性	39	-	17.9	15.4	10.3	46.2	10.3
	女性	60	-	35.0	26.7	1.7	33.3	6.7
年齢	39歳以下	22	-	40.9	22.7	4.5	31.8	4.5
	40～59歳	34	-	17.6	26.5	2.9	50.0	8.8
	60～69歳	20	-	30.0	20.0	10.0	25.0	10.0
	70歳以上	24	-	29.2	16.7	4.2	41.7	8.3
性・就業	男性 就業者	27	-	22.2	18.5	7.4	44.4	11.1
	男性 非就業者	10	-	10.0	10.0	20.0	40.0	10.0
	女性 就業者	39	-	30.8	23.1	2.6	33.3	10.3
	女性 非就業者	21	-	42.9	33.3	-	33.3	-

Q6-2 あなたは、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。また、あなたのまわりでそのような被害にあった人はいますか。（○は1つ）

- 【全体】**
 ○ セクハラ被害について、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が54.8%で最も多く、次いで「身近な人ではないが、そうした話を聞いたことはある」が15.8%、「自身が受けたことがある」が9.2%となっています。
- 【性別】**
 ○ 女性では、「自身が受けたことがある」が14.4%となっています。
- 【年齢】**
 ○ 39歳以下、40～59歳、60歳以上では、「自身が受けたことがある」が1割以上となっています。また、年齢が下がるにつれて身近になる傾向が見られます。

【セクハラ被害】



※令和元年度調査…「セクシャルハラスメントを受けたことがある」6.2%、「経験したり、見聞きしたことはない」16.3%

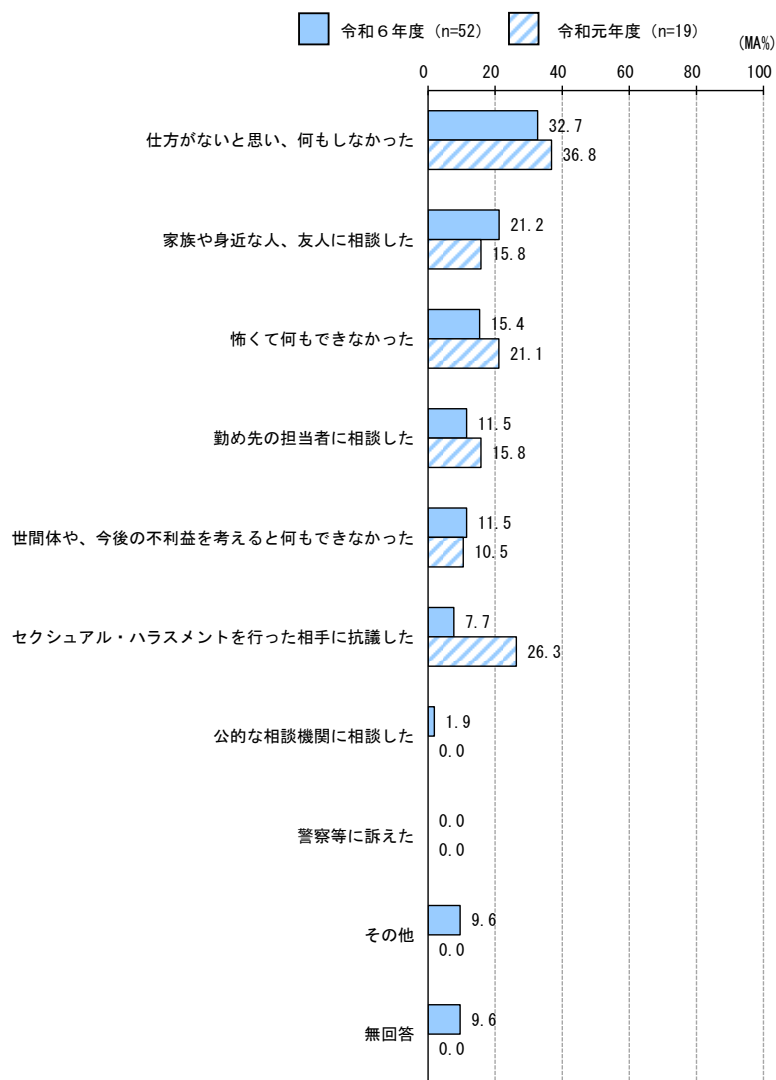
(いくつでも選択可としていたため比較対象としていません。)

Q6-2-1 [6-2で「自身が受けたことがある」「自身が受けたことはないが、身近な人が受けていたのを知っていると答えた方のみ] あなた自身やまわりの人がセクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、あなたはどのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

- セクハラ被害にあったときの対応について、「仕方がないと思い、何もしなかった」が32.7%で最も多く、次いで「家族や身近な人、友人に相談した」が21.2%、「怖くて何もできなかった」が15.4%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「怖くて何もできなかった」「セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した」が少なく、「家族や身近な人、友人に相談した」が多くなっています。

【セクハラ被害にあったときの対応】



※令和元年度調査では自身がセクハラ被害にあった人のみが回答の対象。

【性別】

- 男性では、「怖くて何もできなかった」が28.6%で最も多く、次いで「仕方がないと思い、何もしなかった」「その他」が21.4%となっています。
- 女性では、「仕方がないと思い、何もしなかった」が36.1%で最も多く、次いで「家族や身近な人、友人に相談した」が25.0%となっています。

単位：%

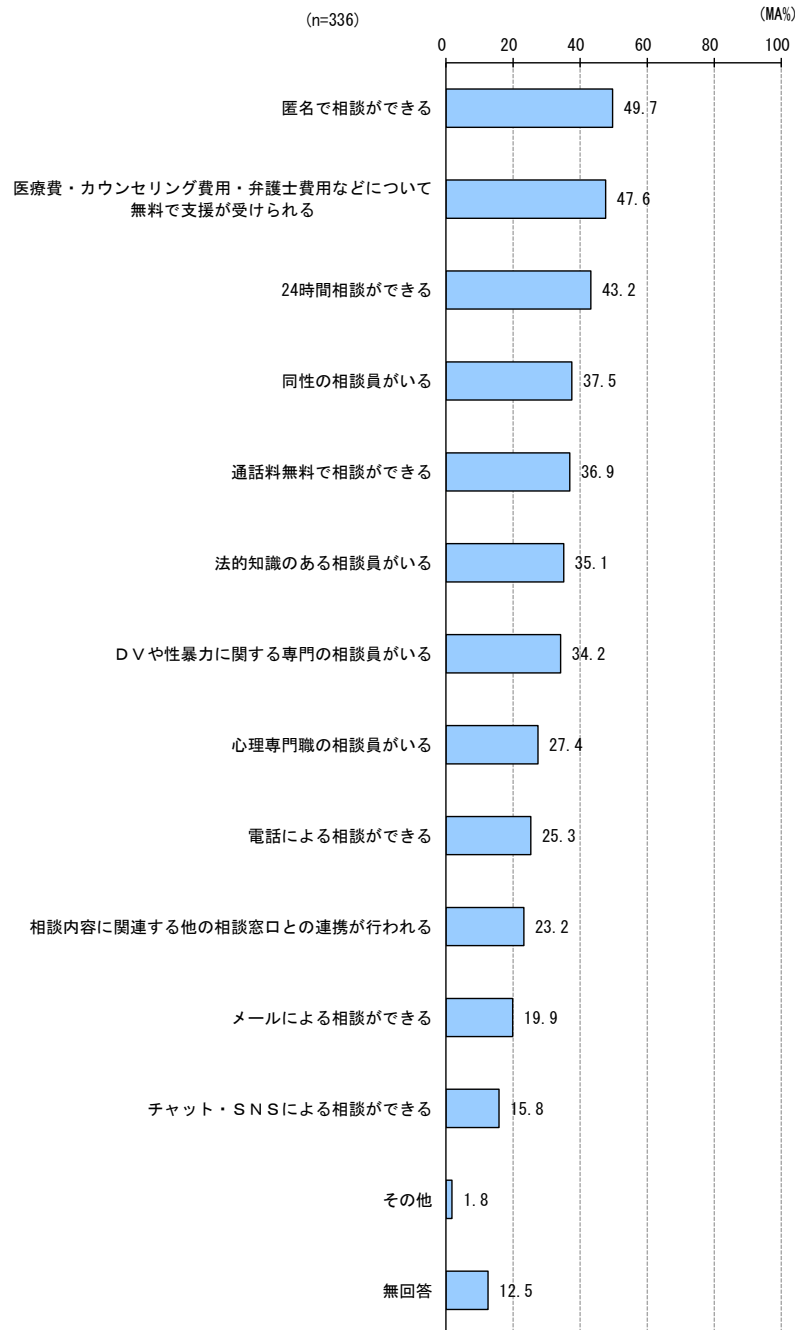
		母数 (n)	セクハラ被害にあったときの対応 (MA)									
			した セク トシ ユア ル 相 手 に 抗 ス メ	家 族 や 身 近 な 人 、 友 人 に 相 談 し た	公 的 な 相 談 機 関 に 相 談 し た	勤 め 先 の 担 当 者 に 相 談 し た	警 察 等 に 訴 え た	仕 方 が な い と 思 い 、 何 も し な か つ た	怖 く て 何 も で き な か つ た	世 間 体 や 、 今 後 の 不 利 益 を 考 え る と 何 も で き な か つ た	そ の 他	無 回 答
全体		52	7.7	21.2	1.9	11.5	-	32.7	15.4	11.5	9.6	9.6
性別	男性	14	7.1	14.3	7.1	-	-	21.4	28.6	14.3	21.4	14.3
	女性	36	8.3	25.0	-	16.7	-	36.1	11.1	11.1	5.6	5.6
年齢	39歳以下	16	6.3	12.5	-	25.0	-	31.3	12.5	12.5	12.5	12.5
	40～59歳	20	5.0	20.0	-	-	-	40.0	25.0	15.0	10.0	5.0
	60～69歳	10	20.0	30.0	-	20.0	-	30.0	-	-	10.0	10.0
	70歳以上	6	-	33.3	16.7	-	-	16.7	16.7	16.7	-	16.7

Q6-3 あなたが、DVや性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどの暴力や悩みなどに関する相談窓口において配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 相談窓口で配慮してほしいことについて、「匿名で相談ができる」が49.7%で最も多く、次いで「医療費・カウンセリング費用・弁護士費用などについて無料で支援が受けられる」が47.6%、「24時間相談ができる」が43.2%となっています。

【相談窓口で配慮してほしいこと】



【性別】

- 女性では、「24時間相談ができる」「同性の相談員がいる」「匿名で相談ができる」「心理専門職の相談員がいる」が男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下、40～59歳、60～69歳では、「匿名で相談ができる」が約6割となっています。
- 39歳以下、40～59歳では、「メールによる相談ができる」「チャット・SNSによる相談ができる」が他の年齢層に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	相談窓口で配慮してほしいこと(MA)							
		メールによる相談ができる	チャット・SNSによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料無料で相談ができる	24時間相談ができる	らつ費医 れい・費 る無弁・カ 料護士費 で士用セ 支援用 がなリン 受どけにグ	る相 談窓 口に の関 連携 する 行他 の	
全体	336	19.9	15.8	25.3	36.9	43.2	47.6	23.2	
性別	男性	144	22.2	16.0	25.7	36.1	37.5	47.2	26.4
	女性	187	18.7	16.0	25.7	38.0	48.1	48.7	21.4
年齢	39歳以下	65	24.6	36.9	18.5	41.5	43.1	52.3	23.1
	40～59歳	99	26.3	21.2	28.3	35.4	53.5	48.5	28.3
	60～69歳	64	15.6	6.3	21.9	37.5	39.1	53.1	28.1
	70歳以上	105	14.3	3.8	28.6	35.2	36.2	41.0	15.2

単位：%

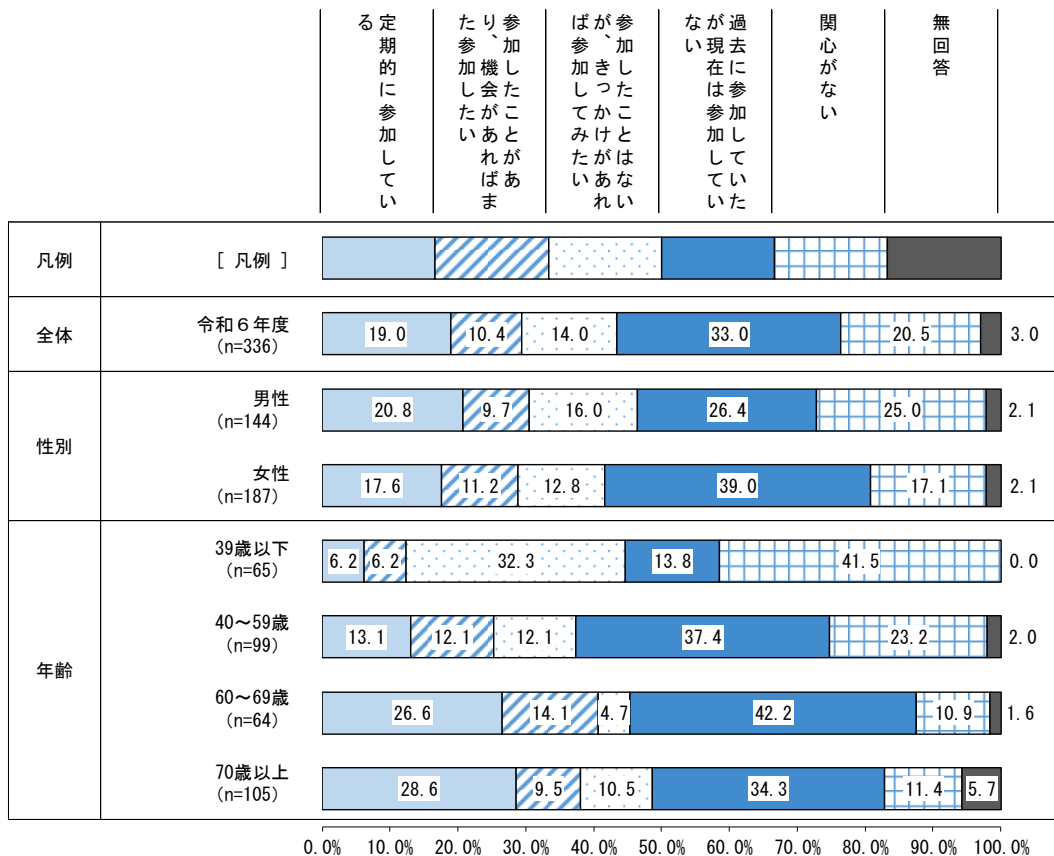
	母数 (n)	相談窓口で配慮してほしいこと(MA)						無回答	
		同性の相談員がいる	匿名で相談ができる	法的知識のある相談員がいる	心理専門職の相談員がいる	DVや性暴力に関する専門相談員がいる	その他		
全体	336	37.5	49.7	35.1	27.4	34.2	1.8	12.5	
性別	男性	144	29.9	41.7	33.3	18.8	32.6	3.5	10.4
	女性	187	43.9	56.7	37.4	33.7	36.4	0.5	12.8
年齢	39歳以下	65	49.2	56.9	35.4	27.7	32.3	4.6	1.5
	40～59歳	99	34.3	55.6	46.5	34.3	35.4	1.0	9.1
	60～69歳	64	48.4	57.8	35.9	34.4	46.9	1.6	7.8
	70歳以上	105	26.7	36.2	24.8	16.2	25.7	1.0	24.8

(7) 地域活動について

Q7-1 あなたは、お住まいの地区の自治会やコミュニティ組織などによる「地域活動」（自治会・PTA活動、趣味等のグループ活動、社会福祉に関する活動、子ども会などの青少年育成活動、交通安全に関する活動など）に参加されたことがありますか。（○は1つ）

- 【全体】**
 ○ 地域活動への参加状況について、「過去に参加していたが現在は参加していない」が33.0%で最も多く、次いで「関心がない」が20.5%、「定期的に参加している」が19.0%となっています。
- 【性別】**
 ○ 男性では、「関心がない」が25.0%と、女性の17.1%に比べて多くなっています。一方、女性では、「過去に参加していたが現在は参加していない」が39.0%となっています。
- 【年齢】**
 ○ 39歳以下では、「関心がない」が41.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 ○ 60～69歳、70歳以上では、「定期的に参加している」が約3割と他の年齢層に比べて多くなっています。

【地域活動への参加状況】



【就業状況】

○ 就業者では、「過去に参加していたが現在は参加していない」が35.1%となっています。

【一番下のこどもの年齢】

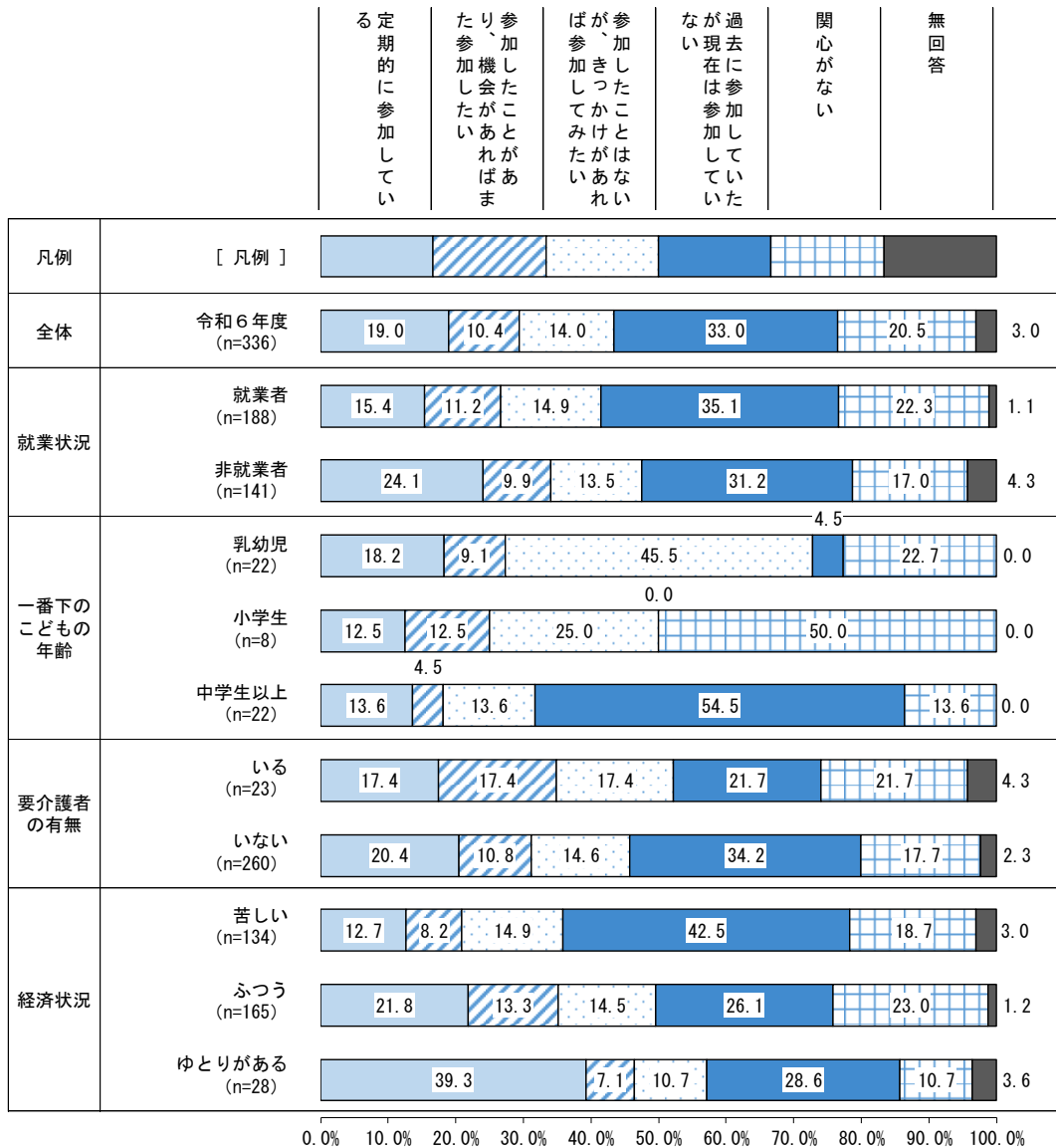
○ 乳幼児がいる人では、「参加したことはないが、きっかけがあれば参加してみたい」が45.5%となっています。

○ 中学生以上のこどもがいる人では、「過去に参加していたが現在は参加していない」が54.5%となっています。

【経済状況】

○ 経済状況が苦しい人では、「過去に参加していたが現在は参加していない」が42.5%となっています。

【地域活動への参加状況】



Q7-2 あなたが現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとするとき、何か障害になることがありますか。（〇はいくつでも）

【全体】

- 地域活動に参加する上での障害について、「仕事が忙しく、時間がない」が30.7%で最も多く、次いで「特にない」が21.7%、「自分の健康や体力に自信がない」が21.4%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が多く、「自分の健康や体力に自信がない」が少なくなっています。

【地域活動に参加する上での障害】



【性別】

- 男性では、「仕事が忙しく、時間がない」が36.8%と、女性の26.7%に比べて多くなっています。
- 女性では、「仕事が忙しく、時間がない」に次いで「自分の健康や体力に自信がない」が23.5%と多くなっています。また、「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」が15.5%と男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「仕事が忙しく、時間がない」が56.9%で最も多く、次いで「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が38.5%、「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」が27.7%と、いずれも他の年齢層に比べても多くなっています。また、「こどもの世話を頼めるところがない」が16.9%となっています。
- 「自分の健康や体力に自信がない」は、60～69歳では23.4%、70歳以上では39.0%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、60～69歳、70歳以上では、「特にない」が2番目に多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	地域活動に参加する上での障害(MA)						
			仕事が忙しく、時間がない	家事・育児・介護が忙しく、時間がない	こどもの世話を頼めるところがない	親や病気の人がいない	自分の健康や体力に自信がない	知らないグループや団体をし	身所がないところに活動する
全体		336	30.7	11.6	4.5	3.3	21.4	20.5	7.4
性別	男性	144	36.8	6.9	4.2	2.1	18.8	17.4	9.0
	女性	187	26.7	15.5	4.8	4.3	23.5	23.0	6.4
年齢	39歳以下	65	56.9	27.7	16.9	3.1	7.7	38.5	9.2
	40～59歳	99	39.4	13.1	3.0	6.1	10.1	21.2	4.0
	60～69歳	64	28.1	10.9	-	4.7	23.4	15.6	7.8
	70歳以上	105	8.6	1.0	1.0	-	39.0	12.4	9.5

単位：%

		母数 (n)	地域活動に参加する上での障害(MA)					無回答
			経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	その他	特にない	
全体		336	13.7	1.2	1.2	3.9	21.7	6.5
性別	男性	144	13.9	2.1	2.1	4.9	20.8	5.6
	女性	187	13.4	0.5	0.5	3.2	22.5	6.4
年齢	39歳以下	65	15.4	1.5	1.5	3.1	16.9	1.5
	40～59歳	99	18.2	1.0	3.0	6.1	18.2	5.1
	60～69歳	64	14.1	1.6	-	3.1	23.4	4.7
	70歳以上	105	8.6	1.0	-	2.9	26.7	11.4

【就業状況】

- 就業者では、「仕事が忙しく、時間がない」が49.5%で最も多くなっています。また、「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」「経済的な余裕がない」が非就業者に比べて多くなっています。

【一番下の子ども年齢】

- 乳幼児がいる人では、「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」が72.7%で最も多く、次いで「仕事が忙しく、時間がない」が50.0%となっています。また、「こどもの世話を頼めるところがない」が31.8%となっています。一方、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が40.9%となっています。

【要介護者の有無】

- 要介護者がいる人では、「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」が39.1%で最も多く、次いで「仕事が忙しく、時間がない」が30.4%となっています。また、「親や病人の介護を頼めるところがない」が26.1%となっています。一方、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が26.1%となっています。

【経済状況】

- 経済状況が苦しい人では、「自分の健康や体力に自信がない」が27.6%で最も多く、次いで「仕事が忙しく、時間がない」「経済的な余裕がない」が26.1%となっています。

単位：%

	母数 (n)	地域活動に参加する上での障害(MA)							
		仕事が忙しく、 時間がない	家事・育児・ 介護が忙しく、 時間がない	こどもの世話を 頼めるところがない	親や病人の介護を 頼めるところがない	自分の健康や体力に 自信がない	知っているグループや 活動をしていない	身近なところに活動する 場所がない	
全体	336	30.7	11.6	4.5	3.3	21.4	20.5	7.4	
就業状況	就業者	188	49.5	16.0	5.3	3.7	14.4	21.3	6.9
	非就業者	141	6.4	5.7	3.5	2.8	31.2	19.9	8.5
一番下の 子どもの 年齢	乳幼児	22	50.0	72.7	31.8	-	9.1	40.9	4.5
	小学生	8	75.0	12.5	12.5	-	-	12.5	12.5
	中学生以上	22	36.4	18.2	4.5	4.5	18.2	27.3	4.5
要介護者 の有無	いる	23	30.4	39.1	4.3	26.1	17.4	26.1	4.3
	いない	260	30.0	11.2	5.0	1.5	20.8	20.4	7.3
経済状況	苦しい	134	26.1	11.2	3.7	3.0	27.6	19.4	7.5
	ふつう	165	36.4	12.7	5.5	4.2	17.0	20.6	7.9
	ゆとりがある	28	28.6	3.6	3.6	-	17.9	25.0	7.1

単位：%

	母数 (n)	地域活動に参加する上での障害(MA)						
		経済的な 余裕がない	家族の 理解が 得られない	職場の 上司や 同僚の 理解 が得られない	その他	特 に ない	無 回 答	
全体	336	13.7	1.2	1.2	3.9	21.7	6.5	
就業状況	就業者	188	17.0	1.1	2.1	4.3	19.1	3.7
	非就業者	141	7.8	1.4	-	3.5	25.5	9.2
一番下の 子どもの 年齢	乳幼児	22	13.6	4.5	4.5	-	9.1	-
	小学生	8	12.5	-	-	12.5	12.5	-
	中学生以上	22	9.1	-	4.5	-	22.7	-
要介護者 の有無	いる	23	21.7	4.3	4.3	-	17.4	-
	いない	260	10.8	0.8	1.2	3.5	24.2	5.8
経済状況	苦しい	134	26.1	1.5	2.2	3.7	20.9	6.7
	ふつう	165	4.8	1.2	0.6	4.2	21.8	5.5
	ゆとりがある	28	3.6	-	-	3.6	25.0	10.7

【地域活動への参加状況】

- 参加したことはないが、きっかけがあれば参加してみたい人では、「仕事が忙しく、時間がない」が46.8%で最も多く、次いで「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が40.4%となっています。
- 過去に参加していたが現在は参加していない人では、「自分の健康や体力に自信がない」が31.5%で最も多くなっています。
- 関心がない人では、「仕事が忙しく、時間がない」が44.9%で最も多く、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が23.2%となっています。

単位：%

		母数 (n)	地域活動に参加する上での障害(MA)						
			い仕事 が忙しく、 時間がない	く家事・ 時間・育児・ 介護がない	こども の世話を 頼めると	と親や 病人の 介護を 頼める	が自 分の 健康 や 体力 に 自信	知ら ない の グ ル ー プ や 団 体 を し	自 分の や り たい 活 動 を し
全体		336	30.7	11.6	4.5	3.3	21.4	20.5	7.4
地域活動 への 参加状況	定期的に参加している	64	15.6	6.3	4.7	-	28.1	12.5	3.1
	参加したことがあり、機会があればまた参加したい	35	31.4	14.3	8.6	2.9	14.3	20.0	8.6
	参加したことはないが、きっかけがあれば参加してみたい	47	46.8	25.5	10.6	6.4	12.8	40.4	14.9
	過去に参加していたが現在は参加していない	111	26.1	7.2	0.9	2.7	31.5	17.1	8.1
	関心がない	69	44.9	13.0	4.3	5.8	11.6	23.2	5.8

単位：%

		母数 (n)	地域活動に参加する上での障害(MA)					無 回 答
			経 済 的 な 余 裕 が な い	家 族 の 理 解 が 得 ら れ な い	が 職 場 の 上 司 や 同 僚 の 理 解	そ の 他	特 に な い	
全体		336	13.7	1.2	1.2	3.9	21.7	6.5
地域活動 への 参加状況	定期的に参加している	64	10.9	1.6	1.6	1.6	29.7	10.9
	参加したことがあり、機会があればまた参加したい	35	5.7	2.9	-	2.9	28.6	2.9
	参加したことはないが、きっかけがあれば参加してみたい	47	21.3	4.3	4.3	2.1	10.6	-
	過去に参加していたが現在は参加していない	111	15.3	-	0.9	4.5	24.3	2.7
	関心がない	69	14.5	-	-	7.2	15.9	4.3

Q7-3 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。この主な理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)

【全体】

- 地域活動において女性が役職につくことが少ない理由について、「自治会長などの役職につくのは男性であるべきという固定観念があるから」が53.0%で最も多く、次いで「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」が44.3%、「活動時間帯が女性に合っていないから」が25.0%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「活動時間帯が女性に合っていないから」が6.0ポイント多く、「自治会長などの役職につくのは男性であるべきという固定観念があるから」が5.5ポイント少なくなっています。

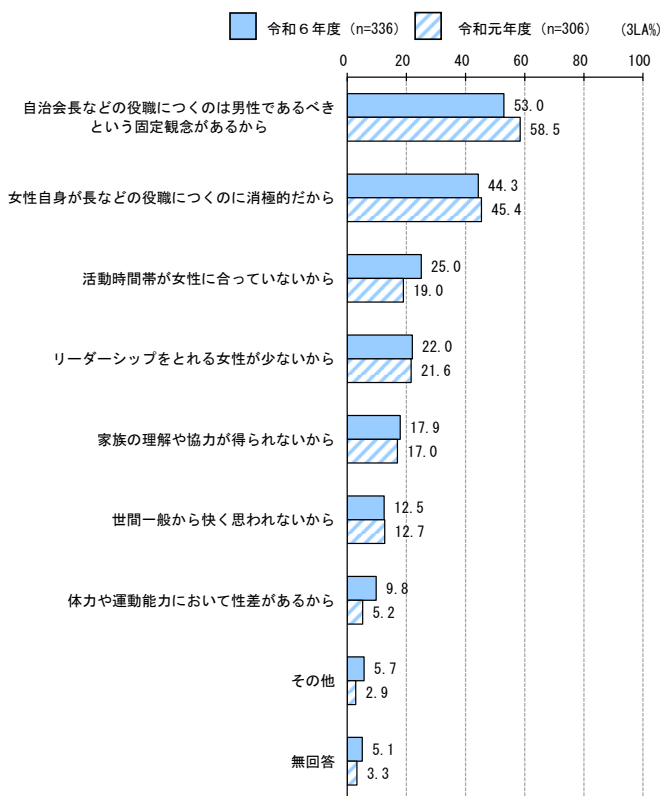
【性別】

- 女性では、「自治会長などの役職につくのは男性であるべきという固定観念があるから」54.5%、「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」42.8%に次いで、「活動時間帯が女性に合っていないから」が29.9%となっています。

【年齢】

- 「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」は、60～69歳、70歳以上で5割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。

【地域活動において女性が役職につくことが少ない理由】



単位：%

	母数 (n)	地域活動において女性が役職につくことが少ない理由 (3LA)								
		女性自身が長などの役職につくのに消極的だから	家族の理解や協力が得られないから	自治会長などの役職につくのは男性であるべきという固定観念があるから	体力や運動能力において性差があるから	活動時間帯が女性に合っていないから	リーダーシップをとれる女性が少ないから	世間一般から快く思われないから	その他	無回答
全体	336	44.3	17.9	53.0	9.8	25.0	22.0	12.5	5.7	5.1
性別	男性	47.9	22.2	51.4	7.6	18.1	23.6	4.9	9.0	5.6
	女性	42.8	15.0	54.5	11.8	29.9	20.9	18.2	2.7	3.7
年齢	39歳以下	33.8	18.5	55.4	10.8	32.3	16.9	16.9	12.3	3.1
	40～59歳	40.4	18.2	55.6	8.1	21.2	22.2	13.1	6.1	4.0
	60～69歳	51.6	18.8	53.1	7.8	29.7	15.6	14.1	6.3	3.1
	70歳以上	50.5	17.1	48.6	12.4	21.9	28.6	8.6	1.0	7.6

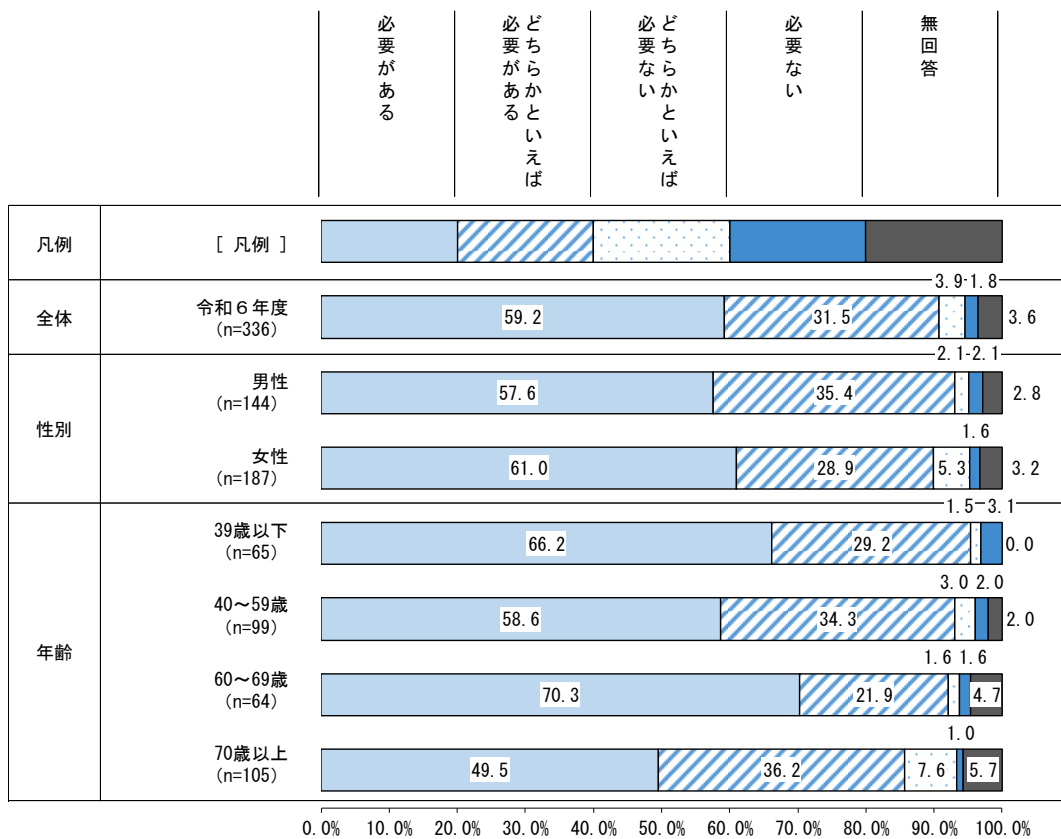
(8) 防災・災害復興対策について

Q8-1 防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した対応が必要だと思いますか。(〇は1つ)

【全体】
 ○ 防災・災害対策における性別・多様性への配慮の必要性について、「必要がある」が59.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば必要がある」が31.5%、「どちらかといえば必要ない」が3.9%となっています。「必要がある」「どちらかといえば必要がある」を合わせた“必要がある”は90.7%となっています。

【年齢】
 ○ 39歳以下、60～69歳では、「必要がある」が約7割と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、70歳以上では、「必要がある」が49.5%と他の年齢層に比べて少なくなっています。

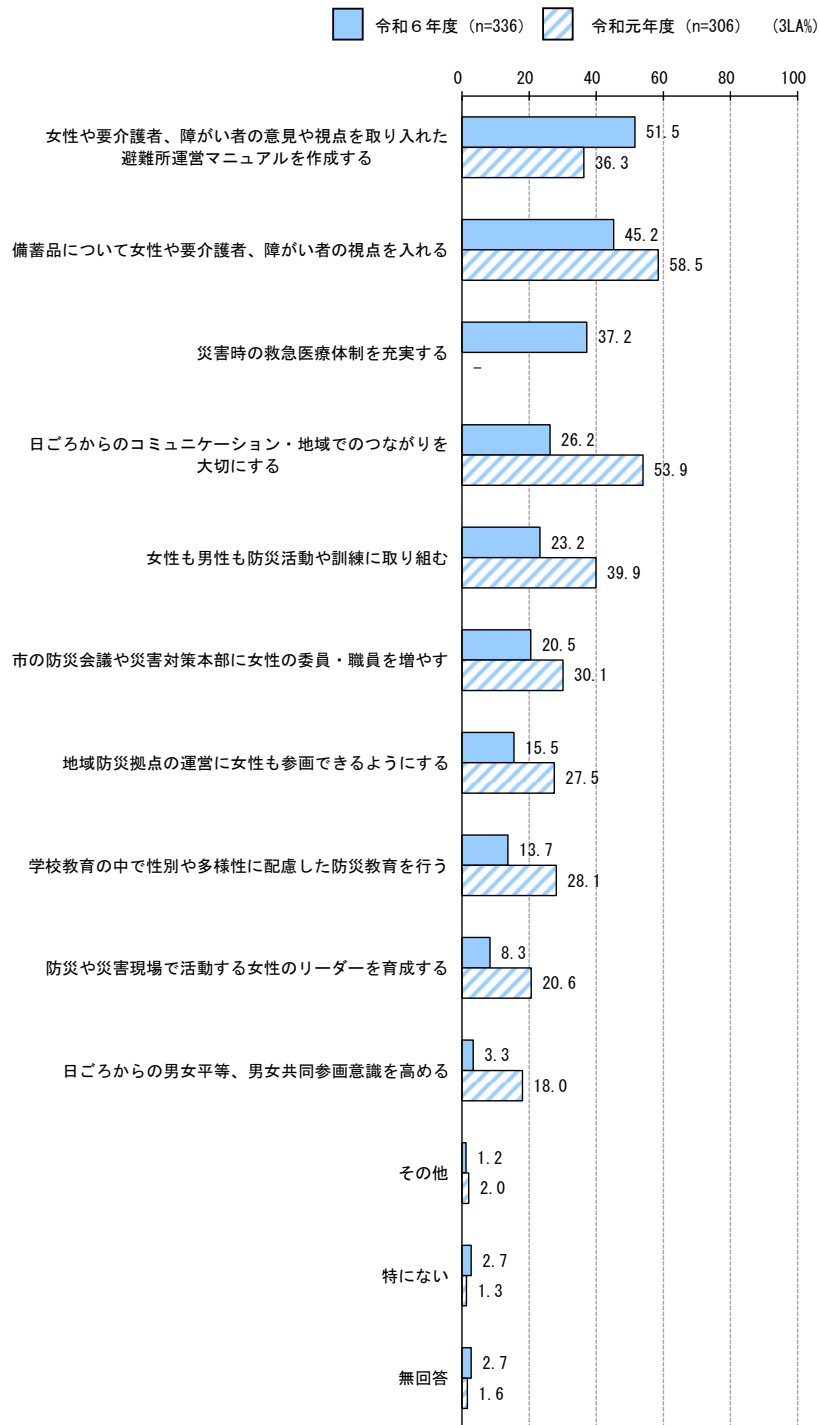
【防災・災害対策における性別・多様性への配慮の必要性】



Q8-2 災害に備えるため、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 【全体】**
- 必要な災害対策について、「女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」が51.5%で最も多く、次いで「備蓄品について女性や要介護者、障がい者の視点を入れる」が45.2%、「災害時の救急医療体制を充実する」が37.2%となっています。
 - 令和元年度調査と比べると、「女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」が多く、その他の項目は少なくなっています。

【必要な災害対策】



※ 「災害時の救急医療体制を充実する」は今回調査より追加。

【性別】

- 女性では、「女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」が61.0%で最も多く、次いで「備蓄品について女性や要介護者、障がい者の視点を入れる」が52.4%、「災害時の救急医療体制を充実する」が42.2%と、いずれも男性に比べても多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「備蓄品について女性や要介護者、障がい者の視点を入れる」が63.1%で最も多く、次いで「女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」が60.0%と、いずれも他の年齢層に比べても多くなっています。
- 60～69歳、70歳以上では、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が3割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	必要な災害対策(3LA)						
			を本市の増やす 防災性 画の議 委員・ 職対 員策	る性地域 も参防 画災 できる の運 営に す女	訓女 練性 にも 取男 り性 組も む防 災活 動や	を介備 入護蓄 れ者品 る、に 障がつ がいて 者女性 の視や 点要	れたの 作避 成難見 す所や 運視 営点 マを ニ取 ュリ ア入	する防 災性 の災 害 り 現場 で 活 動 を 育 成 す	充災 実害 す時 るの 救 急 医 療 体 制 を
全体		336	20.5	15.5	23.2	45.2	51.5	8.3	37.2
性別	男性	144	18.1	22.9	34.7	37.5	39.6	12.5	30.6
	女性	187	22.5	10.2	15.0	52.4	61.0	5.3	42.2
年齢	39歳以下	65	23.1	13.8	20.0	63.1	60.0	7.7	40.0
	40～59歳	99	24.2	20.2	22.2	46.5	54.5	8.1	27.3
	60～69歳	64	17.2	14.1	26.6	48.4	45.3	6.3	43.8
	70歳以上	105	18.1	13.3	23.8	31.4	46.7	10.5	40.0

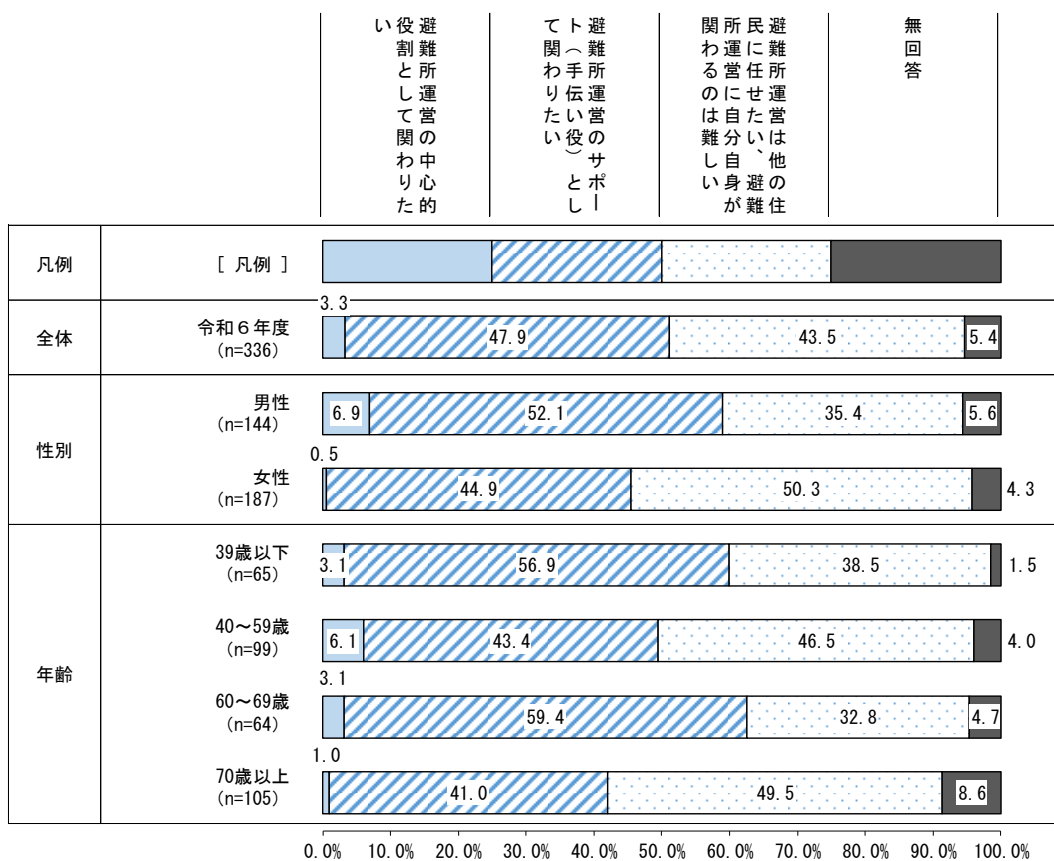
単位：%

		母数 (n)	必要な災害対策(3LA)					無 回 答
			なケ日 がーご りシろ をヨか を大ン にの す地 す域 での のニ つ	る男日 女共 同か 参ら 画の 意男 識女 を高 等、 高め	を様学 行性校 うに教 配育 慮の した 防性 災災 教別 育多	そ の 他	特 に な い	
全体		336	26.2	3.3	13.7	1.2	2.7	2.7
性別	男性	144	27.8	4.2	9.0	1.4	1.4	2.8
	女性	187	25.7	2.7	17.1	1.1	3.2	1.6
年齢	39歳以下	65	18.5	4.6	13.8	1.5	1.5	-
	40～59歳	99	20.2	3.0	15.2	1.0	3.0	2.0
	60～69歳	64	31.3	3.1	17.2	1.6	1.6	1.6
	70歳以上	105	34.3	2.9	10.5	1.0	3.8	4.8

Q8-3 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。(〇は1つ)

- 【全体】**
- 避難所運営への関わり意欲について、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が47.9%で最も多く、次いで「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」が43.5%、「避難所運営の中心的役割として関わりたい」が3.3%となっています。
- 【性別】**
- 男性では、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が52.1%と、女性の44.9%に比べて多くなっています。一方、女性では、「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」が50.3%となっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下、60～69歳では、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が約6割と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、40～59歳、70歳以上では、「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」が約5割となっています。

【避難所運営への関わり意欲】



※令和元年度調査…「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」39.5%
 (いくつでも選択可としていたため比較対象としていません。)

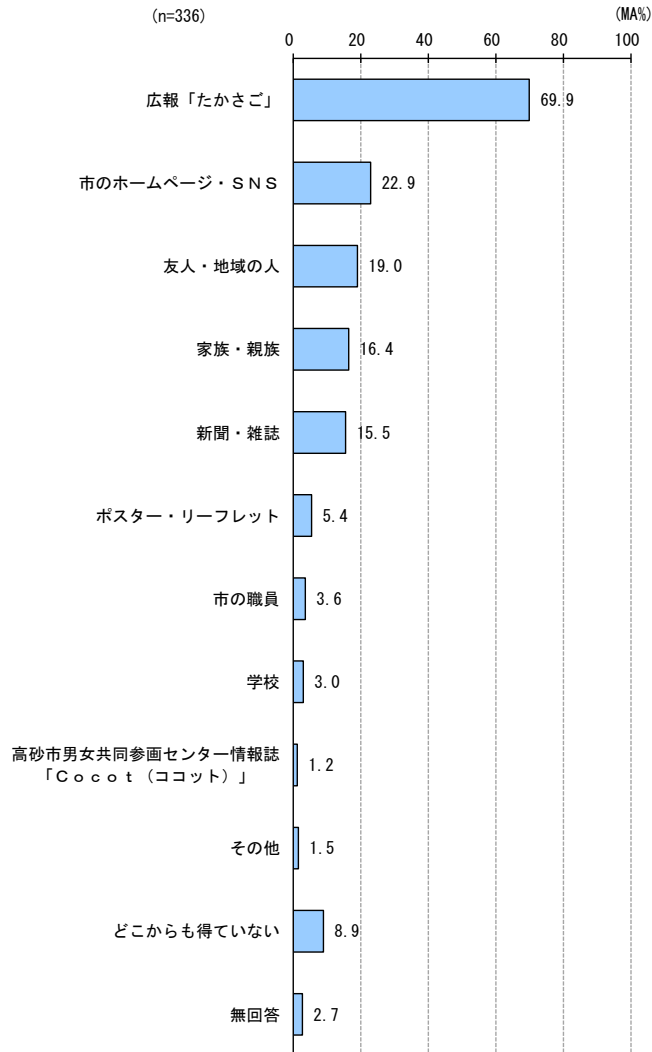
(9) さいごに

Q9-1 あなたは、相談窓口や市の事業や施策の情報を、主に何（だれ）から得ていますか。（〇はいくつでも）

【全体】

○ 情報の入手先について、「広報「たかさご」」が69.9%で最も多く、次いで「市のホームページ・SNS」が22.9%、「友人・地域の人」が19.0%となっています。

【情報の入手先】



【性別】

- 男性では、「広報「たかさご」」に次いで「新聞・雑誌」が20.1%となっています。一方、「どこからも得ていない」が13.2%と、女性の5.9%に比べて多くなっています。
- 女性では、「広報「たかさご」」が77.5%で最も多く、次いで「市のホームページ・SNS」が26.7%と、いずれも男性に比べても多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「広報「たかさご」」が40.0%で最も多くなっていますが他の年齢層に比べると少なく、「家族・親族」が29.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 39歳以下、40～59歳では、「どこからも得ていない」が1割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	情報の入手先(MA)					
			新聞・雑誌	ポスター・リーフレット	S市のホームページ・SNS	広報「たかさご」	高砂市男女共同参画センター情報誌「ココット」	市の職員
全体		336	15.5	5.4	22.9	69.9	1.2	3.6
性別	男性	144	20.1	5.6	18.1	60.4	1.4	3.5
	女性	187	11.8	5.3	26.7	77.5	1.1	3.7
年齢	39歳以下	65	7.7	7.7	23.1	40.0	-	3.1
	40～59歳	99	3.0	4.0	24.2	67.7	-	3.0
	60～69歳	64	15.6	9.4	34.4	84.4	3.1	9.4
	70歳以上	105	30.5	2.9	15.2	81.9	1.9	1.0

単位：%

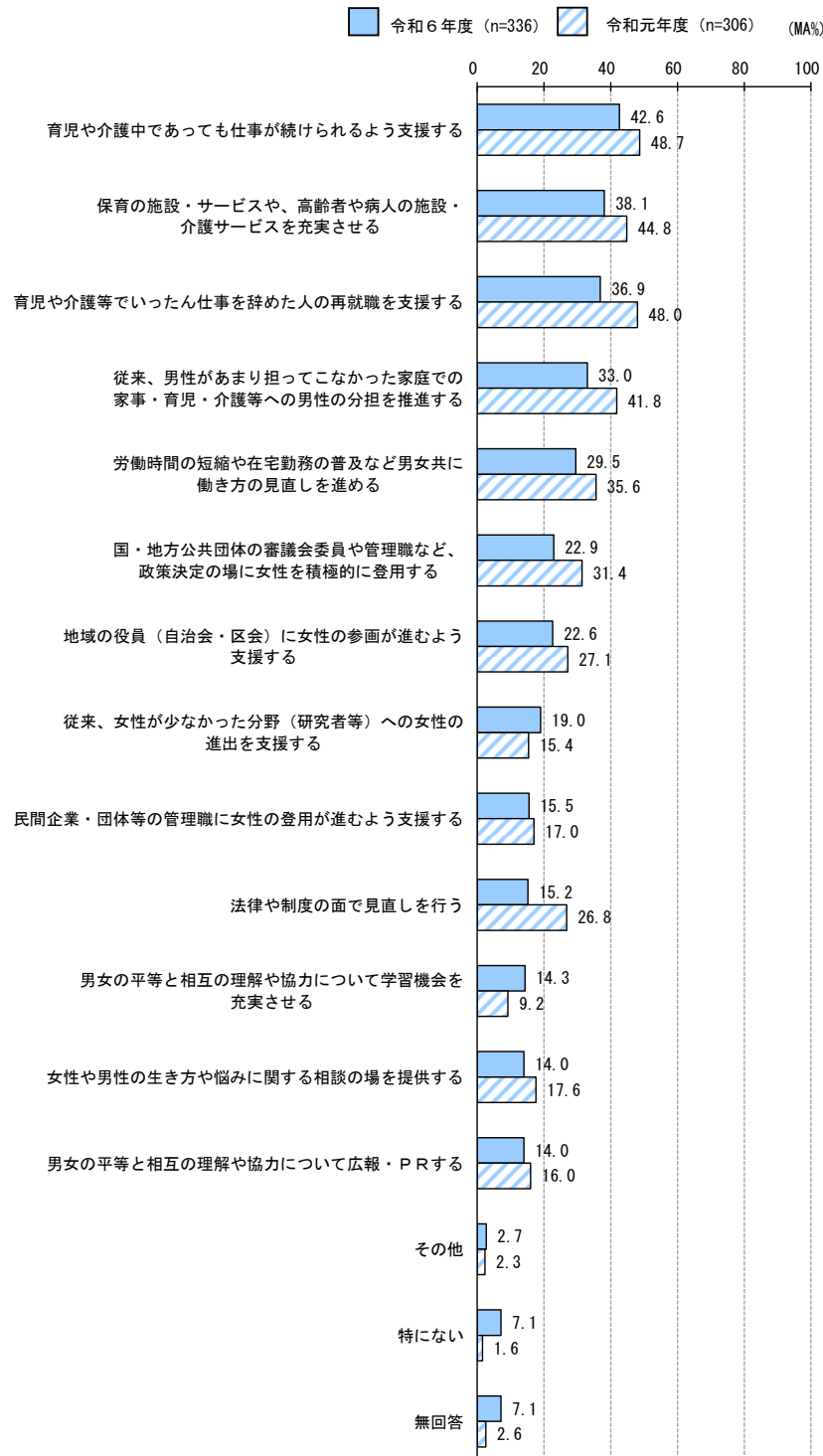
		母数 (n)	情報の入手先(MA)					
			家族・親族	友人・地域の人	学校	その他	どこからも得ていない	無回答
全体		336	16.4	19.0	3.0	1.5	8.9	2.7
性別	男性	144	16.7	18.1	3.5	2.8	13.2	2.8
	女性	187	16.6	20.3	2.7	0.5	5.9	1.6
年齢	39歳以下	65	29.2	16.9	6.2	1.5	16.9	-
	40～59歳	99	15.2	15.2	6.1	1.0	14.1	2.0
	60～69歳	64	7.8	21.9	-	1.6	-	1.6
	70歳以上	105	15.2	22.9	-	1.9	4.8	4.8

Q9-2 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきことについて、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が42.6%で最も多く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる」が38.1%、「育児や介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が36.9%となっています。
- 令和元年度調査と比べると、「男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる」「特にない」が多く、その他のほとんどの項目は少なくなっています。

【男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと】



【性別】

- 「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は、特に女性で46.5%と男性に比べて多くなっています。また、女性では、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる」が44.9%、「従来、男性があまり担ってこなかった家庭での家事・育児・介護等への男性の分担を推進する」「育児や介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が40.6%と、男性に比べて多くなっています。
- 男性では、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」「地域の役員（自治会・区会）に女性の参画が進むよう支援する」「民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する」が約2～3割と、女性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下では、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が60.0%で最も多く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」「育児や介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が46.2%と、いずれも他の年齢層に比べても多くなっています。
- 40～59歳、60～69歳、70歳以上では、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」「地域の役員（自治会・区会）に女性の参画が進むよう支援する」が2割以上と、39歳以下に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと(MA)											
			を法律や制度の面で見直し	政策的に決定するに女性を積極	国会委員や地方公共団体の審議	よ地域の役員(自治会・区)	う職民間企業・団体の管理	供み女性に関する相談の場を提	性分野の進出(研究等)への支	従来、女性が少ない	性事(育児)の推進	従来、男性があまり担	させ、高齢者や病人の施設・サービスを充	設や保育の施設・サービス
全体		336	15.2	22.9	22.6	15.5	14.0	19.0	33.0	38.1				
性別	男性	144	18.1	27.1	31.3	22.2	13.2	19.4	22.9	29.2				
	女性	187	13.4	20.3	16.6	10.7	15.0	19.3	40.6	44.9				
年齢	39歳以下	65	12.3	15.4	15.4	10.8	21.5	24.6	36.9	40.0				
	40～59歳	99	14.1	21.2	23.2	20.2	13.1	18.2	29.3	27.3				
	60～69歳	64	23.4	23.4	25.0	10.9	15.6	12.5	40.6	46.9				
	70歳以上	105	12.4	27.6	25.7	17.1	9.5	20.0	30.5	41.9				

単位：%

		母数 (n)	男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと(MA)									
			を男女の協力を促す	き務労働時間短縮や在宅勤務	援仕育の継続	を仕育の支援	Rや男女の協力	そ	特	無		
全体		336	14.3	29.5	42.6	36.9	14.0	2.7	7.1	7.1		
性別	男性	144	12.5	29.2	38.9	32.6	16.0	3.5	8.3	4.9		
	女性	187	15.5	29.9	46.5	40.6	12.8	2.1	6.4	7.5		
年齢	39歳以下	65	15.4	46.2	60.0	46.2	9.2	1.5	9.2	4.6		
	40～59歳	99	17.2	29.3	34.3	37.4	13.1	3.0	11.1	4.0		
	60～69歳	64	12.5	32.8	48.4	43.8	10.9	4.7	4.7	6.3		
	70歳以上	105	12.4	18.1	35.2	26.7	19.0	1.9	3.8	11.4		

Q9-3 男女共同参画の推進にあたり、ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

カテゴリー	件数
家庭内での役割について	3
女性の社会進出について	4
育児について	2
男女共同参画の推進について	12
アンケートについて	2
その他	6

・ 家庭内での役割について

ご意見	回答者の属性	
娘がフルタイムで働いていますが、婿は家事がほとんどできません。せめて野球のユニホームなど手洗いするように言っていますが、仕事をしていればいいと育ってきたので娘の負担が大きいです。私たち親の世代がこれからのことを考えて、男の子にも家の事をさせるという躰が大事だとつくづく思います（娘46才、母71才）。	女性	70歳以上
性別に関わらず、あらゆる場面において、相互に尊重し合う姿勢を持つこと自体は素晴らしいことであると考えます。しかし、あらゆる場面で対等である必要は必ずしもないと思います。なぜなら現在の我が国において、未だ亭主関白の色が特に高齢者に多いように感じます。当該年代の方たちが、男女が平等であると考えようになったことも一つの要因として、熟年離婚が増加傾向にあると考えています。その事象の善悪については判断できませんが、今後若い世代（特に労働人口の世代）にとって、負担が増加することは否めないと考えています。	男性	20～29歳
この調査をしている職員の方で結婚されている男性の方へ。この一週間の内（21回の食事の内）何回、自分でメニューを考え、買い物をして料理しましたか。何回、家の掃除、洗濯、ゴミの管理をしましたか。休日、奥さんがこどもの用事など何か自分のためではないことに時間を使っている間、自分だけは自分のために時間を使っていませんでしたか。答えは全てそこにあります。	女性	50～59歳

・女性の社会進出について

ご意見	回答者の属性	
女性の社会進出を目的とするのではなく、こどもにとって最も幸せであることを目的とすべき（小さなこどもがいる家庭において）。	男性	50～59歳
男女の賃金格差や役職問題については、正直仕方ないところがあると思います（男性のほうが長く働けたり、女性はこどもができたなら辞めたりしなければいけないところがあるので）。でもそれを“女性への賃金を増やす”ことで解決しないでほしいと思います。それをやるなら育休や介護休で申請できる補助金を増やしたり、市独自の制度があればいいなと思いました。また、役職に就きたい女性がいたら、積極的に採用するのはよいと思います。災害時などは女性からの観点があったりすると思うし、議会などでは高齢の男性が多いイメージがあるので、若い人の採用なども検討していただけたらと思います。	女性	20～29歳
勤め先で非正規から正規雇用への登用では男性が優遇され、結果非正規は女性のみ状態です。その状態が続き、女性がする業務は価値がないような固定観念があります。何か規則があればと思います（しばらくの間だけでも）。	女性	50～59歳
会社の考え方が古いのでどうしようもない。	女性	50～59歳

・育児について

ご意見	回答者の属性	
こどもを育てるうえでの金銭的支援（医療費、学費）に、保育サービスにもっと力を入れてください！今現在私は少子高齢化の社会において、こどもを育てたくても金銭的に諦める、こどもが進みたい進路に金銭的に進めないということが課題だと考えています。なので、男女共同参画を推進し、男女両方の考えを取り入れながら、上記に挙げた課題を解決してください。未来あるこどもの芽をつぶさないような政策を期待しています。	女性	20～29歳
保育の施設をもっと増やしてほしい。高砂市の情報をアプリやSNSで簡単に見れるように、申請できるようになると、仕事を早退、欠勤しなくてもよくなる。	女性	30～39歳

・男女共同参画の推進について

ご意見	回答者の属性	
どんなことでも「あ！高砂市ではこんなことに力を入れて行っているんだ」と思える状態を市民が感じ取れたら、とてもいいと思います。	女性	60～69歳
私が学生の頃に「男女共同参画社会」という言葉を習いました。それから20年近く経ちますが、未だ『実現するために今後、市はどのように・・・』と言っている遅さに驚きました。内容は20年かけてアップデートされているのでしょうか？今の時代、これから先10年、20年後を見据えた内容となっているのかが気になりました。	女性	30～39歳
高齢になってきたので、補助的に手伝いはする気はある。今の学校教育のあり方、道徳的なこともどんどん教えるべき。知識も大事だが、人間的なこと、情操教育、常識も教育の場で教えてほしい。	女性	70歳以上
男尊女卑の歴史が長いので、この男女共同参画の推進は地道に継続していく必要があるものと考えます。	男性	70歳以上

ご意見	回答者の属性	
市の発信する情報にどこで触れられるのかがわかっていないので、まずは目にする機会を増やしていただけたら嬉しいです。	女性	30～39歳
広い視野で取り組んでほしい。このテーマだけではなく、社会的な問題の解決も必要だと思います。	女性	40～49歳
性差による役割の偏りは幼少期に見た両親の姿や身近な大人の影響が大きいように思う。固定概念を変えようとするならば、次世代への働きかけを意識し、学校教育に取り入れてほしい。大人が変わることが1番有効だと思うが、今までの価値観を一新することは大人には難しい。こども、次世代の意識を正しい方向へ導く方が早い。家庭内の役割分担は、秋祭りの地域柄もあり、女性に偏りが出るのが多いと思う。青年団の活動に時間制限を設け、こちらも次世代からの改革に期待したい。	男性	30～39歳
他の市や県での施策で、参考になる具体的な例を知りたい。見方や考え方、積極的な参加が進む方向につながるように感じている。	男性	70歳以上
国が主に力を挙げて改革する。	男性	70歳以上
男女の枠にとらわれず、1人の人として対応できる社会が必要だと思う。男だから、女だからではなく能力の有無が必要。	男性	50～59歳
男女共同参画という言葉は知っているがどんなことをしているかよくわからない。もっとPRしていくべきではないでしょうか？	女性	50～59歳
自治体がする必要がない。国、県レベルで充分。	男性	60～69歳

・アンケートについて

ご意見	回答者の属性	
このアンケートをもとに課題を挙げ、具体的なNext Actionを出し実行し、それが目に見えるように、わかるようにしてほしいです。	女性	60～69歳
記載するのが面倒くさい。	男性	60～69歳

・その他

ご意見	回答者の属性	
今さら何を言ってるんですか？何も変わらないと思いますけど。	女性	70歳以上
自由に生きていけばいいと思う。	男性	20～29歳
2024年の現在、男女の差が大きくあるかどうか、わかりません。世間知らずかもしれませんが！少なくとも、私の周りには感じられないです。	男性	60～69歳
進化していく高砂市を期待しています！	女性	50～59歳
頑張ってください。	女性	18～19歳
高齢者であり、現状がよく理解していないことが多いので、適格な回答ができませんでした。田舎は特に社会通念、慣習にこだわりが強いので、なかなか難しい問題ではないかと思います。男女に区別なく、個人を尊重し、体力的、能力などで各々が活躍できる社会が来ることを切望します。	女性	70歳以上

3. 調査結果のまとめ

(1) 男女平等に対する意識について

① 男女平等意識

- 令和元年度調査と比べると男女平等と感じている人が多くなっている分野もあるが、政治の場や社会通念・慣習・しきたりにおいては依然として男性優遇と感じている人が多い。
- 家庭生活や地域では平等感に男女差が見られる。
- 39歳以下では、地域や政治の場についての関心が低いことがうかがえる。

- ・現在の日本の社会全体については、約7割の人が“男性優遇”と感じている。分野別に見ると、特に政治の場や社会通念・慣習・しきたりなどにおいて、“男性優遇”と感じている人が多くなっている。
- ・いずれの分野も男性に比べて女性で“男性優遇”と感じている人が多い。特に、家庭生活や地域については、男性では「平等である」と感じている人が多いのに対し、女性では“男性優遇”と感じている人が多い。
- ・地域、政治の場について、39歳以下では「わからない」が他の年齢層に比べて多い。
- ・日本の社会全体、家庭生活、職場、学校教育の場では、令和元年度調査と比べて「平等である」と感じている割合が多くなっている。

② 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対する意見

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」と考えない人は全体では7割以上。特に女性や39歳以下では強い反対意見を持つ人が多い。
- 女性では、固定的な役割分担意識に加え、仕事上で不利な条件に置かれるために「女性は家庭を守るべき」と考える人が多い。

- ・「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に対し、反対意見を持つ人が7割以上。特に、女性や39歳以下では強く反対する人が多い。
- ・一方、この考え方に賛同する理由としては、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」「男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから」「家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから」が多いが、女性の回答を見ると「女性は仕事を持ってても不利な条件に置かれるから」が最も多い。

③ 家庭内での男女の役割

- 家庭内での男女の役割への満足感は男女で差が見られ、男性のほうが高い。
- 家庭内で夫と妻が同程度担うことを理想とする人が多い事柄については、現状ではどちらかにやや偏りが見られる。
- 男女ともに自分のほうが多く役割を担っていると感じている。

- ・家庭内での男女の役割への満足感について、「満足している」は約6割となっているが、性別に見ると、男性では約8割であるのに対し、女性では約5割となっている。
- ・年齢が下がるにつれて満足している人が多くなる傾向が見られる。
- ・家計を支える（生活費を稼ぐ）、掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする、自治会・町内会などの地域活動を行う、育児、こどものしつけをする、こどもの教育方針や進学目標を決めるについては、夫と妻が同程度担うことを理想とする人が多いが、現状はどちらかにやや偏りがある場合が多い。
- ・現状の役割に対する認識には男女差が見られ、掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする、ゴミ出しなどの簡単な家事をする、自治会・町内会などの地域活動を行う、こどもの教育方針や進学目標を決めるについては、男性では夫が役割を担っていると思っている人が多く、女性では妻が役割を担っていると思っている人が多い。

④ 男女共同参画に関連することからの認知度

- ストーカー規制法、ドメスティック・バイオレンスの認知度は約9割と高い。一方、市の計画や施設、情報誌の認知度は約2割。
- ワーク・ライフ・バランス、LGBTQ+は年齢が下がるにつれて認知度が高くなる。

- ・ストーカー規制法は約5割、ドメスティック・バイオレンスは約6割が「言葉も内容も知っている」と回答しており、「言葉だけ見聞きしたことがある」と合わせると約9割の認知度となっている。
- ・男女共同参画社会、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法については、「言葉も内容も知っている」は約1～2割と少ないが、認知度は約7～8割となっている。
- ・たかさご男女共同参画プラン、高砂市男女共同参画センターは約3割、高砂市男女共同参画センター情報誌「Cocot（ココット）」は約2割の認知度となっている。いずれも60～69歳では認知度が高い。
- ・ワーク・ライフ・バランス、LGBTQ+は、年齢が下がるにつれて「言葉も内容も知っている」が多くなる傾向が見られる。

(2) 女性の社会進出について

- 女性が働きやすい社会であると思う人は約6割と令和元年度調査と比べるとやや多くなっているものの、当事者である女性ではそう思わない人が約5割。
- 女性の就業に賛成する人が約8割。
- 女性が働く上では「育児との両立に対する支援の不足」が障害になっていると感じる人多く、特に39歳以下では約8割。

- ・現在の社会は女性が働きやすい状況にあると“思う”は約6割。令和元年度調査と比べるとやや多くなっている。しかし、男女差があり、女性では働きやすい状況にあるとは“思わない”が約5割と多い。
- ・女性の就業については、「こどもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が約5割で最も多く、次いで「こどもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び仕事に就くほうがよい」が約3割と、賛成意見が約8割。特に女性では「こどもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が約5割と男性よりも多い。
- ・女性が働く上では、「育児との両立に対する支援の不足」「介護との両立に対する支援の不足」「結婚・出産退職等の慣行」が障害になっていると感じる人が多い。特に39歳以下で「育児との両立に対する支援の不足」と回答した人は約8割。

(3) 男性の家事・育児などへの参加について

- 男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるためには、夫婦や家族間でのコミュニケーションが必要であるほか、男性自身や夫婦以外のまわりの人の意識改革が必要。
- 当事者である男性からは、上記のほか、仕事以外の時間を多く持つための制度の普及が求められている。

- ・男性の家庭生活・地域活動への参加を進めるために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が約5割で最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない」がともに約4割。
- ・男性では、「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が約4割。

(4) ワーク・ライフ・バランスについて

- 現状よりもプライベート・家庭生活の優先度を上げて生活したいと考えている人が多く、特に女性でよりプライベート・家庭生活を優先したい意向がうかがえる。

- ・ワーク・ライフ・バランスについて、現状では「仕事を優先」「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がともに約3割となっているが、理想では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が約6割と、現状と理想に差が見られる。
- ・就業者を見ると、現状「仕事を優先」が男性では約4割、女性では約3割となっているが、理想では男女ともに「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が約6～7割となっている。さらに、女性の理想では「プライベート・家庭生活を優先」が約3割となっている。

(5) DV、セクシュアル・ハラスメントについて

- DV、セクハラ被害にあったことがある人は約1割。
- DV被害にあったときに相談をしなかった人が約4割、セクハラ被害にあったときに仕方がないと思い何もしなかった人が3割以上。
- 匿名性、24時間相談できること、無料の支援が求められている。

- ・何らかのDV被害にあったことがある人は約1割。分野別に見ると、身体的暴力、精神的暴力が多い。まわりの人でのDV被害は、身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、社会的暴力で1割以上となっている。
- ・DV被害にあったときの対応について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が約4割で最も多い。
- ・セクハラ被害を自身が受けたことがある人は約1割。
- ・セクハラ被害にあったときの対応について、「仕方がないと思い、何もしなかった」が約3割で最も多い。
- ・相談窓口で配慮してほしいことについて、「匿名で相談ができる」「医療費・カウンセリング費用・弁護士費用などについて無料で支援が受けられる」「24時間相談ができる」が約4～5割と多い。女性では、「同性の相談員がいる」「心理専門職の相談員がいる」ことも求められている。39歳以下、40～59歳では、「メールによる相談ができる」「チャット・SNSによる相談ができる」も多い。

(6) 地域活動について

- 地域活動について、定期的に参加している人は約2割。特に男性の関心が低い。
- 39歳以下では関心は低いものの、地域活動に関する情報の周知や育児・介護の支援があれば参加につながる可能性がある。
- 地域活動においては、男性が役職につくべきとの固定観念があると感じている人が約5割。

- ・地域活動への参加状況について、「過去に参加していたが現在は参加していない」が約3割で最も多く、次いで「関心がない」「定期的に参加している」がともに約2割。
- ・男性では「関心がない」が女性よりも多い。一方、女性では、「過去に参加していたが現在は参加していない」が約4割と多い。
- ・39歳以下では「関心がない」が約4割と多い一方、地域活動に参加する上での障害について、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が約4割、「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」が約3割と多い。
- ・地域活動において女性が役職につくことが少ない理由について、「自治会長などの役職につくのは男性であるべきという固定観念があるから」が約5割で最も多く、次いで「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」が約4割となっている。

(7) 防災・災害復興対策について

- 防災・災害対策において性別・多様性への配慮が必要と感じている人は約9割。女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた災害対策が必要とされている。
- 避難所運営にサポート（手伝い役）として関わりたいと考えている人や約5割で、特に男性が多い。

- ・ 防災・災害対策における性別・多様性への配慮について、必要があると感じている人は約9割。
- ・ 必要な災害対策について、「女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」「備蓄品について女性や要介護者、障がい者の視点を入れる」がともに約5割と多い。
- ・ 避難所運営への関わり意欲について、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が約5割で最も多く、特に男性が多い。

(8) さいごに

- 広報「たかさご」が約7割と主な入手先となっているが、年齢によって差があり、39歳以下では4割と少ない。
- 男女共同参画社会実現のために、育児や介護を行っている人への就業支援、施設・サービスといった受け皿の充実が求められている。

- ・ 相談窓口や市の事業・施策の情報は、「広報「たかさご」」が約7割で最も多く、次いで「市のホームページ・SNS」「友人・地域の人」がともに約2割となっている。
- ・ 39歳以下では、「広報「たかさご」」が約4割で最も多いものの他の年齢層に比べると少なく、「家族・親族」が約3割と多い。39歳以下、40～59歳では、「どこからも得ていない」が1割以上と多い。
- ・ 男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきことについて、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる」「育児や介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が約4割と多い。

高砂市 男女共同参画に関する市民意識調査

【調査ご協力をお願い】

市民の皆さまには、日頃から市政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に対等に参画できる男女共同参画社会の実現に向けて取り組みを進めています。来年度に現計画の期間が満了することに伴い、令和8年度から5年間を計画期間とする「第4次たかさご男女共同参画プラン」を策定します。このアンケート調査は、本市にお住まいの18歳以上の方の中から無作為抽出による1,000人の方に回答をお願いし、プラン策定に活用してまいりたいと考えています。

お答えいただいた内容はすべて統計的に処理し、個々の内容を公表することはありません。つきましては、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年9月

高砂市長 都倉 達殊

調査票記入後は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、
10月11日(金)までに投函してください。

インターネットからもご回答いただけます

下記 URL もしくは右記 QR コードを読み取って回答ページにアクセスしてください。

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/R6takasago2/danjokyodo/>



※インターネットで回答した方は調査票の返送は不要です。

【お問い合わせ先】

高砂市 福祉部 人権福祉室 人権推進課 男女共同参画センター
TEL (079)443-9133(直通) FAX (079)442-2229

ご記入にあたってのお願い

1. お名前のご記入は不要です。
2. 封筒の宛名の方ご本人がお答えください。ご本人による記入が難しい場合は、代理の方にご記入いただいても構いません。
3. 黒の鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
4. 回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。「その他」の場合は、その番号に○をつけ、()内に具体的に記入してください。○をつける数は設問ごとに記載しています。

1 あなたのことについて

1-1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

※自認する性でお答えください。

※「3 その他」には「どちらでもない」「わからない」などを含みます。

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

1-2 あなたの令和6年8月1日現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

1 18～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳	4 40～49歳
5 50～59歳	6 60～69歳	7 70歳以上	

1-3 あなたのお住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

1 高砂地区	2 荒井地区	3 伊保地区	4 中筋地区
5 曾根地区	6 米田地区	7 阿弥陀地区	8 北浜地区
9 わからない ⇒地区がご不明の場合は住所をご記入ください(町 丁目)			

1-4 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1 勤め人(常勤・フルタイム)	2 勤め人(非常勤/パート・アルバイトなど)
3 自営業(家庭内職者を含む)	
4 家族従事者(自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に従事している)	
5 学生	6 専業主婦・専業主夫
7 無職	8 その他()

1-5 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

1 結婚している ⇒ 1-5-1 ハ
2 婚姻届を提出していないが、パートナーと暮らしている ⇒ 1-5-1 ハ (事実上の婚姻状態にある)
3 過去に結婚していたが、離別・死別した ⇒ 1-6 ハ
4 結婚していない ⇒ 1-6 ハ

1-5 で「1」「2」と答えた方にお伺いします

1-5-1 あなたの配偶者等の職業を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1 勤め人 (常勤・フルタイム) | 2 勤め人 (非常勤/パート・アルバイトなど) |
| 3 自営業 (家庭内職者を含む) | |
| 4 家族従事者 (自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に従事している) | |
| 5 学生 | 6 専業主婦・専業主夫 |
| 7 無職 | 8 その他 () |

1-6 あなたが現在、同居しているご家族をお答えください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 配偶者 (事実婚を含む) | 2 こども (こどもの配偶者を含む) |
| 3 親 (配偶者の親を含む) | 4 孫 (孫の配偶者を含む) |
| 5 兄弟・姉妹 | 6 その他 () |
| 7 同居している家族はいない (ひとり暮らし) | |

1-7 あなたには、18歳以下のお子さんがいますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 いる ⇒ 1-7-1 へ | 2 いない ⇒ 1-8 へ |
|----------------|---------------|

1-7 で「1」と答えた方にお伺いします

1-7-1 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 乳児 (1歳未満) | 2 幼児 (1歳～小学校入学前) |
| 3 小学生 | 4 中学生 |
| 5 中学卒業～18歳 | |

1-8 あなたの同居している家族の中には、日常的に介護を必要とする人がいますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

1-9 現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|-------|
| 1 大変苦しい | 2 やや苦しい | 3 ふつう |
| 4 ややゆとりがある | 5 大変ゆとりがある | |

2 男女平等に対する意識について

2-1 あなたは、現在の日本の社会全体や各分野で男女が平等であると思いますか。①～⑧のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	優遇が非常に男性がされている	どちらかといえは男性が優遇されている	平等である	どちらかといえは女性が優遇されている	優遇が非常に女性がされている	わからない
記入例	1	2	3	4	5	6
① 現在の日本の社会全体	1	2	3	4	5	6
② 家庭生活	1	2	3	4	5	6
③ 職場	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 地域(自治会・自主防災会・NPO など)	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6

2-2 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように思いますか。(○は1つ)

1 そう思う ⇒ 2-2-1	2 ややそう思う ⇒ 2-2-1
3 あまりそう思わない ⇒ 2-3	4 そう思わない ⇒ 2-3

2-2 で「1」「2」と答えた方にお伺いします

2-2-1 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」と考える理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
2 家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから
3 こどもの頃からそうした教育をされているから
4 女性は仕事を持って不利な条件に置かれるから
5 男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから
6 社会全体にそうした風潮があるから
7 その他 ()

2-3 あなたの家庭内での男女の役割について、どのように感じていますか。(○は1つ)

1 満足している	2 満足していない
----------	-----------

1-5 で「1」(結婚している)「2」(パートナーと暮らしている)と答えた方にお伺いします

2-4 あなたの家庭では、次にあげる役割を主にどなたが分担していますか。①～

⑨のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	夫	妻も主に夫だが、	同程度 夫と妻が	夫も主に妻だが、	妻	その他の人
① 家計を支える(生活費を稼ぐ)	1	2	3	4	5	6
② 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする	1	2	3	4	5	6
③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする	1	2	3	4	5	6
④ 日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5	6
⑤ 自治会・町内会などの地域活動を行う	1	2	3	4	5	6
⑥ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6
※以下⑦～⑨は質問の対象となる子どもや親がいない場合は回答不要です。						
⑦ 育児、こどものしつけをする	1	2	3	4	5	6
⑧ こどもの教育方針や進学目標を決める	1	2	3	4	5	6
⑨ 親の世話(介護)をする	1	2	3	4	5	6

1-5 で「1」(結婚している)「2」(パートナーと暮らしている)と答えた方にお伺いします

2-5 家庭における役割分担について、あなたの**理想**(本当はこうしたい)に近い

ものはどれですか。①～⑨のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	夫	妻も主に夫だが、	同程度 夫と妻が	夫も主に妻だが、	妻	その他の人
① 家計を支える(生活費を稼ぐ)	1	2	3	4	5	6
② 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする	1	2	3	4	5	6
③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする	1	2	3	4	5	6
④ 日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5	6
⑤ 自治会・町内会などの地域活動を行う	1	2	3	4	5	6
⑥ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6
※以下⑦～⑨は質問の対象となる子どもや親がいない場合は回答不要です。						
⑦ 育児、こどものしつけをする	1	2	3	4	5	6
⑧ こどもの教育方針や進学目標を決める	1	2	3	4	5	6
⑨ 親の世話(介護)をする	1	2	3	4	5	6

全員にお伺いします

2-6 あなたは次にあげる男女共同参画に関連することがらについて、ご存じですか。①～⑯のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	知言葉も内容も っている	こと見言葉 聞きだけは がある	全く言葉も 知らない 内容も
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)	1	2	3
④ 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3
⑤ 育児・介護休業法(育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)	1	2	3
⑥ ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)	1	2	3
⑦ DV 防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1	2	3
⑧ 困難女性支援法(困難な問題を抱える女性への支援に関する法律)	1	2	3
⑨ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
⑩ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
⑪ ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3
⑫ デート DV	1	2	3
⑬ LGBTQ+	1	2	3
⑭ たかさご男女共同参画プラン	1	2	3
⑮ 高砂市男女共同参画センター	1	2	3
⑯ 高砂市男女共同参画センター情報誌「Cocot(ココット)」	1	2	3

3 女性の社会進出について

3-1 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○は1つ)

- 1 大変働きやすい状況にあると思う 2 ある程度働きやすい状況にあると思う
3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない 4 働きやすい状況にあるとは思わない

3-2 あなたは、女性が仕事に就くことについてどうお考えですか。(○は1つ)

- 1 女性は仕事に就かないほうがよい
2 結婚するまでは仕事に就くほうがよい
3 こどもができてからは、仕事に就くほうがよい
4 こどもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び仕事に就くほうがよい
5 こどもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい
6 その他 ()

6 DV、セクシュアル・ハラスメントについて

6-1 あなたは、配偶者またはパートナーから次のような行為を受けたことがありますか。また、あなたのまわりでそのような被害にあった人はいますか。あなた自身、まわりの人について、①～⑥のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	あなた自身		まわりの人	
	ある	ない	ある	ない
記入例	1	2	1	2
① なぐる、ける、物を投げる等の身体的暴力	1	2	1	2
② おどす、ののしる、無視する等の精神的暴力	1	2	1	2
③ 性交渉を強要するなどの性暴力	1	2	1	2
④ 生活費を出さない、持っていく等の経済的暴力	1	2	1	2
⑤ 外出や人との付き合いを制限する等の社会的暴力	1	2	1	2
⑥ その他(具体的に:)	1	2	1	2

6-1の①～⑥でいずれか1つでも「1」と答えた方にお伺いします

6-1-1 あなた自身やまわりの人が配偶者またはパートナーから暴力(DV)を受けたとき、あるいはその後、あなたはどのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

- 1 配偶者暴力相談支援センター(兵庫県女性家庭センターなど)に相談した
- 2 警察に連絡・相談した
- 3 法務局・地方法務局、人権擁護委員ようごに相談した
- 4 上記(1～3)以外の公的な機関(市役所など)に相談した
- 5 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど)に相談した
- 6 医療関係者(医師、看護師など)に相談した
- 7 学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)に相談した
- 8 家族や親戚に相談した
- 9 友人・知人に相談した
- 10 その他()
- 11 どこ(だれ)にも相談しなかった(理由:)

6-2 あなたは、セクシュアル・ハラスメント(セクハラ・性的嫌がらせ)を受けたことがありますか。また、あなたのまわりでそのような被害にあった人はいますか。
(○は1つ)

- 1 自身が受けたことがある ⇒ 6-2-1 ハ
- 2 自身が受けたことはないが、身近な人が受けていたのを知っている ⇒ 6-2-1 ハ
- 3 身近な人ではないが、そうした話を聞いたことはある ⇒ 6-3 ハ
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている ⇒ 6-3 ハ
- 5 問題になっていることを知らない ⇒ 6-3 ハ

6-2 で「1」「2」と答えた方にお伺いします

6-2-1 あなた自身やまわりの方がセクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、あなたはどのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

- 1 セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した
- 2 家族や身近な人、友人に相談した
- 3 公的な相談機関(市の相談窓口、県女性相談センター等)に相談した
- 4 勤め先の担当者に相談した
- 5 警察等に訴えた
- 6 仕方がないと思い、何もしなかった
- 7 怖くて何もできなかった
- 8 世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった
- 9 その他 ()

6-3 あなたが、DV や性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどの暴力や悩みなどに関する相談窓口において配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 メールによる相談ができる
- 2 チャット・SNSによる相談ができる
- 3 電話による相談ができる
- 4 通話料無料で相談ができる
- 5 24時間相談ができる
- 6 医療費・カウンセリング費用・弁護士費用などについて無料で支援が受けられる
- 7 相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われる
- 8 同性の相談員がいる
- 9 匿名で相談ができる
- 10 法的知識のある相談員がいる
- 11 心理専門職の相談員がいる
- 12 DV や性暴力に関する専門の相談員がいる
- 13 その他 ()

7 地域活動について

7-1 あなたは、お住まいの地区の自治会やコミュニティ組織などによる「地域活動」(自治会・PTA 活動、趣味等のグループ活動、社会福祉に関する活動、子ども会などの青少年育成活動、交通安全に関する活動など)に参加されたことがありますか。(○は1つ)

- 1 定期的に参加している
- 2 参加したことがあり、機会があればまた参加したい
- 3 参加したことはないが、きっかけがあれば参加してみたい
- 4 過去に参加していたが現在は参加していない
- 5 関心がない

7-2 あなたが現在(あるいは今後)、地域活動に参加しようとするとき、何か障害になることがありますか。(○はいくつでも)

- 1 仕事が忙しく、時間がない
- 2 家事・育児・介護が忙しく、時間がない
- 3 こどもの世話を頼めるところがない
- 4 親や病人の介護を頼めるところがない
- 5 自分の健康や体力に自信がない
- 6 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない
- 7 身近なところに活動する場所がない
- 8 経済的な余裕がない
- 9 家族の理解が得られない
- 10 職場の上司や同僚の理解が得られない
- 11 その他 ()
- 12 特にない

7-3 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。この主な理由は何だと思えますか。(○は3つまで)

- 1 女性自身が長などの役職につくのに消極的だから
- 2 家族の理解や協力が得られないから
- 3 自治会長などの役職につくのは男性であるべきという固定観念があるから
- 4 体力や運動能力において性差があるから
- 5 活動時間帯が女性に合っていないから
- 6 リーダーシップをとれる女性が少ないから
- 7 世間一般から快く思われないから
- 8 その他 ()

8 防災・災害復興対策について

8-1 防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した対応が必要だと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 必要がある | 2 どちらかといえば必要がある |
| 3 どちらかといえば必要ない | 4 必要ない |

8-2 災害に備えるため、これからどのような施策が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|--|
| 1 市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす |
| 2 地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする |
| 3 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む |
| 4 備蓄品について女性や要介護者、障がい者の視点を入れる |
| 5 女性や要介護者、障がい者の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する(男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等の避難所の設備の検討も含む) |
| 6 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する |
| 7 災害時の救急医療体制(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制)を充実する |
| 8 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする |
| 9 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める |
| 10 学校教育の中で性別や多様性に配慮した防災教育を行う |
| 11 その他() |
| 12 特にない |

8-3 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。(○は1つ)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 避難所運営の中心的役割として関わりたい |
| 2 避難所運営のサポート(手伝い役)として関わりたい |
| 3 避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身に関わるのは難しい |

9 さいごに

9-1 あなたは、相談窓口や市の事業や施策の情報を、主に何(だれ)から得ていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1 新聞・雑誌 | 2 ポスター・リーフレット |
| 3 市のホームページ・SNS | 4 広報「たかさご」 |
| 5 高砂市男女共同参画センター情報誌「Cocot(ココット)」 | |
| 6 市の職員 | 7 家族・親族 |
| 8 友人・地域の人 | 9 学校 |
| 10 その他() | 11 どこからも得ていない |

